

地域福祉に関する地域活動実践者等への アンケート調査結果報告書

令和3年10月

久喜市・社会福祉法人久喜市社会福祉協議会

目 次

1 調査概要	
（1）調査の目的	・・・・・・・・・・P 1
（2）調査の概要	
（3）回収結果	
（4）分析・表示について	
2 調査結果 <Ⅰ 地域活動実践者>	・・・・・・・・・・P 3
（1）回答者の属性について	・・・・・・・・・・P 3
（2）地域福祉の進捗状況に関すること	・・・・・・・・・・P 5
（3）地域の課題に関すること	・・・・・・・・・・P 1 2
（4）今後の地域福祉の推進について	・・・・・・・・・・P 1 7
3 グループワークでの意見	・・・・・・・・・・P 7 1
4 調査結果 <Ⅱ 専門職>	・・・・・・・・・・P 7 3
（1）回答者の属性について	・・・・・・・・・・P 7 3
（2）地域福祉の進捗状況に関すること	・・・・・・・・・・P 7 4
（3）地域の課題に関すること	・・・・・・・・・・P 7 6
（4）今後の地域福祉の推進について	・・・・・・・・・・P 8 1
5 資料	
アンケート調査票（地域活動実践者向け）	・・・・・・・・・・P 8 7
アンケート調査票（専門職向け）	・・・・・・・・・・P 9 1

地域活動実践者等へのアンケート調査 実施結果

1 調査概要

(1) 調査の目的

地域活動実践者に対して、地域福祉に関する意向や変化、今後の展望に対する意見を把握し、第3次地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定に役立てる。

(2) 調査の概要

	I 地域活動実践者	II 専門職
調査対象者	① 民生委員・児童委員 ② 福祉委員 ③ くき元気サービス協力会員 ④ 登録ボランティアグループ ⑤ 登録個人ボランティア ⑥ ふれあい・いきいきサロン ⑦ 地区コミュニティ協議会	市内福祉サービス事業所等の福祉に関わる専門職 (居宅介護支援事業所、介護保険サービス事業所・施設、障がい児者福祉サービス事業所・施設、子育て支援機関・施設、病院、薬局等)
調査方法	郵送による配布・回収 ③④は会議・研修の機会にグループワークを実施	郵送による配布・回収
配布数	1, 203	176事業所
回収数	687	89事業所
回収率	57.1%	50.6%
調査時期	令和3年7月中旬～9月17日	令和3年8月23日～9月15日

(3) 回収結果

< I 地域活動実践者 >

対 象	依頼数 (人)	回収数	回収率
民生委員・児童委員	268	251	93.7%
福祉委員	274	112	40.9%
くき元気サービス協力会員	148	51	34.5%
登録ボランティアグループ	79	49	62.0%
登録個人ボランティア	171	54	31.6%
ふれあい・いきいきサロン	155	102	65.8%
地区コミュニティ協議会	108	68	63.0%
合 計	1, 203	687	57.1%

< II 専門職 >

対 象	依頼数	回収数	回収率
居宅介護支援事業所	31	14	45.2%
介護保険サービス事業所・施設	60	27	45.0%
障がい児者福祉サービス事業所・施設	24	15	62.5%
子育て支援機関・施設	21	13	61.9%
病院・薬局	38	16	42.1%
その他	2	2	100%
無回答		2	
合 計	176	89	50.6%

< グループワーク >

対 象	実施日・会場	参加者数
くき元気サービス 協力会員研修会	令和3年7月19日（月） ふれあいセンター久喜	14人
登録ボランティアグループ 代表者会議	令和3年7月13日（火） 菖蒲文化会館	11団体12人
	令和3年7月15日（木） ふれあいセンター久喜	22団体21人
合 計		47人

【内容】「久喜市全体で、ボランティア活動を活発にするためには誰が何を
していくことが望ましいか」について、5人程度のグループに分かれて検討した。

(4) 分析・表示について

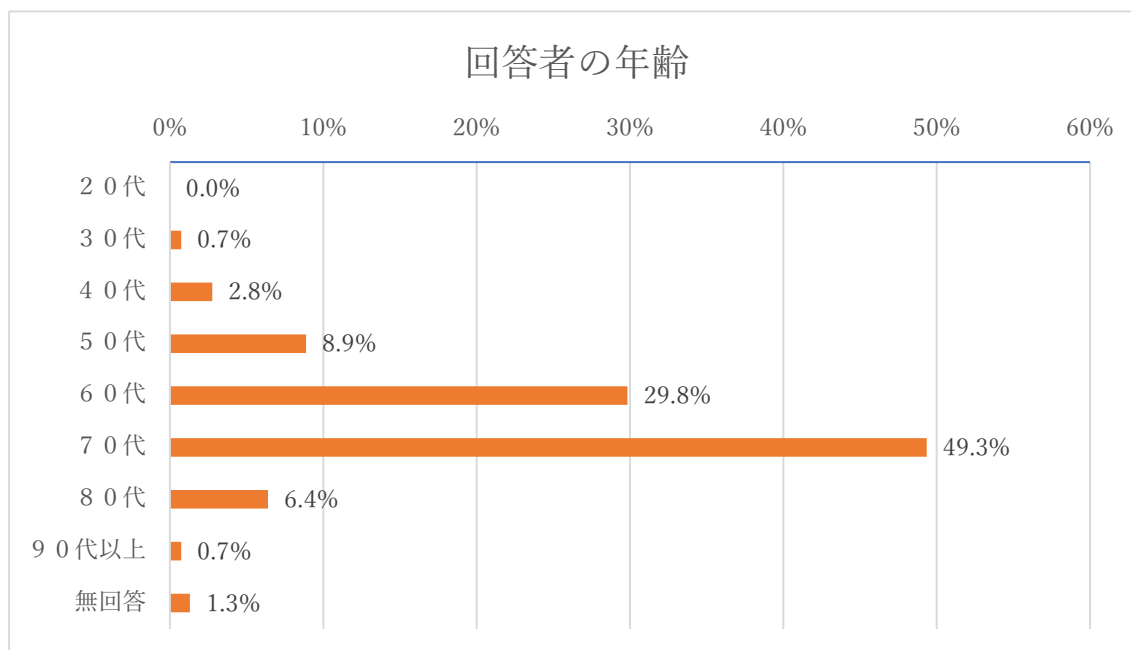
- ・ 比率は、小数点以下第2位を四捨五入しています。このため、比率が0.05未満の場合には0.0と表記しています。また、合計が100.0%にならないこともあります。
- ・ 複数回答の項目については、原則として、その項目に対しての有効回答者数の数を基礎とし、比率算出を行っています。このため、比率計が100%を超えることがあります。
- ・ 報告書中の文章やグラフにおいて、設問や選択肢の一部を省略して記載している場合があります。
- ・ グラフの（n：○○）という表記は、その項目の有効回答者数で、比率算出の基礎となります。
- ・ 地区別の集計は、「くき元気サービス協力会員」「登録ボランティアグループ」「登録個人ボランティア」「地区コミュニティ協議会」を除く、「民生委員・児童委員」「福祉委員」「ふれあい・いきいきサロン」の活動者を対象に行っています。また、各活動者の登録人数差があるため、地区人口の割合とは一致していません。

2 調査結果 < I 地域活動実践者 >

(1) 回答者の属性について

問8 あなたの年齢は？ (○は1つ)

回答者の年齢は多い順に「70代」49.3%、「60代」29.8%、「50代」8.9%、「80代」6.4%、「40代」2.8%、「30代」「90代以上」0.7%となっています。「20代」の回答はありませんでした。



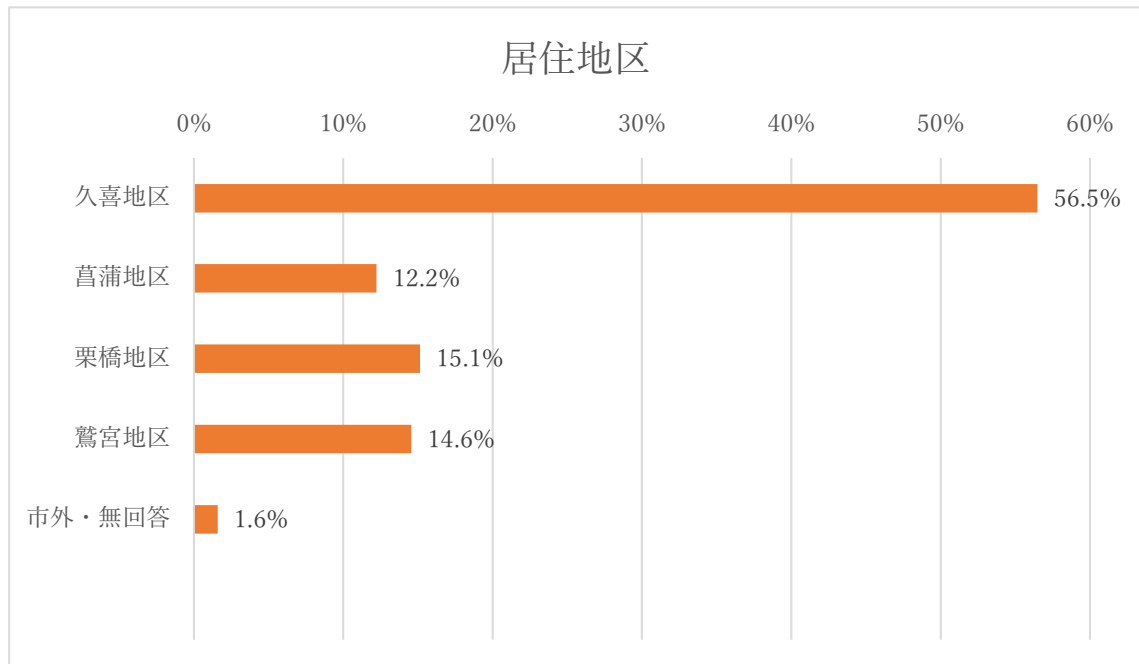
■年 齢

(単位：人)

	合計 (n)	比率	民生 委員	福祉 委員	協力 会員	登録 団体	登録 個人	サロン	コミ協
20代	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30代	5	0.7	1	0	0	0	3	0	1
40代	19	2.8	6	3	3	0	3	0	4
50代	61	8.9	33	5	3	4	6	3	7
60代	205	29.8	103	28	16	12	16	17	13
70代	339	49.3	108	64	22	24	23	63	35
80代	44	6.4	0	12	5	5	3	13	6
90代以上	5	0.7	0	0	0	0	0	5	0
無回答	9	1.3	0	0	2	4	0	1	2
全 体	687		251	112	51	49	54	102	68

問9 あなたの現在のお住まいの地区は？（○は1つ）

居住地区は、「久喜地区」56.5%、「菖蒲地区」12.2%、「栗橋地区」15.1%、「鷺宮地区」14.6%となっています。



■居住地区

(単位：人)

	合計 (n)	比率	民生 委員	福祉 委員	協力 会員	登録 団体	登録 個人	サロン	コミ協
久喜地区	388	56.5	121	64	24	28	27	57	67
菖蒲地区	84	12.2	43	22	0	8	5	6	0
栗橋地区	104	15.1	46	12	10	5	11	20	0
鷺宮地区	100	14.6	41	14	15	3	8	19	0
市外・無回答	11	1.6	0	0	2	5	3	0	1
全体	687		251	112	51	49	54	102	68

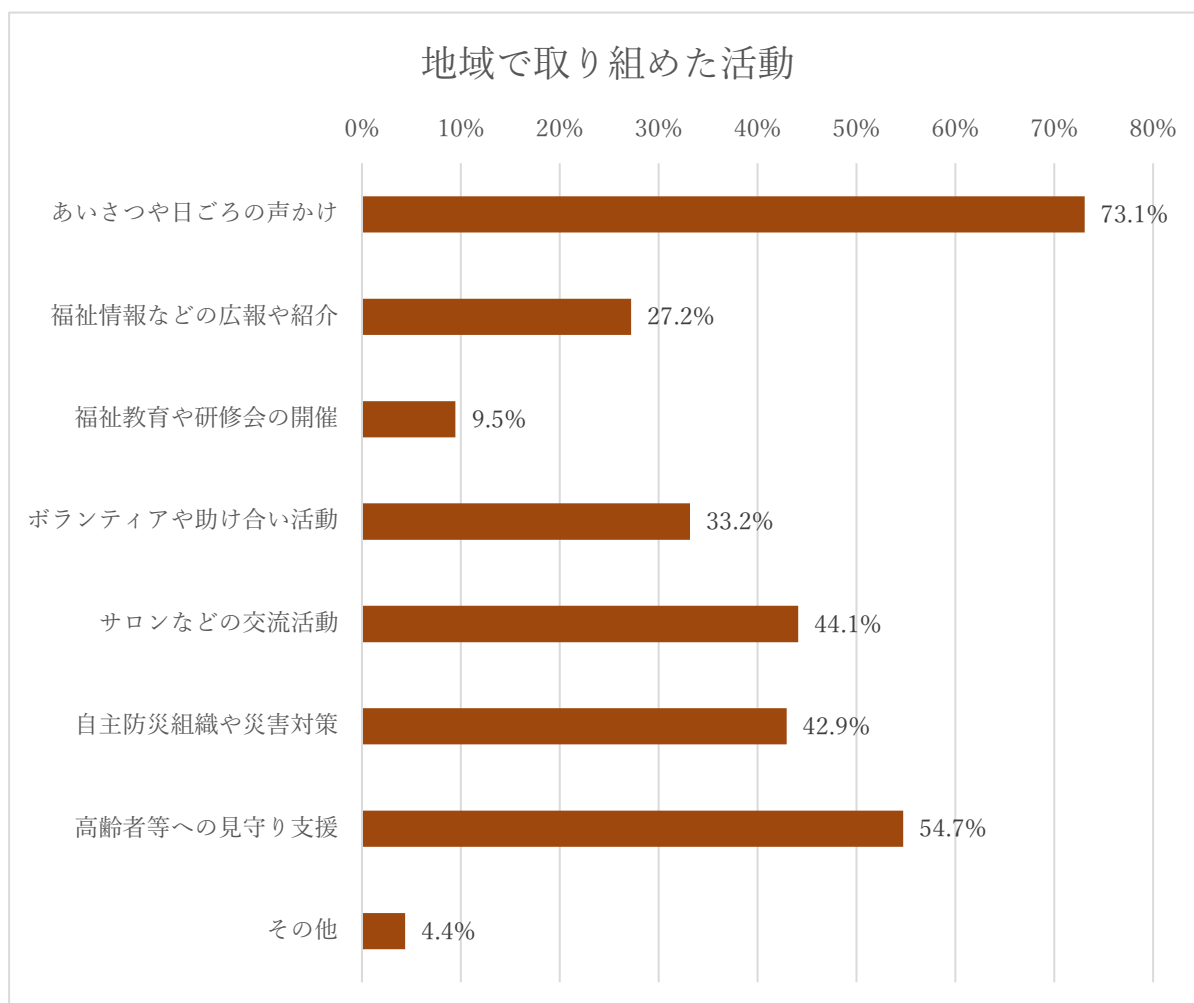
(2) 地域福祉の進捗状況に関すること

問1 以下の項目は計画の中で、地域で推進していきたいこととしてあげられた内容です。お住まいの地区で、取り組めた活動について教えてください。(あてはまるものすべてに○)

取り組めた活動は、「あいさつや日ごろの声かけ」73.1%が最も多い回答となっており、次に「高齢者等への見守り支援」54.7%となっています。

特に、民生委員・児童委員は、「あいさつや日ごろの声かけ」が78.9%、「高齢者等への見守り支援」が73.3%と非常に高く、コロナ禍においても様々な工夫をしながら、住民と顔の見える関係づくりと地域情報の把握に努められた様子が分かります。

また、福祉委員は「あいさつや日ごろの声かけ」、くき元気サービス協力会員、登録ボランティアグループ、登録個人ボランティアは「ボランティアや助け合い活動」、ふれあい・いきいきサロン実践者は「サロンなどの交流活動」、地区コミュニティ協議会では、「自主防災組織や災害対策」の取り組み結果が高い割合を示しました。



その他

- ・ 子どもの見守り活動
- ・ 防犯パトロール、道路清掃
- ・ 自治会集会所の活用、行事への参加
- ・ 介護施設やサロンなどへの訪問
- ・ 高齢者へのおたすけサービス
- ・ 介護認定の付添
- ・ 介護されている方の悩みを傾聴
- ・ 1人暮らし高齢者同士のつながり
- ・ いきいき体操の推進
- ・ フードパントリー
- ・ 生活苦の方の状況
- ・ 自治体(公)の機関・サービス低下・縮小移転等に対して住民への対策、支援、フォローをどのようにしていくかを引継ぎ活動。
- ・ 前の年のことが分からないので比較できない
- ・ 私の地区では1~7のような取り組む活動はしていません。地区の誰が中心となって行うのでしょうか？
- ・ コロナ禍もあって(活動)無し。

■地域で取り組めた活動

(単位:%)

	合計 (n)	比率	民生 委員	福祉 委員	協力 会員	登録 団体	登録 個人	サロン	コミ協
あいさつ・声かけ	502	73.1	78.9	82.1	60.8	46.9	66.7	74.5	67.6
広報・紹介	187	27.2	27.5	28.6	17.6	32.7	20.4	34.3	22.1
研修会開催	65	9.5	4.8	5.4	11.8	24.5	22.2	10.8	8.8
ボランティア	228	33.2	26.3	25.9	41.2	42.9	53.7	37.3	35.3
サロン	303	44.1	27.9	49.1	41.2	55.1	31.5	87.3	35.3
災害対策	295	42.9	39.4	54.5	33.3	36.7	16.7	50.0	58.8
見守り支援	376	54.7	73.3	52.7	39.2	34.7	22.2	53.9	42.6
その他	30	4.4	4.4	3.6	2.0	6.1	3.7	2.9	8.8

問2 以下の項目は計画の中で、市や社協が推進していくこととしてあげられた内容です。計画策定前（平成27年度）と比較してどの程度進んだと感じますか。
（1～5の該当する番号を1つ選んで○）

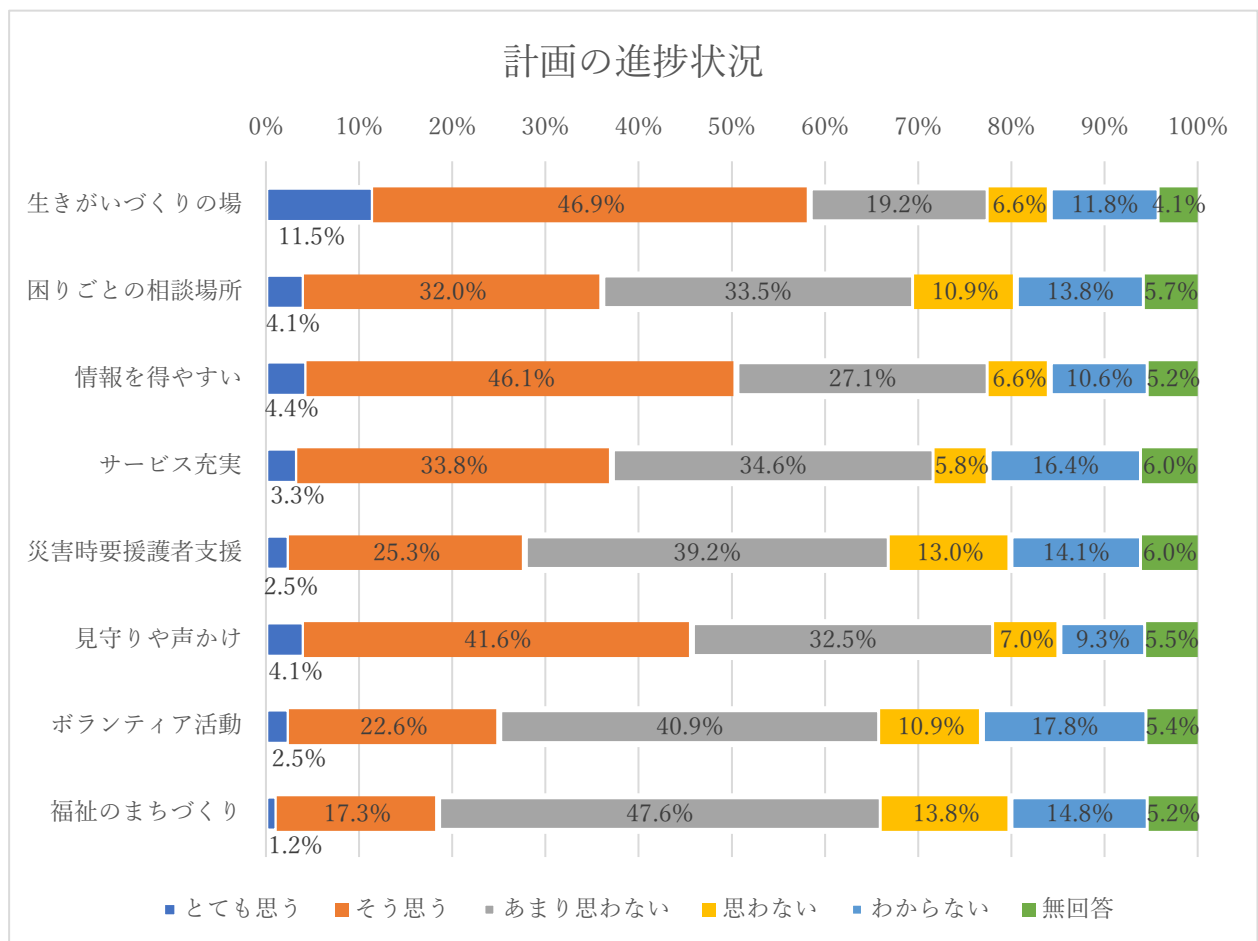
「とても思う」と「そう思う」を合計した割合の高い回答は、「健康づくりやいきいきサロンなどの生きがいがづくりの場や機会が増えた」58.4%、「福祉に関する情報を得やすくなった」50.5%、「隣近所の見守りや声かけが進んだ」45.7%の順になっています。

一方で、「あまり思わない」「思わない」を合計した割合が高い回答は、「誰もが住みやすい福祉のまちづくりが進んだ」61.4%、「災害時要援護者の支援体制づくりが進んだ」52.2%、「ボランティア活動やNPO活動が活発になった」51.8%の順になっています。

また、「生活に関する困りごとを相談できる場所や機会が増えた」、「福祉サービスが充実した」については、「そう思う」と「あまり思わない」の回答が同程度の割合となっています。

平成27年度に実施した「久喜市の地域福祉に関するアンケート調査結果報告書」では、無作為抽出した2,000人の市民対象に同じ内容の質問を行いました。

その中ではすべての項目で第1位が「わからない」、第2位が「あまり思わない」であり、第3位が「そう思う」であったのは「健康づくりや生きがいがづくりの場が増えた」「福祉に関する情報を得やすくなった」の2項目でした。



■進んだ内容

(単位：人)

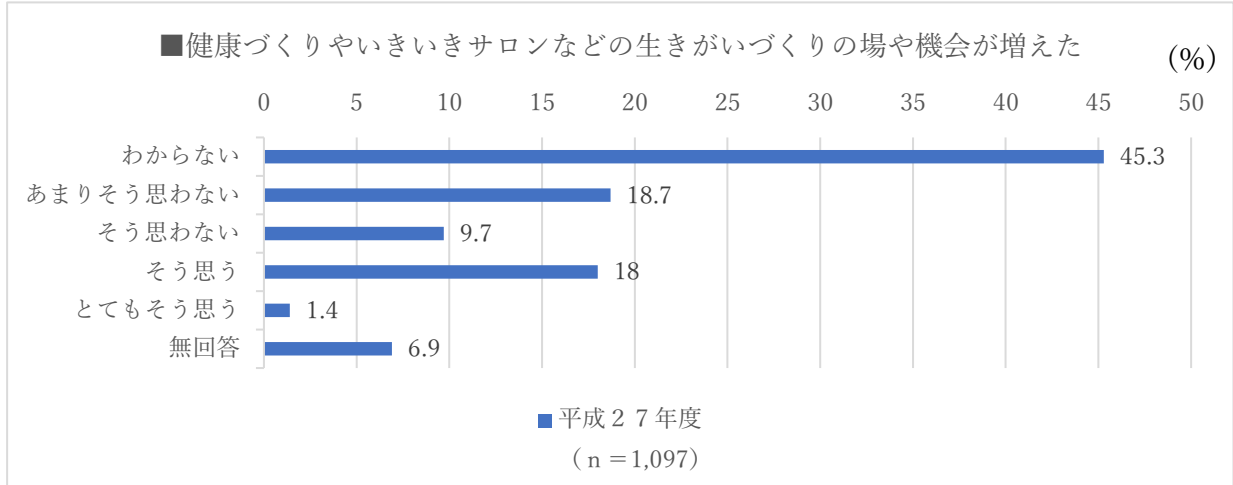
(単位：%)

	とても 思う	そう思う	あまり 思わない	思わ ない	わから ない	無回答	合計
健康づくりやいきいきサロンなどの生きがいづくりの場や機会が増えた	79	322	132	45	81	28	687
	11.5	46.9	19.2	6.6	11.8	4.1	
生活に関する困りごとを相談できる場所や機会が増えた	28	220	230	75	95	39	687
	4.1	32.0	33.5	10.9	13.8	5.7	
福祉に関する情報を得やすくなった	30	317	186	45	73	36	687
	4.4	46.1	27.1	6.6	10.6	5.2	
福祉サービスが充実した	23	232	238	40	113	41	687
	3.3	33.8	34.6	5.8	16.4	6.0	
災害時要援護者の支援体制づくりが進んだ	17	174	269	89	97	41	687
	2.5	25.3	39.2	13.0	14.1	6.0	
隣近所の見守りや声かけが進んだ	28	286	223	48	64	38	687
	4.1	41.6	32.5	7.0	9.3	5.5	
ボランティア活動やNPO活動が活発になった	17	155	281	75	122	37	687
	2.5	22.6	40.9	10.9	17.8	5.4	
誰もが住みやすい福祉のまちづくりが進んだ	8	119	327	95	102	36	687
	1.2	17.3	47.6	13.8	14.8	5.2	

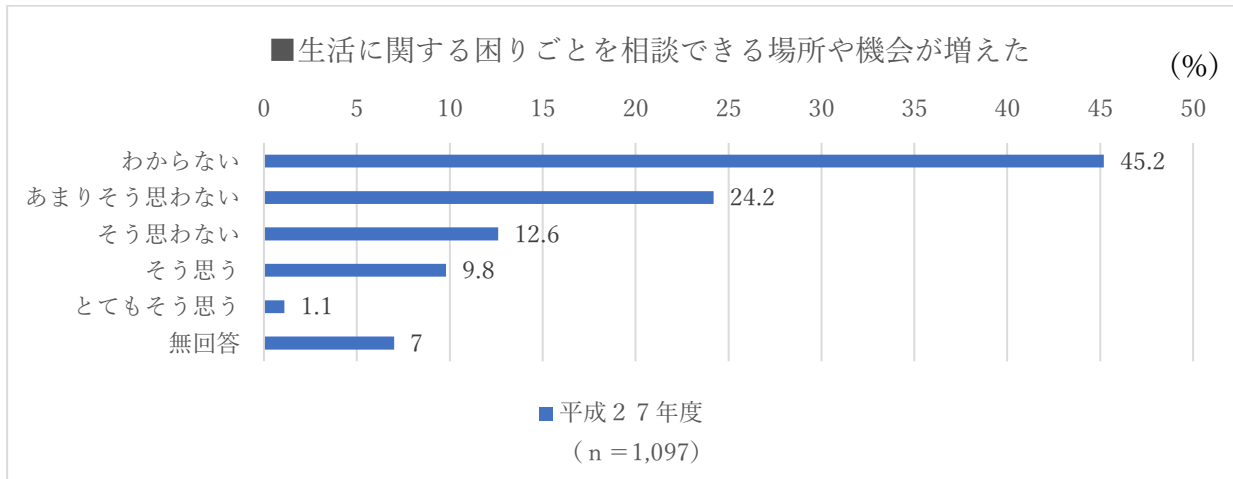
参考 ■平成27年度市民アンケート

問28 久喜市では平成23年度に地域福祉計画を策定し、地域福祉の推進に取り組んできました。計画策定前と比較して、次に掲げる取り組みについて、どの程度進んだと感じますか。

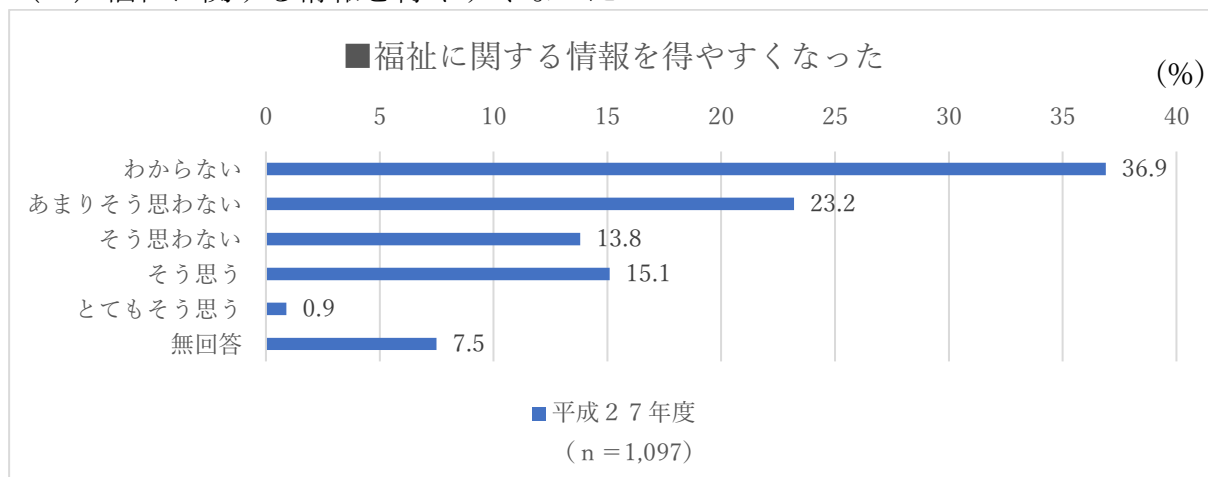
(1) 健康づくりやいきいきサロンなどの生きがいの場や機会が増えた



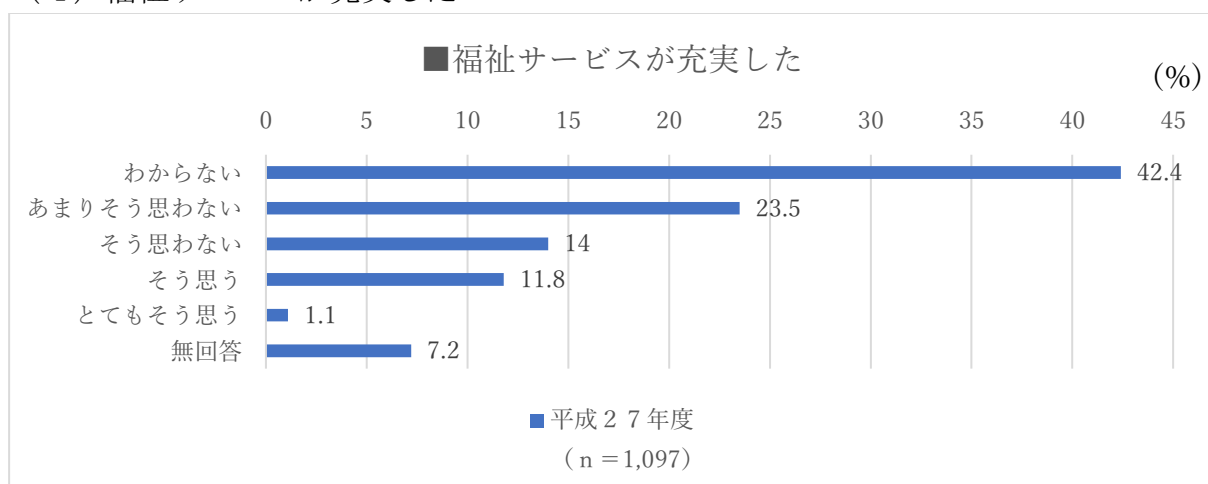
(2) 生活に関する困りごとを相談できる場所や機会が増えた



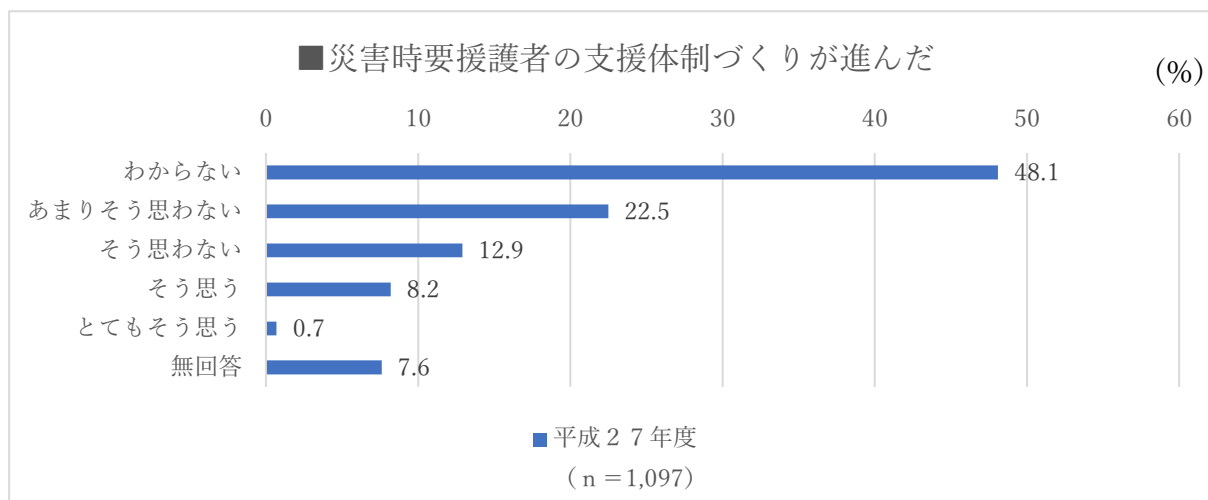
(3) 福祉に関する情報を得やすくなった



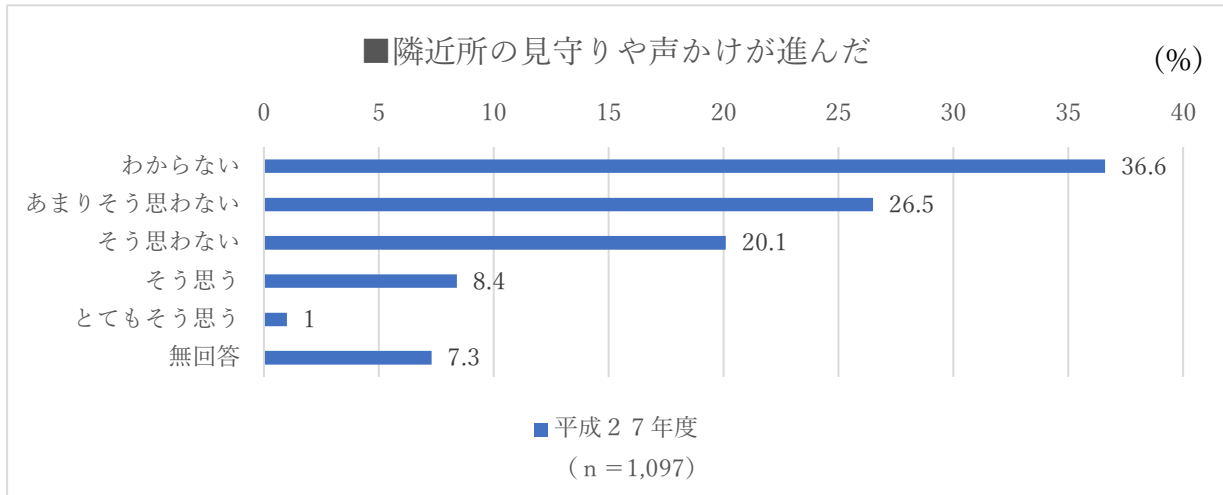
(4) 福祉サービスが充実した



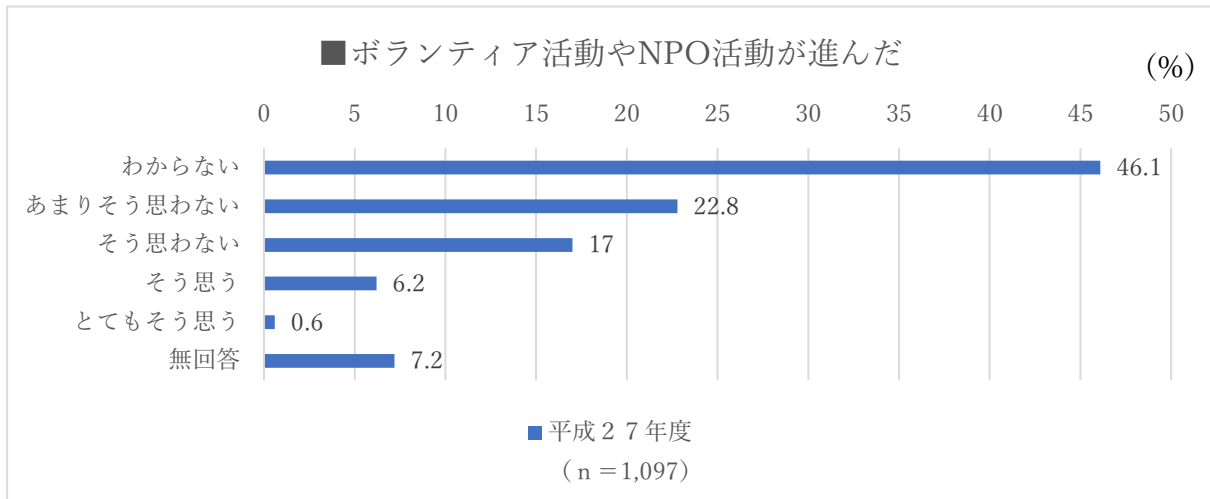
(5) 災害時要援護者の支援体制づくりが進んだ



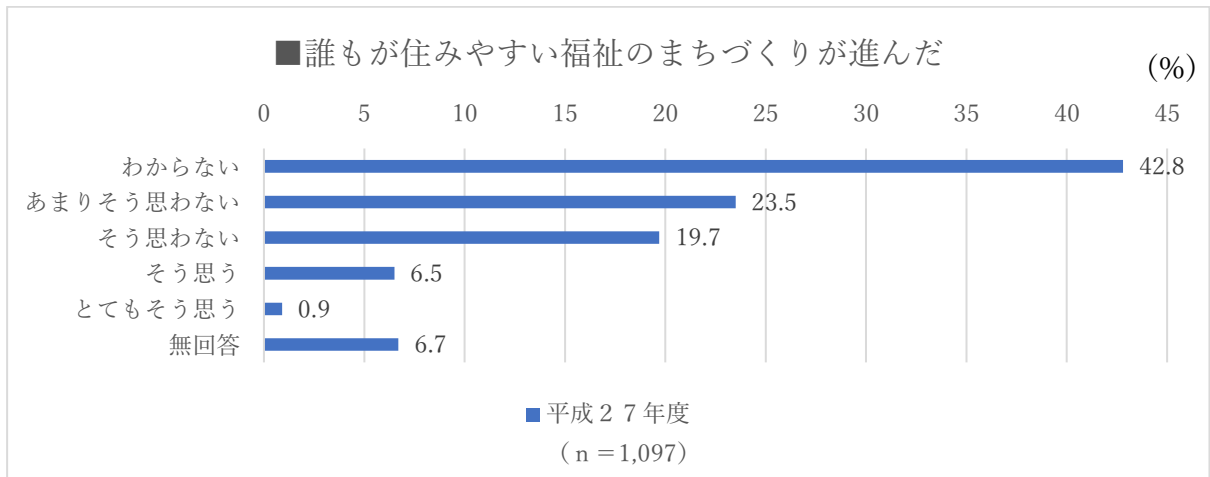
(6) 隣近所の見守りや声かけが進んだ



(7) ボランティア活動やNPO活動が進んだ



(8) 誰もが住みやすい福祉のまちづくりが進んだ



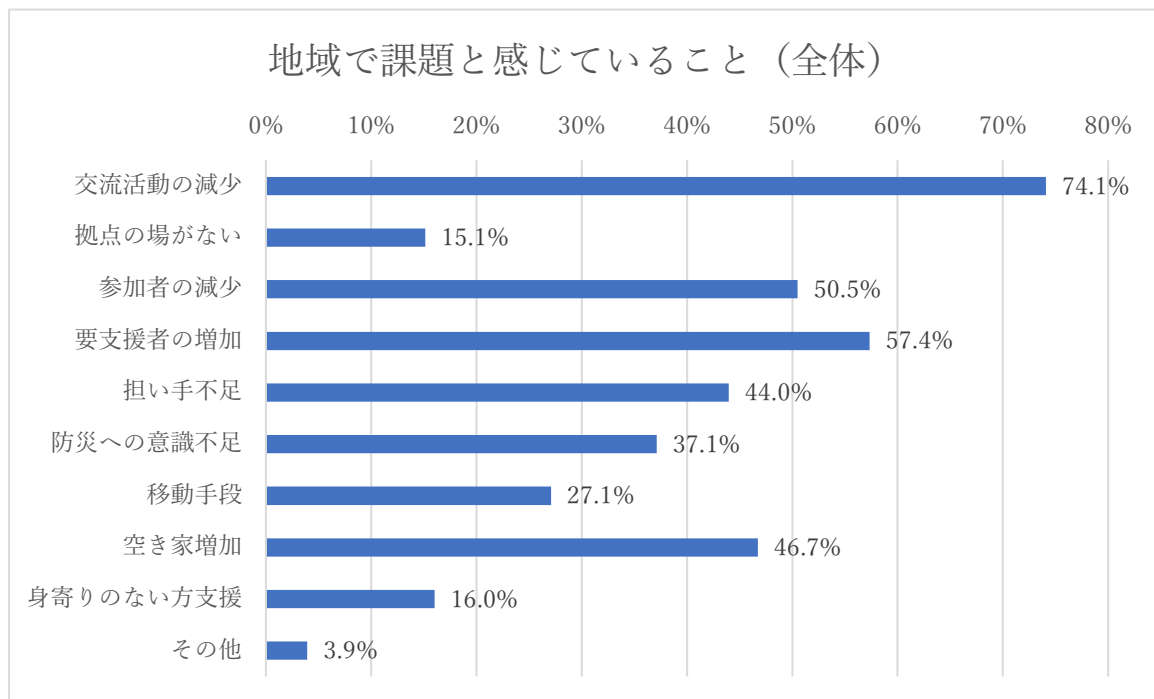
抜粋:「久喜市の地域福祉に関するアンケート調査結果報告書」(平成27年10月)

(3) 地域の課題に関すること

問3 今後、お住まいの地区では、どのようなことが心配だと感じていますか。
(あてはまるものすべてに○)

地域で課題と感じていることでは、「新型コロナウイルスの影響で今後の予定が立たず、交流活動ができない」74.1%、「高齢者や障がい者等支援を必要とする方が増えている」57.4%、「地域活動に参加しない人が多い」50.5%が上位にあげられています。

特に、民生委員・児童委員では、「新型コロナウイルスの影響で今後の予定が立たず、交流活動ができない」、ふれあい・いきいきサロン実践者では「地域活動に参加しない人が多い」「移動手段が限られている」、福祉委員では「空き家が増えている」に対しての割合が高くなっています。



その他

- ・ ひとり暮らし高齢者の増加
- ・ 高齢者が増え、支援のタイミングが難しい。
- ・ 高齢者が多いので、地域活動に参加できない人が多い
- ・ 高齢者がいても家族がいると見守りの対象にならない場合がある
- ・ 高齢化、独居高齢者の草取り等への参加の仕方、欠席の扱い
- ・ 交流がない
- ・ 息子が両親の面倒をみること
- ・ 自治会などの後継者がいない
- ・ 若年層まったく関心がない。顔が見えない。
- ・ 集会所はあるが利用しにくい
- ・ 防災用の安全な避難場所・建物がない
- ・ 洪水時の圧倒的避難所の不足(免許返納等で自力広域避難ができない人が多数いる)
- ・ 夜間のタクシーがない
- ・ 災害時等、近所同士の共助の意識づくり
- ・ 自治会、自主防災組織との共業、連携が不十分
- ・ 災害時要援護者の支援体制づくりは急務
- ・ 地域ネットワークづくり
- ・ 空き家の持ちぬしがわからない
- ・ 外国人に対するゴミの分別(マニュアル)
- ・ 精神障がいを持った方との接し方、きっかけづくりが難しい
- ・ 関わりを持つことを嫌う
- ・ 何を望んでいるのかわからない。コミュニケーション不足。
- ・ 支援がどこに必要なのかわからない
- ・ コロナや特殊詐欺の影響で自宅にこもり家族外との接触を避ける傾向が強まっている
- ・ 貧困家庭への食糧等支援活動

■地域で課題と感じていること（実践者別）

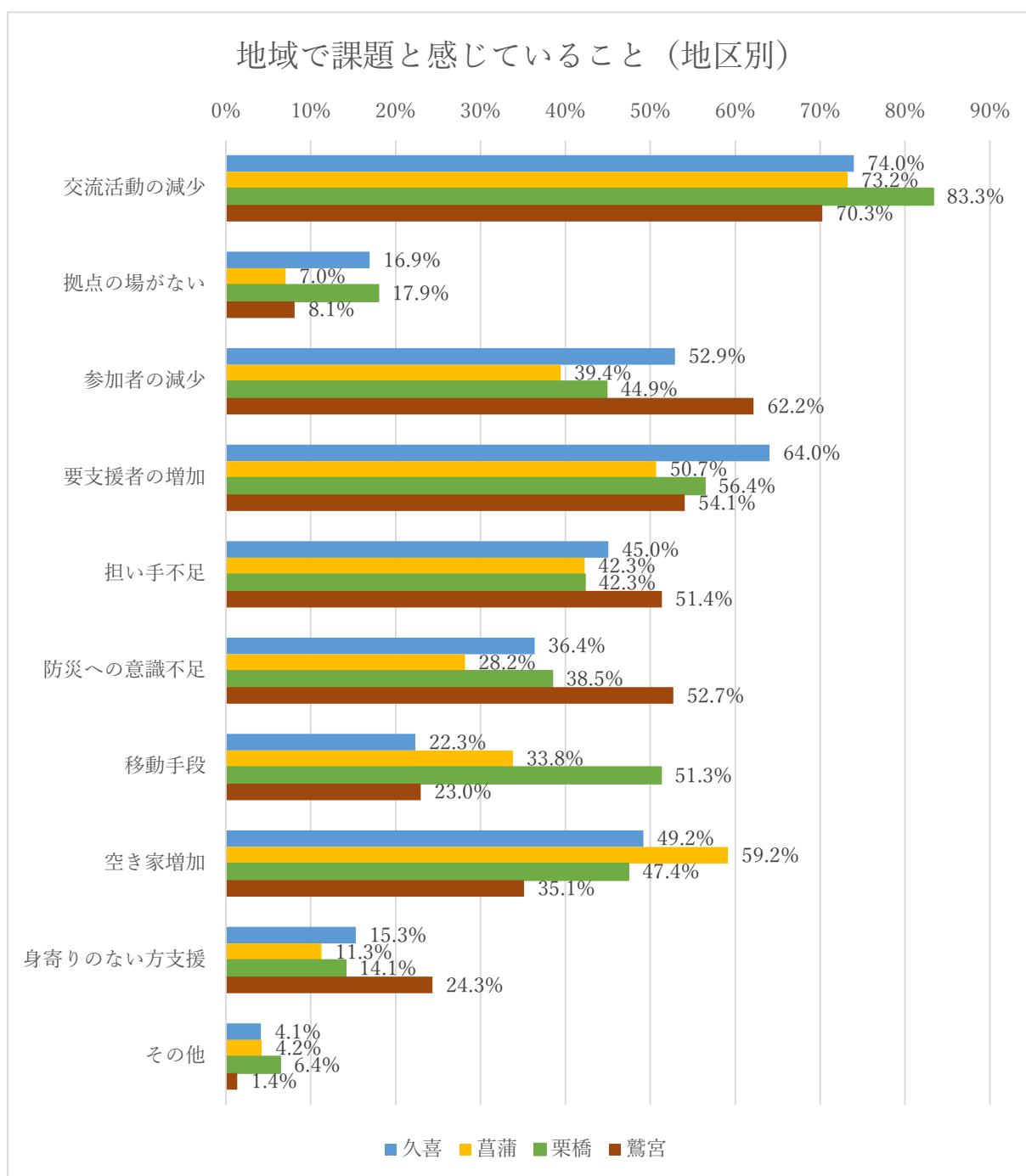
（単位：％）

	合計 (n)	比率	民生 委員	福祉 委員	協力 会員	登録 団体	登録 個人	サロン	コミ協
新型コロナウイルスの影響で今後の予定が立たず、交流活動ができない	509	74.1	80.9	70.5	60.8	75.5	79.6	64.7	73.5
集会所等拠点となる場がない	104	15.1	15.5	9.8	21.6	12.2	16.7	15.7	17.6
地域活動に参加しない人が多い	347	50.5	46.2	52.7	45.1	46.9	51.9	60.8	52.9
高齢者や障がい者等支援を必要とする方が増えている	394	57.4	61.8	50.0	60.8	51.0	46.3	62.7	55.9
支援の担い手がない	302	44.0	46.2	47.3	45.1	28.6	46.3	40.2	44.1
福祉や防災への意識が高まらない	255	37.1	38.2	41.1	43.1	28.6	33.3	34.3	35.3
移動手段が限られている	186	27.1	30.3	17.0	23.5	24.5	35.2	39.2	11.8
空き家が増えている	321	46.7	43.0	56.3	37.3	44.9	48.1	52.0	44.1
身寄りがない、不明な方への支援	110	16.0	16.3	11.6	13.7	16.3	16.7	19.6	17.6
その他	27	3.9	3.6	7.1	0	6.1	3.7	2.0	4.4

地域活動実践者のうち、「民生委員・児童委員」「福祉委員」「ふれあい・いきいきサロン」の回答を地区別に表したものです。

久喜市内全域では、「新型コロナウイルスの影響で今後の予定が立たず、交流活動ができない」74.1%、「高齢者や障がい者等支援を必要とする方が増えている」57.4%、「地域活動に参加しない人が多い」50.5%が上位にあげられました。

久喜地区では「高齢者や障がい者等支援を必要とする方が増えている」、菖蒲地区では「空き家が増えている」、栗橋地区では「新型コロナウイルスの影響で今後の予定が立たず、交流活動ができない」「移動手段が限られている」、鷲宮地区では「地域活動に参加しない人が多い」「支援の担い手がいない」「福祉や防災への意識が高まらない」「身寄りがない、不明な方への支援」に対しての割合が高くなっています。



■地域で課題と感じていること（地区別）

（単位：人）

（単位：%）

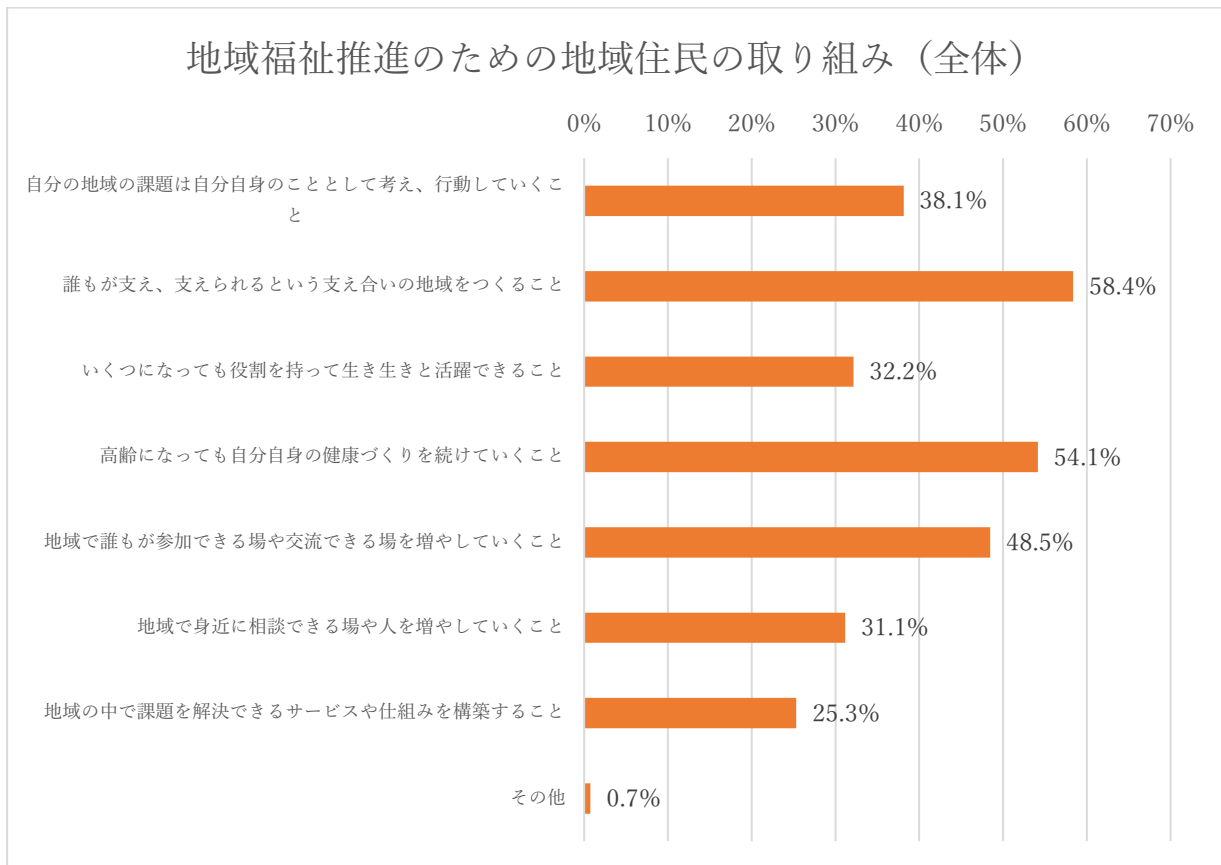
	全体	久喜	菖蒲	栗橋	鷲宮
新型コロナウイルスの影響で今後の予定が立たず、交流活動ができない	509	179	52	65	52
	74.1	74.0	73.2	83.3	70.3
集会所等拠点となる場がない	104	41	5	14	6
	15.1	16.9	7.0	17.9	8.1
地域活動に参加しない人が多い	347	128	28	35	46
	50.5	52.9	39.4	44.9	62.2
高齢者や障がい者等支援を必要とする方が増えている	394	155	36	44	40
	57.4	64.0	50.7	56.4	54.1
支援の担い手がない	302	109	30	33	38
	44.0	45.0	42.3	42.3	51.4
福祉や防災への意識が高まらない	255	88	20	30	39
	37.1	36.4	28.2	38.5	52.7
移動手段が限られている	186	54	24	40	17
	27.1	22.3	33.8	51.3	23.0
空き家が増えている	321	119	42	37	26
	46.7	49.2	59.2	47.4	35.1
身寄りがない、不明な方への支援	110	37	8	11	18
	16.0	15.3	11.3	14.1	24.3
その他	27	10	3	5	1
	3.9	4.1	4.2	6.4	1.4

(4) 今後の地域福祉の推進について

問4 これからの計画の中で、地域住民が取り組んでいくこととして、望ましいと思う内容は何か。(〇は3つまで)

地域住民が取り組んでいくこととして、「誰もが支え、支えられるという支え合いの地域をつくること」58.4%、「高齢になっても自分自身の健康づくりを続けていくこと」54.1%、「地域で誰もが参加できる場や交流できる場を増やしていくこと」48.5%が上位となっています。

特に、福祉委員では「地域で身近に相談できる場や人を増やしていくこと」、くき元気サービス協力会員では「地域で誰もが参加できる場や交流できる場を増やしていくこと」、登録個人ボランティアでは「いくつになっても役割をもって生き生きと活躍できること」に対しての割合が高くなっています。



その他

- ・ 1～6を総括すると7になるので7が大事だと思う
- ・ 魅力ある自治会活動の創設、活動への参加
- ・ どのような人にどの程度かわるべきかの考え方を示していくこと。
- ・ 自主防災組織の充実
- ・ 高齢者を支えていく若者、児童への福祉が不足している
- ・ 同じ市内ですが、市の中心部の優遇を感じるのもっと市外へ手を延べていくこと

■地域住民の取組み（実践者別）

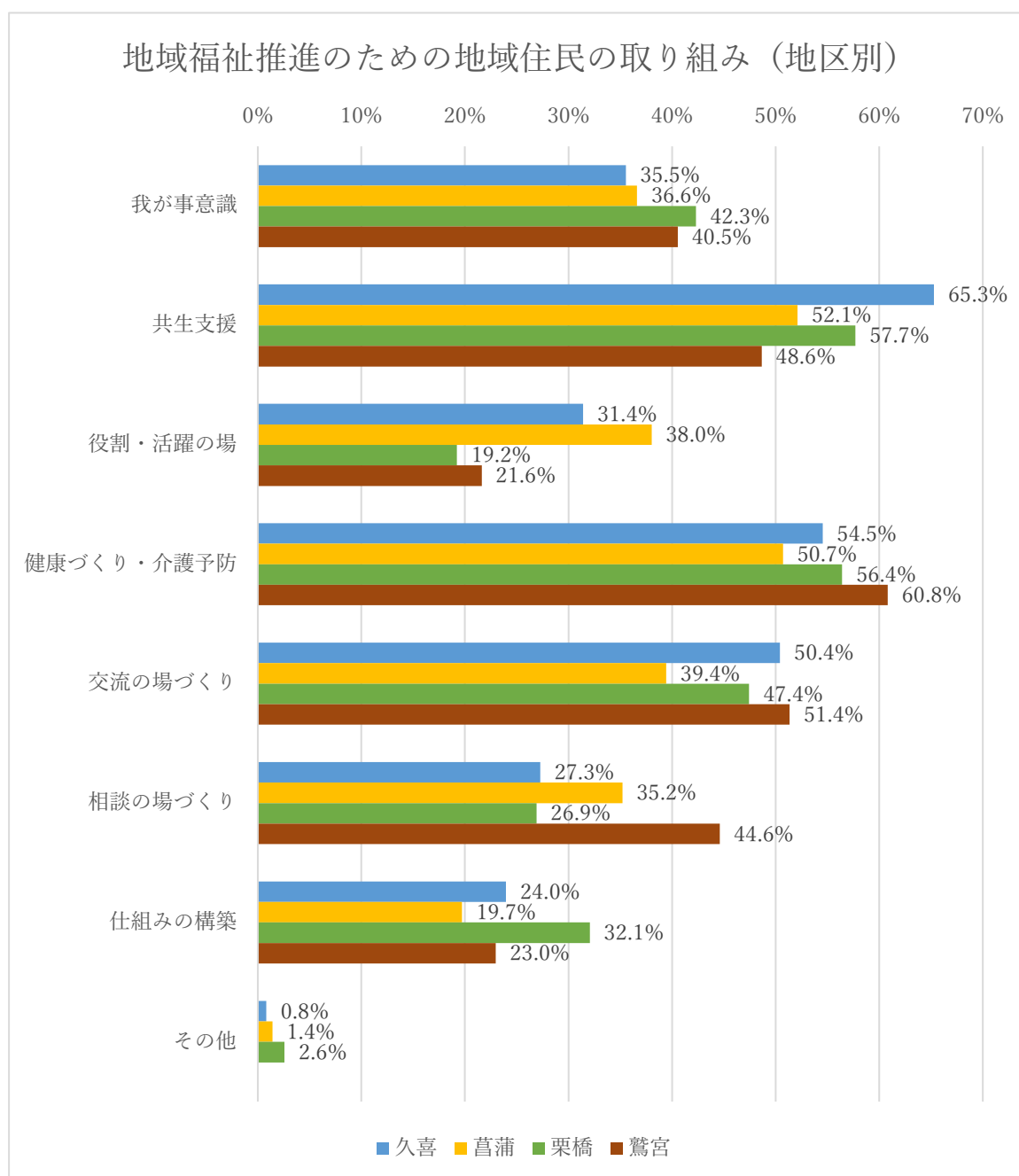
（単位：％）

	合計 (n)	比率	民生 委員	福祉 委員	協力 会員	登録 団体	登録 個人	サロン	コミ協
自分の地域の課題は 自分自身のこととして 考え、行動していくこと	262	38.1	35.1	43.8	29.4	38.8	29.6	37.3	54.4
誰もが支え、支えら れるという支え合い の地域をつくること	401	58.4	62.5	53.6	56.9	55.1	55.6	57.8	57.4
いくつになっても役 割を持って生き生 きと活躍できること	221	32.2	31.5	17.0	39.2	42.9	46.3	35.3	30.9
高齢になっても自 分自身の健康づく りを続けていくこと	372	54.1	54.6	51.8	60.8	49.0	50.0	60.8	48.5
地域で誰もが参加で きる場や交流できる 場を増やしていくこと	333	48.5	47.0	44.6	56.9	46.9	46.3	55.9	45.6
地域で身近に相談 できる場や人を増 やしていくこと	214	31.1	29.1	38.4	29.4	28.6	29.6	28.4	35.3
地域の中で課題を解 決できるサービスや 仕組みを構築すること	174	25.3	25.9	23.2	21.6	28.6	33.3	22.5	25.0
その他	5	0.7	0.8	1.8	0	0	0	1.0	0

地域活動実践者のうち、「民生委員・児童委員」「福祉委員」「ふれあい・いきいきサロン」の回答を地区別に表したものです。

久喜市内全域では、「誰もが支え、支えられるという支え合いの地域をつくること」58.4%、「高齢になっても自分自身の健康づくりを続けていくこと」54.1%、「地域で誰もが参加できる場や交流できる場を増やしていくこと」48.5%が上位となっています。

久喜地区では「誰もが支え、支えられるという支え合いの地域をつくること」、菖蒲地区では「いくつになっても役割をもって生き生きと活躍できること」、栗橋地区では「地域の中で課題を解決できるサービスや仕組みを構築すること」、鷲宮地区では「地域で身近に相談できる場や人を増やしていくこと」に対しての割合が高くなっています。



■地域住民の取組み（地区別）

（単位：人）

（単位：%）

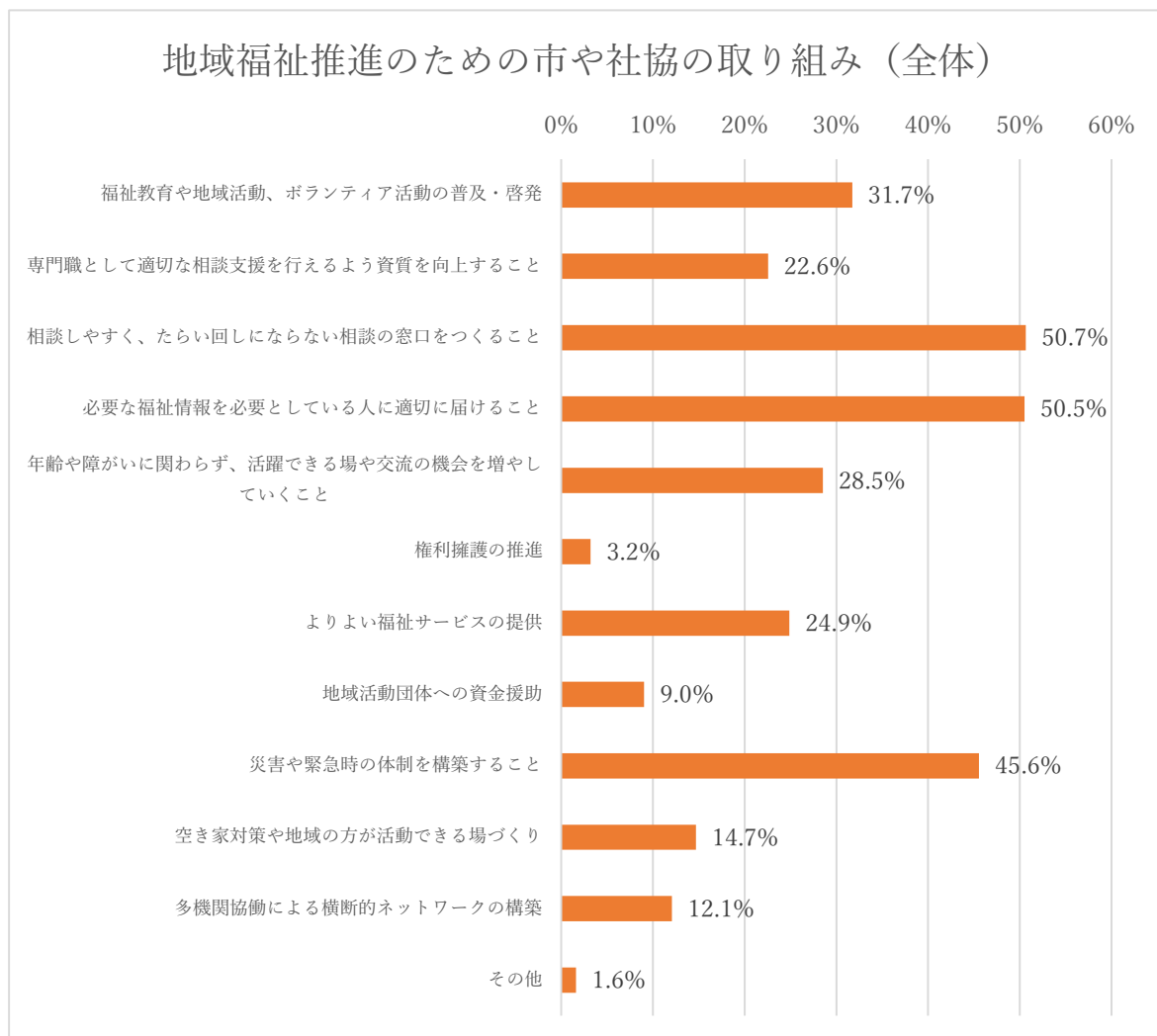
回答内容	全体	久喜	菖蒲	栗橋	鷺宮
自分の地域の課題は 自分自身のこととして 考え、行動していくこと	262	86	26	33	30
	38.1	35.5	36.6	42.3	40.5
誰もが支え、支えら れるという支え合い の地域をつくること	401	158	37	45	36
	58.4	65.3	52.1	57.7	48.6
いくつになっても役 割を持って生き生 きと活躍できること	221	76	27	15	16
	32.2	31.4	38.0	19.2	21.6
高齢になっても自 分自身の健康づく りを続けていくこと	372	132	36	44	45
	54.1	54.5	50.7	56.4	60.8
地域で誰もが参加で きる場や交流できる 場を増やしていくこと	333	122	28	37	38
	48.5	50.4	39.4	47.4	51.4
地域で身近に相談 できる場や人を増 やしていくこと	214	66	25	21	33
	31.1	27.3	35.2	26.9	44.6
地域の中で課題を解 決できるサービスや 仕組みを構築すること	174	58	14	25	17
	25.3	24.0	19.7	32.1	23.0
その他	5	2	1	2	0
	0.7	0.8	1.4	2.6	0

問5 これからの計画の中で、市や社協が取り組んでいくこととして、望ましいと思う内容は何か。(〇は3つまで)

市や社協が取り組んでいくこととして、「相談しやすく、たらい回しにならない相談の窓口をつくること」50.7%、「必要な福祉情報を必要としている方に適切に届けること」50.5%、「災害や緊急時の体制を構築すること」45.6%が上位となっています。

平成27年度に実施した「久喜市の地域福祉に関するアンケート調査結果報告書」では、無作為抽出した2,000人の市民対象に「地域福祉充実のための優先的な取組」として質問を行いました。そのときは、第1位が「地域における災害時の体制整備」、第2位が「福祉サービスの充実・質の向上」でした。

また、福祉委員は「災害や緊急時の体制を構築すること」、くき元気サービス協力会員は「年齢や障がいに関わらず、活躍できる場や交流の機会を増やしていくこと」、登録ボランティア団体は「地域活動団体への資金援助」、ふれあい・いきいきサロン実践者は「必要な福祉情報を必要としている人に適切に届けること」、地区コミュニティ協議会は「福祉教育や地域活動、ボランティア活動の普及・啓発をすること」に対しての割合が高くなっています。



その他

- ・ 高齢者が安心して入れる施設の推進
- ・ 住民が取り組んでいくことより、社協や市がわかりやすく、参加しやすい行事が望ましい様に思います。
- ・ 体制の構築のみでなく、災害に対する具体策が必要。
- ・ ボランティアといっても善意に頼るのではなく、有償ボランティアとして謝礼があるようにすること
- ・ 地域活動、ボランティア団体組織の見直しも必要ではないかと思います。ボランティア団体への取組み提案をされても良いのではと思います。必要とされるボランティアでなければ活動をしていても疑問がわくばかりです。
- ・ 個人情報の開示、適正利用を地域福祉に反映。
- ・ 地域福祉活動の担い手の養成
- ・ ひきこもりの方への支援
- ・ 病院や公共施設の巡回バスの設定
- ・ これらの内容はすでに社協さんが取り組んでいると思いますよ。

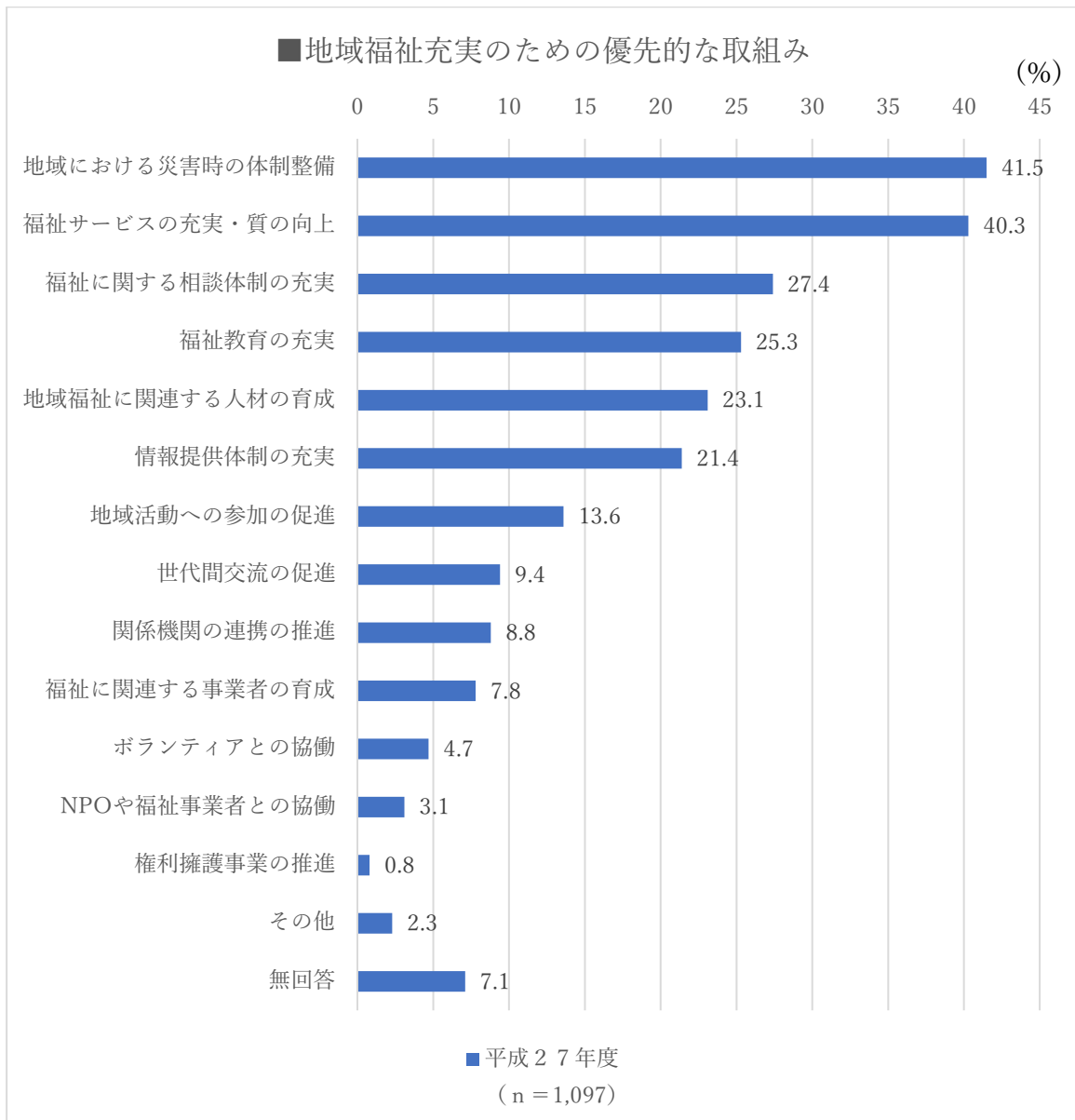
■市や社協の取組み（実践者別）

（単位：％）

	合計 (n)	比率	民生 委員	福祉 委員	協力 会員	登録 団体	登録 個人	サロン	コミ協
福祉教育や地域活動、ボランティア活動の普及・啓発をすること	218	31.7	23.5	22.3	33.3	46.9	48.1	31.4	52.9
専門職として適切な相談支援を行えるよう資質を向上すること	155	22.6	23.9	23.2	15.7	14.3	24.1	23.5	25.0
相談しやすく、たらい回しにならない相談の窓口をつくること	348	50.7	53.8	45.5	58.8	51.0	48.1	45.1	51.5
必要な福祉情報を必要としている人に適切に届けること	347	50.5	52.6	52.7	35.3	46.9	51.9	57.8	41.2
年齢や障がいに関わらず、活躍できる場や交流の機会を増やしていくこと	196	28.5	21.1	25.9	43.1	40.8	42.6	32.4	23.5
権利擁護の推進	22	3.2	2.8	5.4	2.0	4.1	1.9	3.9	1.5
よりよい福祉サービスの提供	171	24.9	29.9	21.4	11.8	30.6	14.8	26.5	23.5
地域活動団体への資金援助	62	9.0	6.4	7.1	2.0	16.3	5.6	15.7	14.7
災害や緊急時の体制を構築すること	313	45.6	48.6	52.7	41.2	38.8	40.7	45.1	35.3
空き家対策や地域の方が活動できる場づくり	101	14.7	14.7	17.9	11.8	24.5	5.6	9.8	19.1
多機関協働による横断的ネットワークの構築	83	12.1	15.9	8.9	7.8	16.3	13.0	10.8	4.4
その他	11	1.6	1.2	0.9	2.0	2.0	7.4	1.0	0

参考 ■平成27年度市民アンケート

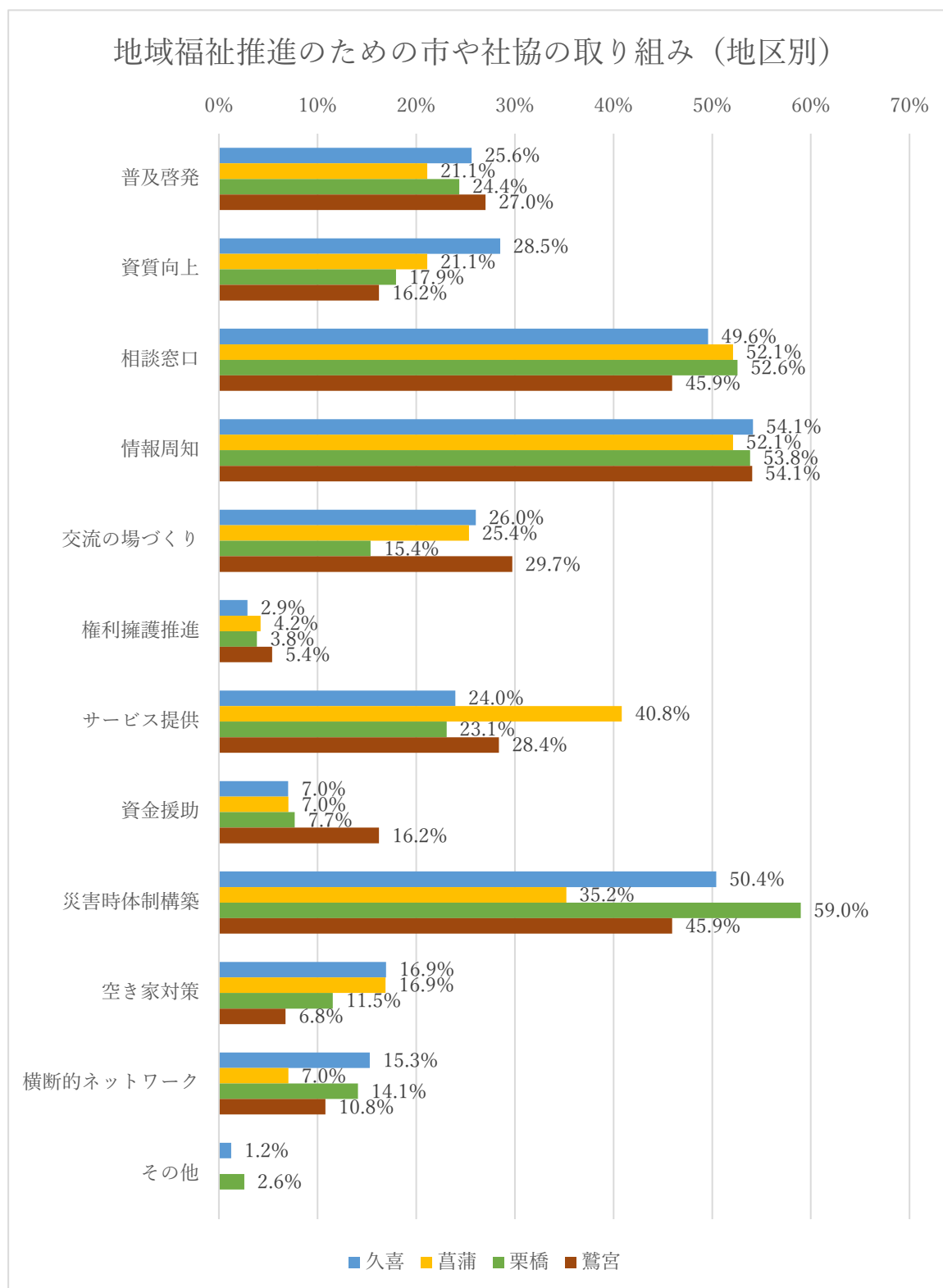
問29 今後、地域福祉を充実させるために、優先的に取り組むべきものについて、次の中から選んでください。(〇は3つまで)



抜粋:「久喜市の地域福祉に関するアンケート調査結果報告書」(平成27年10月)

地域活動実践者のうち、「民生委員・児童委員」「福祉委員」「ふれあい・いきいきサロン」の回答を地区別に表したものです。

久喜地区では「専門職として適切な相談支援を行えるよう資質を向上すること」、菖蒲地区では「よりよい福祉サービスの提供」、栗橋地区では「災害や緊急時の体制を構築すること」、鷲宮地区では「地域活動団体への資金援助」に対しての割合が高くなっています。



■市や社協の取組み（地区別）

（単位：人）

（単位：%）

回答内容	全体	久喜	菖蒲	栗橋	鷲宮
福祉教育や地域活動、ボランティア活動の普及・啓発をすること	218 31.7	62 25.6	15 21.1	19 24.4	20 27.0
専門職として適切な相談支援を行えるよう資質を向上すること	155 22.6	69 28.5	15 21.1	14 17.9	12 16.2
相談しやすく、たらい回しにならない相談の窓口をつくること	348 50.7	120 49.6	37 52.1	41 52.6	34 45.9
必要な福祉情報を必要としている人に適切に届けること	347 50.5	131 54.1	37 52.1	42 53.8	40 54.1
年齢や障がいに関わらず、活躍できる場や交流の機会を増やしていくこと	196 28.5	63 26.0	18 25.4	12 15.4	22 29.7
権利擁護の推進	22 3.2	7 2.9	3 4.2	3 3.8	4 5.4
よりよい福祉サービスの提供	171 24.9	58 24.0	29 40.8	18 23.1	21 28.4
地域活動団体への資金援助	62 9.0	17 7.0	5 7.0	6 7.7	12 16.2
災害や緊急時の体制を構築すること	313 45.6	122 50.4	25 35.2	46 59.0	34 45.9
空き家対策や地域の方が活動できる場づくり	101 14.7	41 16.9	12 16.9	9 11.5	5 6.8
多機関協働による横断的ネットワークの構築	83 12.1	37 15.3	5 7.0	11 14.1	8 10.8
その他	11 1.6	3 1.2	0 0	2 2.6	0 0

問6 ボランティア活動や地域活動を活性化させていくために、皆さんが力を入れている内容を教えてください。

■民生委員（久喜）

挨拶・声かけ・見守り活動の実施

- ・ 小学生の登校班でのあいさつ活動
- ・ 小学生の朝の登校見守り支援
- ・ 子どもたちへの登校見守り
- ・ 児童生徒の安全な下校の手助け、下校見守り活動
- ・ 小中学校の朝のあいさつ運動に参加させていただいています。もう少し参加者が増えるといいですね。
- ・ 地域学校でのボランティア活動に参加している。そこで子供たちの様子や登校の見守りをする中で、その週の当番のお母さんと顔見知りになり、民生委員の存在を知ってもらう。
- ・ 小学校学習ボランティア、あいさつ運動、校門の掃き掃除
- ・ 通学路の立哨も立派なボランティア活動ですが、目立たない小さなボランティア活動をしている方々に光を当てたいと思っています。
- ・ 小中学生への声かけと見守り
- ・ 中学生のボランティア意識を高めていくこと（中学生は支援する側に）
- ・ コロナ禍のためいろいろ行動に制限されていますが、ボランティア活動として小中学校の挨拶運動に参加したり、ゆうゆうプラザのサポーター等行っています。
- ・ あいさつはもちろん、出会う多くの人々への声かけ
- ・ あいさつや日頃の声かけ
- ・ あいさつや日頃の声かけを行うように心がけている。
- ・ 気軽に声をかけていただくためにあいさつ、声かけ。
- ・ 挨拶をいつでもどこでも（できれば笑顔で）すること
- ・ 挨拶だけでなく一言を付け加えたい（例えば「暑いですね」「体調はいかがですか」）
- ・ 地元の自治会の事業やボランティア活動（防犯パトロール）へ積極的に参加すること、あわせて身近な人たちとあいさつやちょっとした会話をすることで親しみやすい人間関係づくりに努める
- ・ 老若男女にかかわらず接すること
- ・ 日頃の声かけ（まずはあいさつから）
- ・ あいさつと声かけ、話さなくとも目を合わせ、手を挙げる時もある
- ・ あいさつからの世間話をしていく中でその方や周り、近所の様子、情報を得るようにしている。
- ・ 見守り、声かけにより個々人の気持ちに添う温かな環境の提供
- ・ ほとんどの方が高齢者であり、一人暮らしの方もいて日ごろの見守り活動（声かけ、訪問）を心がける
- ・ 高齢者が多い地区なので、見守り、声かけを通して地域活動の活性化を進めていけたらと思います。
- ・ 障がいを持っている人、高齢者等への声かけ見守りを定期的に行っている。親しい関係を構築

- することで相談しやすい雰囲気作りをしている。年齢を問わず、機会を得ては声かけしている。
- ・ 声かけ。助け合い精神を強く持っていただけるよう、ご近所様お助け合いでよろしくお願い致します。何かあったとき、ご近所さんで助け合いましょう。
 - ・ 高齢者等への見守り支援
 - ・ ひとり暮らしの方が増加しているため、見守り支援が大事だと思います。現在コロナ禍のため訪問することが難しい、電話してもつながらない場合が多いので、困ることが多いです。
 - ・ 生活に助けをもらいたい人がいます。介護手続きしてなかったので手続きしたり、買物したりしています。高齢者の見守りにも。
 - ・ 声かけ、安否確認
 - ・ あいさつや声かけをする。
 - ・ 常に地域の状況を把握できるようにアンテナを高くしています。ただ一昔前と違い、希薄な人間関係が多い中ではそれも難しいと感じています。
 - ・ 地域の住民の現状を把握したいと思い、声かけをするようにしています。必要としている支援を一緒に考えられることを提案したいと思います。
 - ・ 大げさなようですが、地域の人々は皆、私の知人、友人と思われ、親しみをこめて話しかけています。初対面の人に笑顔で話しかけるように心がけています。私に話しかけられて怪訝な顔をする方はいても怒る人はいませんでした。笑顔の声かけがまず第一歩です。
 - ・ 高齢者世帯やひとり住まいの方々の訪問し、顔を見せることです。特にひとり住まいの方への訪問は重要だと思っております。
 - ・ 単身世帯や高齢者が増えているので、地域の方々とことばを併せ声をかけ合えるように、なるべく担当区に足を運ぶ。
 - ・ 担当区域の方々と顔みしりになり、あいさつを交わすことが始まり、現在の様子を少しでも把握しようと思っておりますが、コロナ禍のため遅々として進まない状況です。
 - ・ 地域の人にできるだけ声かけをし、親睦をはかる。何々をやるとかより、手近に出来る地域活動だと思います。
 - ・ コロナ禍の中、活動ができませんが不安のある方がすぐに相談に伺う場所があると良いと思います。そして民生委員の存在を知っていただけるよう、自治会に参加したり声かけに心がけています。
 - ・ 私の受け持ち地域は高齢者が多く、子どもも極端に少なくなかなか活動の活性化には至らないのが実情です。コロナ禍でそれもできず、なるべくお会いしてお話をするくらいしかできない。
 - ・ 自治会活動を強化し、地域のさまざまな方とのふれあいの機会を増やし、またコロナウイルスが拡大傾向の中、ひとり暮らしの高齢者等対象者を絞り訪問活動を推進する。
 - ・ コロナ禍でもあり、高齢者の住民の増加で気軽な外出ができないため、近隣の方とお会いする機会が減り、地域の様子がよくわかりません。そこでなるべく近所にどんな方が住まわれているのかから知るようにしています。
 - ・ 自治会を通し、清掃活動、高齢者の見守り活動
 - ・ 地域を知り、住民を知り、まずは顔を覚えてもらうことから始めました。
 - ・ お互いに顔を知ってもらい、話をしてみる。

- ・ コロナのため交流、組織的なことは控えさせていただいていますが、個人的にこれだけははずせない事を今、やっています。

サロン活動・交流の推進

- ・ 老いを感じずに参加できる仲間づくり、交流
- ・ ふれあい・いきいきサロンを毎月開催すること。独居の高齢者や日中ひとりの高齢者が交流できる場が大切だと思います。
- ・ いきいきサロン活動を通して、地域の絆を深めていく
- ・ サロンなどの交流活動
- ・ サロン活動をとおし、福祉情報を伝える。
- ・ サロンの継続は途切れないことだと思っている。そのためコロナ禍においてできることを考えている。地域で盛り上げていけるようにしたい。
- ・ 私の地区ではいきいきサロンが月曜に行われています。自宅でデイサービスなど行かず、元気に歩いて自分のことは自分でできる高齢者に「行ってみませんか、楽しいですよ」などと声かけしてできるだけ外に出て人との楽しく交流を深めて生きがいのある生活を進めたりしています。
- ・ 地域のみんなが気軽に参加できる活動の提供と場所、仲間をたくさん作っていかれたらと思います。
- ・ 毎日朝ラジオ体操を公園でしています。6:15頃集合し、おしゃべりしたり、6:25にはストレッチをし、ラジオ体操終了後は笑いヨガをして安否確認をしたり、親睦をはかっています。
- ・ ふれあい・いきいきサロンを設立したが、コロナ禍のため活動が中断、もし再開できるようになった場合、来てくれる方も体力が落ちていると思う。参加したいが行くことができない方に送迎などのシステムがあればよいと思うが、現実的に難しい。
- ・ 世代を超えた人々との交流によって、どんなことが今望まれているか声を聞く
- ・ 地域の仲間づくりをすることにより、アンテナを高くして地域の情報を得、必要なときは支援する
- ・ 地域に集会所がないので、高齢者が集まってお話ししたり運動したりできたらいいと思うけどそれができない。集会所が欲しい。
- ・ 福祉とのつながりをなるべく多く作っていく。
- ・ 地域イベントへの参加や交流。
- ・ コミュニティスクールの一環として、小中学校での地域住民との交流やボランティア活動。

情報の周知

- ・ 活動情報の活発化
- ・ 2ヶ月に一度くらいの割合で“民生委員たより”を出すようにしている。
- ・ 年度はじめの新旧班長会議(総会)の折に「みんなが健康で安心、安全な生活が送れるようにするために」という配布物を作成し、参加者に「あいさつの励行」「声かけ」「隣近所での見守り」「命を守る対応の確認(市防災ハザードマップ・洪水等決断ブック)」等をお願いをしている。
- ・ 地域の方々に活動内容や情報等を知ってもらうための啓発を行っている。
- ・ 各々の生活に充実感がもてるサービスを伝えていく

- ・ まず自助を自覚してもらえるように社協、市の情報をお知らせする
- ・ 広報やチラシ、新聞など身近なことからいろいろな情報を得ていきたいと努力しています。
- ・ 広報活動、地域コミュニティづくり
- ・ あらゆる方面から情報を収集することにより、その中で必要な情報を紹介することにより、ボランティア活動に繋がれば地域活動の活性化になる。

防犯・防災活動の実施

- ・ 防災訓練の参加率を上げるため、通常訓練に加え、プラスアルファの企画を毎年考えている。区長、自治会と協力している。
- ・ 災害対策として防災避難名簿の作成をし、要援護者に直接聞き取りを行った。
- ・ 地域のパトロールです。特に長い期間の休みは事故や事件が発生する割合が増えるため、発生前の防衛手段だと考えます。
- ・ 地域住民の防災意識を高めること、防災マップの作成を急ぎたい。
- ・ 地域防災計画が進んでいないので、1年間地域コミュニケーションづくり、チームでの活動、防災マップ作成等

ボランティア・自治会活動の活性化

- ・ 東小学校区でのボランティア活動の団体をつなぐ人的交流をすすめること
- ・ 機会ととらえて地域の皆さまにボランティア活動協力の依頼(声かけ)をする。活動紹介する。
- ・ 学校関係に於いてのボランティアでできることを実行している。
- ・ 地域でのお互い様での見守りの気持ちは浸透しているように思えますが、自治会会議内容の中で民生委員にもつなげることで関係機関との連携のもと、一歩進むことがあるのではと考える場面もありました。
- ・ 自治会の役員会への参加、自治会の行事への手伝い
- ・ 町内会の行事への参加協力をしている(防犯パトロール、公園の草取り、防災訓練の計画や実行への協力)
- ・ 地域での缶ひろい、草刈り等を年4回実施している
- ・ 環境整備(垣根刈り、墓掃除、空き缶拾い等)
- ・ 地域の活動に積極的に参加する。
- ・ 自分が協力したいという熱意を受け入れてくれる説明等が活動場所に表記されていてほしい。「ボランティアをしてみませんか」ではなく、どんな活動をしているか、どんな事が出来るのか、具体的に出ていると協力しやすいです。
- ・ 私個人がボランティア活動、地域活動をやることにはあるが、民生委員だから民生委員として力を入れているということはありません。主体的に何かをやれたら良いと思いますが、限られた時間の中なので現役世代のうちは難しいと思っています。民生委員だからまわってくる動員やボランティアには疑問に思うものがあります。

その他

- ・ 民生児童委員になってあまり長くないので、またコロナ禍のため十分な活動ができていません。

- ・ 皆が健康でいきいきと過ごせるように食生活に気を付けるよう心がけています。
- ・ 食品ロス削減になるように少しでも持続可能な生産消費形態が確保できるように協力しています。
- ・ 高齢者等施設を訪問し、歌、演奏を楽しんでいただけるよう、日常練習に励んでいます。
- ・ 有償にしてください。後が続きません。
- ・ 郷土久喜を中心とした歴史学習
- ・ 絶滅危惧植物デンジソウの保護活動
- ・ 旧江面二小でのグランドゴルフ
- ・ みんなが安心して暮らせる地域
- ・ コロナ対策の徹底
- ・ 子ども食堂
- ・ 高齢者に対する支援の推進
- ・ 相手の人に寄り添ったり理解しようとする気持ちを持つこと
- ・ 仲間たちの資質の向上に努めている。
- ・ 行政もボランティア活動をしている我々、市民もこの辺りでこのままで本当にいいのか、(民児協の活動を含めて)考え直す必要が大いにあると感じている。
形だけあれば、それで良いという風潮がある。

■ 民生委員（菖蒲）

挨拶・声かけ・見守り活動の実施

- ・ 声かけを一番に心がけている。近づきすぎず離れすぎず、距離感をもって見守っている。
- ・ 挨拶、高齢者等の見守り。
- ・ 朝の挨拶や日頃の声かけをするよう努めている。
- ・ 挨拶や日頃の声かけをするよう心掛けています。
- ・ 一人暮らしの方やご夫婦二人世帯への訪問、声かけ。
- ・ 高齢者及び児童への見守り。
- ・ 小学生の登校時見守り。高齢者世帯(特に一人暮らし)の見守り。
- ・ 登校の見守り、一人暮らしの見守り。
- ・ 朝の小学生の登校の見守り。
- ・ ご近所付き合いが、余りにも疎遠に思われる。共生社会を念頭に、その第一歩として、心のこもった挨拶運動を展開していきたいと思う。具体的にはゴミ集積場での挨拶や会話、児童・生徒の登下校時で声かけなどを。
- ・ 一人暮らしの安否確認。高齢者の方に体調の声掛けをしている。
- ・ 生活困窮者とのお話、聞取りや行政との橋渡しをして生活ができるように見守りをしている。
- ・ 見守り活動の充実について、力をいれている。
- ・ ボランティア活動や地域の活動に参加して、市、社協、民児協、自治会等の支援を得て、地域の方々と交流を図り、挨拶や声かけをしている。
- ・ 高齢者単身及び高齢者のみ世帯に対する見守り活動及び支援。菖蒲中学校自転車通学生の

見守り活動。

- ・ 民生委員 2 年目、思うように活動できていない。地域の方と会う時は声かけする事、挨拶する事を心がけている。

サロン活動・交流の場の推進

- ・ 小学校のゆうゆう活動や除草作業に参加している。
- ・ 学校応援団、放課後子ども教室(ゆうゆう)の指導協力者として若い力(生徒)と活動し、元気をもらっている。(バトミントン、ソフトボール他)
- ・ 年に一度の昔の遊び集会に参加し、楽しんでいる。(ベーコマ、竹とんぼ、わりばし鉄砲、お手玉、あやとり、おはじき等)
- ・ 小学校のサポーターになり、土曜講座のお手伝い。
- ・ 夏休み中 2 回赤ペン先生で学校に行き学習登校している児童の丸つけをしたり、教えたりしている。
- ・ 現在は休止状態となっているが、「ふれあいサロン」の開催。
- ・ 地域の集まりである集会や祭り(コロナのため 2 年間活動できず)。
- ・ 地域住民との関わりを増やして関係(つながり)を大事にする。
- ・ 1 人住まいの方が増えてきている。地区への信頼を深めつつ、お会いできる時間帯を把握しながら交流を深めていきたいと思う。
- ・ 地域で実施している活動(グランドゴルフやレク、サロン等)に参加して楽しんでいる。
- ・ 以前より地域活動は行われておらず、高齢者の集いなどはない。高齢者同志の交流の場ができればよいのだが。
- ・ 高齢者が多くなり、交通の便も悪く、外に出る機会が少なくなってきたので、つながりをつくり、でかける時は乗り合わせでいく。
- ・ 三世代クリーン活動。
- ・ 他の団体への協力・参加。
- ・ 地域での防犯パトロール。

その他

- ・ 区長との情報共有。
- ・ 相手の立場になり、寄り添いながら行動すること。
- ・ 民生委員と地域のリーダーとの話し合い(協力)がまず必要。

■ 民生委員 (栗橋)

挨拶・声かけ・見守り活動の実施

- ・ 笑顔での挨拶
- ・ 人と人との交流(あいさつ、声掛け)
- ・ 地域の皆には積極的に声掛けを心がけている。お互いの信頼関係を作ることが何を行うにも大切だと思う。
- ・ 地域の方とのコミュニケーション作り。コミュニケーションの中から地域の方の思いを知り、

気持ちに寄り添った支援に努める。

- ・ このコロナ禍、活性化に向けた動きをどのようにと自分自身手探りの状態です。今日、相手の話を聞き、少しでも元気な心でいてもらえるよう努力している状態です。公共機関に繋がれることは伝えて。
- ・ 地域活動では、先ず「一人ひとりが何を望んでいるか」をしっかりと聴くようにしています。高齢者として、一人の人生経験者としての誇り、自信を持って生活できるようにお手伝いしています。地域で集まる難しさも感じているので、地道に活動をしています。医療機関、役所等の関係機関のパイプ役にも力を入れています。
- ・ 日頃の声掛け、隣近所の支え合い
- ・ 地域内の人脈をフル活用して、何か事が発生した時にただちに動けるように備えること。(医療関係者…救護班、飲食関係者…炊き出し班等)
- ・ ゆうゆうプラザや小中学校の挨拶運動に積極的に参加。
- ・ 普段から挨拶等声掛けを心がけています。(知っている人も知らない人もすれ違う時等)
- ・ 小学生の朝の登校の見守りを5～6人で行っています。
- ・ 高齢者の見廻り支援。
- ・ 訪問活動の折には、できるだけ傾聴に心がけています。一人暮らしの方は誰かと話をしたがついています。
- ・ 日頃から見守り、声掛け、訪問を通し情報や状況を把握し社協に繋ぐ。住民、社協との信頼関係を深める。
- ・ 現在、コロナ禍により訪問活動ができず、一人暮らしの方の様子もわからないので、せめて名簿に電話番号も入れていただきたい。
- ・ 地域の見廻り活動を通して、実態把握に努め、市に最新の情報を提供する。
- ・ 地域を巡視。
- ・ 高齢者からの相談と見守り。

サロン活動・交流の場の推進

- ・ ふれあい・いきいきサロン活動
- ・ 「サロン活動」や「植栽活動」を区長主導のもと進めている。
- ・ 月2回実施しているいきいきサロンをスタッフ7名で計画を出し合い継続している。
- ・ サロン等の交流活動を通して、高齢者の触れ合いの場をつくる。
- ・ サロンの交流活動。
- ・ サロンの推進

ボランティア・自治会活動の活性化

- ・ 防災訓練を実施し、地域の団結を深め、意識を高めていく。
- ・ 地域における年間事業計画を積極的に活動できるよう促す。
- ・ 自治会との協力、情報収集。
- ・ 子供会の育成(新聞、古紙の回収、子供神輿)
- ・ 自治会との協力(側溝消毒、もちつき大会等)

その他

- ・ 地域(自治会)との兼ね合いもあり、又、コロナ禍の今、特にできないことがない。
- ・ 今はコロナで何もできていません。
- ・ 無理なく長く活動ができるように心がけています。

■民生委員(鷺宮)

挨拶・声かけ・見守り活動の実施

- ・ あいさつ運動、交通見守りの参加。地域の小中学校への行事の参加。
- ・ 一人暮らし高齢者の方にできるだけ声かけし、「孤独死」から守る。
- ・ 地域の方々になるべく声かけをして常につながりを持つようにし、いろいろな活動に興味を持っていただけるように心がける。
- ・ 声かけ、見守りとあいさつ。
- ・ 輪を広げようと横のつながりコミュニケーションをとる。
- ・ コロナ後に会食会が再開できましたら独居高齢者などのかたに声をかけて参加者を募りたい。
- ・ 高齢者の自宅に伺い、安否確認をしたり困りごとを聞いたりしている。
- ・ 地域の方とあいさつを通じてコミュニケーションを図り、情報を得る。
- ・ なるべく訪問して短い会話でも顔を見て安否確認をしていく。

サロン活動・交流の場の推進

- ・ 地域でのサロン活動の実施。音楽や手芸、交通安全など講習会と高齢者の方に喜んでいただき交流をはかっています。
- ・ 地域イベント等に参加する。
- ・ 高齢者が健康長寿ということで、誰でも参加できる。グラウンドゴルフへの参加を募っている。
- ・ 誰もが気軽に参加できる交流の場づくりの推進。
- ・ サロンを始めて4年、ここまで順調にきていますが、年毎に高齢化になり、いつまで?と思います。
- ・ 旧住民と新住民が参加できるような事業を進めている。(若い人が気楽に参加できる雰囲気)
- ・ 地域に住む50~60代の有志が集まり、1年を通じて小学生や幼稚園児など子どもたちに色々な行事を開催して参加してもらっています。地区から補助金をいただき、とても活発な活動です。
- ・ お祭り(七夕、餅つき)を開催して子どもたちや地域の方々に喜ばれています。(コロナで休止中)

ボランティア・自治会活動の活性化

- ・ コミ協はじめ、祭り、健康、運動など「共助」に関わる諸活動に参加している。
- ・ 道路の草取りをしている。通学路の旗振りもやっている。

その他

- ・ 地域の現状を知る。
- ・ 得意分野に協力する。

- ・ 市民全体の健康と安全、住みやすい街づくりを願っていますが、まずは担当地域を見直し、自分自身も高齢者の仲間入りしている現状を見据えた中でできることを試行錯誤していきたい。
- ・ サロンなど集いの場があるところは良いですが、そういった施設が無かったり、住民の関心が無い地域は問題があるかもしれません。
- ・ 社会的に弱い立場に立たざるを得ない方々と共に歩むということ。
- ・ 今のところはまだ話し合っていない。

■福祉委員（久喜）

自治会活動の活性化

- ・ 自治会で催し物を多く取り込んでいる
- ・ 住民が自由参加できる催し物の開催
- ・ 自治会活動への積極的参加を呼びかける案内の工夫
- ・ 自治会ニュースとして身近な地域活動を毎月配布している。
- ・ 自治会の活動を充実させていくこと
- ・ 草刈り活動では、年3回毎回お茶とせんべい、軍手を参加者に用意していますが、ややマンネリ化している感じがします。
- ・ PTA役員さんを通しての子どもたちとの関わりを増やし（世代間交流）、地域の活性化を進める。新住民の増加に対しても有効。コロナのため運動会、敬老会、もちつき大会等全て中止。一日も早いコロナの終息を願うばかりです。
- ・ 向こう三軒両隣、お互い様の気持ちで支え合う地域づくりを目指す。
自治会行事活動に積極的に参加して頂くために参加しやすい行事推進とその環境づくりを行い、地域内コミュニケーションの構築を図る
- ・ 道路美化運動、公園清掃、敬老会、防災訓練、もちつき大会、子ども会等
- ・ 地域の美化、草取りや花植え、花植木の剪定
- ・ 住んでいる団地の環境を良くするため、一斉草取り、花の植え付けなど。
- ・ サロンの活動、町内会の活動（ごみゼロ、防災）、地域パトロール、交流活動
- ・ 地域内にある、神社の清掃
- ・ 自治会活動の活性化
- ・ 地域の行事にはなるべく参加をする
- ・ 地域組織への新規住民及び若年層の参加と活動理解の周知
- ・ 自治会に交流の場を作るように働きかけている。

防犯・防災活動の実施

- ・ 月1回の福祉委員による町内パトロール
- ・ 子どもたちが安全に遊べる、行動できる環境づくり、通学路等の見守り
- ・ 防犯のための夜回り
- ・ 防犯パトロール
- ・ 自主防災会の役員
- ・ 防災意識の向上。

- ・ 災害時、緊急時に助け合える地域づくりが分かりやすく目標にしたい。地域福祉はその一環。その準備段階ともいえる。災害時、緊急時対応のタイムラインづくりや具体的福祉問題への対応事例を学習、普及させたい。
- ・ 災害発生時、要支援者の避難対策について苦慮している。
- ・ 地震や水害による第一避難場所、要援護者に誰がどこにどのように相談し、計画を作っておく。
- ・ 平屋、1階にお住まいの方の水害による避難について、ひとりで避難できない方が多くあります。各家庭を回り相談計画書を作っておく。
- ・ 高齢者の地域内での活動参加(防犯活動)

サロン活動・交流の場の推進

- ・ ふれあい・いきいきサロン活動
- ・ 今はコロナで中止していますが、いきいきサロンに参加して、地域の皆さんの声を聞き、次回の課題などに取り入れています。再開したいです。
- ・ 今はコロナで中断していますが、月1回いきいきサロンを行っています。
- ・ 「いきいきサロン」により情報を共有し、ゴミ出しや送迎などできることをしてお互いに助け合っています。堅苦しいボランティアなどでなく、ご近所づきあいの発展が助け合いにつながっています。集会所を使って趣味の交流などいくつかのサークルができています。その結果助け合いが生まれています。コロナワクチン接種時には、85歳以上の希望者を接種会場まで送り届けました。
- ・ 健康体操
- ・ ひとり暮らしの方が多くなり、認知機能の衰えを防ぐため、運動や井戸端会議。
- ・ ひとりで暮らしている人への交流の誘い
- ・ 何かあったときに力になるご近所の方々との交流の在り方を提案していく。
- ・ コロナの時なので皆さんと集まることができません。友達と電話で互いに元気な声を聞いています。
- ・ 今まではボランティア活動で「南京玉すだれ」をグループで老人ホームやさくらまつりに出していました。
- ・ 高齢者や子供たちが事前にふれあい、交流ができ明るい楽しい時間を作ること
- ・ 町内会の住民が高齢化していく中で隣近所同士のコミュニケーションを向上するため話し合いのできる場(イベント等)の機会を設ける
- ・ 地域の人との交流を大切にしている

挨拶・声かけ・見守り活動の実施

- ・ 近所の方、町内の方に高齢の方が増えています。仕事をしているため、積極的な活動はできませんが、「お元気ですか、体調はいかがですか」等声をかけています。
- ・ 近くにいる方々と深く立ち入らない程度に、声かけをして現状の健康面、問題などはないかを話し合っています。
- ・ ひとり暮らしの人、声かけ、見守り、困っている人がいたら民生委員に話を聞いてもらって

います。

- ・ 基本は朝、昼、夜、あいさつが大事だと思います。どんな時も声かけをしています。
- ・ なるべく多くの人と顔見知りになるよう些細な事でも話しかけて気軽に話せる環境づくりに努めています。
- ・ 声かけ
- ・ あいさつ、見守り等に重点をおいている。
- ・ あいさつや日ごろの声かけ。自治会活動に自主的に参加。
- ・ 一人暮らしの方の見守り。雨戸が開いているかとかゴミ出しに行ったとか。
- ・ 市内各イベント情報を共用、隣近所の話題としてコミュニケーションをとり活性化につなげている。
- ・ せめて近所は仲良く声をかけあい、会えば話をしたりしています。
- ・ 町内会を巡回して住民に声かけをして、困りごと等に耳を傾けて住民との絆を深める努力をする。

その他

- ・ 地域の情報共有。(区長・民生委員・福祉委員が年数回集まり話し合い)
- ・ 福祉委員、区長として該当者を常に意識して行動しています。
- ・ 活動に参加してよかった、楽しかったと思われるための工夫
- ・ 活動協力、理解者の拡大
- ・ 自助、共助の意識づくり
- ・ 地域住民間のコミュニケーションを深める。
- ・ 自分自身が先頭に立ち活動し、発信することで賛同し、協力してくれる人が増えつつある。
例えば、環境整備、美化活動、サロンの交流活動
- ・ 子ども食堂への食糧(農産物)支援
- ・ ボランティア活動は幸福をいっぱいもらえます。
- ・ 安心、安全の地域づくりに力を入れていますが、30～50歳代の関心が今一つです。
- ・ 地域全体で支え合うことのできる地域づくりを目指し、町内会会員全員が社協会員となり、社会福祉推進のために行政に積極的に協力して地域福祉確立を目指しております。

■福祉委員 (菖蒲)

挨拶・声かけ・見守り活動の実施

- ・ ほとんどが声かけや見守り。70歳前後の人が多いが、話しかけても「まだ早い」とか「もう少し先でいい」と言って、非協力的な人が多い気がする。
- ・ 福祉委員歴が短いので、特別な事をやっている訳ではなく、地域の人々と、まずは「あいさつ」。こうすることでお互いが近くなり、情報を得られるし、発信もできる。
- ・ 住居周辺的环境保全について、日々観察をしている。

サロン活動・交流の場の推進

- ・ 「いきいきサロン」により情報を共有し、ゴミ出しや送迎などできることをしている。

- ・ ボランティア活動を通じて地域の高齢者と交流を深めること。
- ・ ボランティア活動にしても地域活動にしても「ただ」ではない。
- ・ サロン活動、ラジオ体操

福祉委員活動について

- ・ 区長代理を兼任しているので、班長さんなどから身近なところで情報があれば、話を聞いたりつないだりしています。
- ・ 一人暮らしが増えつつあるので、地域で、情報交換できる場所を作りたい。
- ・ コロナ禍の状況で、地域活動に参加する機会や、そのような場も殆どなく、福祉委員としての責任を全うできていなくて申し訳ない気持ちです。少ない地域の集まりにおいては、高齢の方へ声かけなどは行っていました。
- ・ あまり活動していない。
- ・ 早い話が、誰がどなたの見守り担当なのかは(秘)事項であり、有事に対応するようにそれとなく見守るよとの指示。このようなスタンスで出来ることは限られるように思う。話(福祉協議会の方に)を伺った際も、その点は(秘)で言えないようなことで、じゃ、どうやって進めるの?と疑問が生じた。
- ・ ボランティアなど、一部の少数で活動されているとは思いますが実際には、何をやっているのか周知されていないし、参加する人も少ないため活動実績が少ないように感じられる。

その他

- ・ コロナ退散後に、大きなイベントではなく、小学校で行われているような、誰でも参加できそうな企画を作って欲しい。
- ・ 我が地区には公園があるが、雑草が繁茂していて、子供達が園内に入る事が出来ない状態が常態化していた。従って地域に或る園に見向きもしないようになっていたが、先日は、或る地域住民より「園内の雑草を自分達で刈り、子供達が遊び、笑顔になるようにしたい」と申し出られ、園の近隣住人に「草刈り」ボランティアを募ったところ、10数人参加していただき、役所にも片づけを手伝ってもらい、翌日から、子供連れで親子が数組遊びに来てくれるようになった。役所に頼るだけでなく、地域住民自身も自ら参加奉仕の心を持ちたい。
- ・ 空地等の除草等にクスリを使用しないようPRしている。刈払機の活用等協力を進めている。
- ・ いかに資金をひねり出すか。

■福祉委員（栗橋）

自治会活動の活性化

- ・ 住宅街の空き地の草刈り、公園や集会所の剪定、ゴミ置き場の管理。
- ・ コロナ禍の中、孤立にならないよう言葉がけに力を入れていこうと思います。どの方も、話す相手を探しているように感じます！誰でも集まれる場があればよいのですが…。早くコロナが収束すればの話ですが。ただ、集会所に行きたくてもいけない方のサポートも考えるべきです。
- ・ 自主防災訓練や住民交流会の開催で、住民の親睦を深める。
- ・ 自治会行事を中心に、住民が気軽に参加し、参加者同士が井戸端会議(隣近所や地域の

話題)で情報交換しながら「お互い様」の気持ちが持てるような場づくりを意識している。

その他

- ・ 地域の皆様が気軽に参加できるように、こまめな声掛けをする。
- ・ 交通安全活動を推進していく為に、幸手地区安全協会に参加し、高齢者や子供たちの交通安全活動の手伝いをさせていただいています。
- ・ 高齢者の健康増進の為、はつらつ運動教室(健康体操)のリーダーを長年務めさせていただいています。(現在はコロナ禍で休止中)
- ・ 今はコロナ感染が心配で何も考えられません。ワクチンを打っていても感染すると言うので、まず自分の身を守る事が優先されます。

■福祉委員 (鷺宮)

挨拶・声かけ・見守り活動の実施

- ・ 「地域の環境美化は住民の手で」という考えのもとに駅周辺の清掃活動(草取り等)を実施していますが、声掛けをする住民(主に高齢者)が増えてきました。駅前通りも以前に比べれば年間を通し美しくなってきました。個人的に清掃する人も増えてきました。これからさらに活動の輪が広がれば・・・！！
- ・ 自主防災等に積極的に声をかけ参加してもらおう。
- ・ 普段より話し合い(声かけ)する。

サロン活動・交流の場の推進

- ・ ふれあい交流会で繋がりを広げるようにしている。また、サロンやグラウンドゴルフの開催もある。違う内容を用意して、本人に合うものに参加しやすくしている。大事なものは継続することだが、非常事態宣言の下では難しい。
- ・ 現在新型コロナウイルスの影響でいきいきサロンを中止しておりますが、早くコロナ禍が収束してまた、地域活動(サロン)に力を入れていきたいと思えます。

その他

- ・ ボランティア活動をやろう！と言う方がいない。サロン活動を行っていますが、参加者は不安定、組織も体制がないため、やりにくい部分もある。ロコミで会費(参加者)を増やす努力が必要なので、現状を見るしかないので・・・答えにならない。
- ・ 高齢者一人ひとりが何を必要としているかアンケートを取ってみる。
- ・ 特にありません(コロナ禍のため)。

第107条で「市町村が住民の参画によって策定」と定められているとありますが、逐条解説を見なければわかりませんが、地域住民に丸投げしているのが実態ではないでしょうか。地域の問題点をあぶりだし、第一線で身近にいる人たちがボランティアで解決しなさい、解決できなかった場合は行政がアドバイスします。これでは、町おこしや地域活動は益々衰退すると思います。諸々の活動を企画しても、積極的に参加してくれる人はごくわずかです。健康や精神面で不安を抱え、本当に福祉を必要としているような人にこそ参加して

ほしいのですが・・・理由は様々ですが、このような人は参加したくないと思っている人が少なくありません。また、無給のうえ達成感を得られないボランティア活動に参加してくれる人もいません。いきいきサロン等、高齢者を集めて様子を伺うような活動を否定はしませんが、しかし、手助けを必要とする人を見出し、その人に即した対応は困難を極めます。「藁をもすがる思い」の人、何でもボランティアを頼る等様々な人がいます。「言うは易く行うは難し」です。

福祉の必要性と取組等について、福祉を必要としている人だけでなく、老若男女、全ての住民に周知して福祉の重要性を理解してもらうことが重要なことだと思います。

頭を下げて、お願いをして、やっていただく時代です。車の貸与、事務機器の貸与、報酬など地域にも活動資金等を支給することがとても大事なことです。

こうした中で、区員の皆様には道路清掃などでご協力をいただいておりますが、地域活動を活性化するための活動には程遠いものがあります。無償でボランティアなどをしてくれる人はいません。時代は変わりつつあります。今の時代にあったやり方を工夫する必要があるのではないのでしょうか。

■くき元気サービス協力会員

自治会活動への参加

- ・ 地域社会として、駅前通りの草取り活動を住民に見せることで、自分もやりたいと思っている人に「自分にもできることを！」と考えていただければと思い、活動している。
- ・ 自治会の活性化
- ・ 地域の行事に参加する
- ・ 地域の活動に極力参加し、現況確認について絶えず配慮していくこと。日頃から機会を見て、一人住まいや体調不良の方々に配慮し、会話も交わしていくよう努める。

防犯・防災活動の実施

- ・ 令和元年から地区の会館を利用して「生き生きセミナー」を4回開催し、地域の方々の意見を参考に終活や生前整理しました。第5回の「水害と避難」について準備したが、コロナで中断中。

サロン活動・交流の場の推進

- ・ 活動する仲間づくり
- ・ サロンの充実
- ・ 現在、仕事の休みにボランティア活動を行っていますが、仕事の空き時間ででもできる活動もできるだけ参加できたらと思います。
- ・ 年を取り一人暮らしになってもいつまでも楽しく皆と集い、尚安価で食事等のできる場所がほしい。そこでボランティアを中心に意見や要望を出し合い楽しい毎日を過ごしたい。

挨拶・声かけ・見守り活動の実施

- ・ コロナ禍の中でもなるべく変わらず声かけなどをしていく。

- ・ 一人住まい高齢者への声かけ。
- ・ 独居の方へ訪問や声掛けを行っています。福祉施設の庭の管理を近所の知人4人で続けています。
- ・ まずは、自然体ですれ違った人にあいさつをしていくようにしています。高齢者の孤立化を防ぎ、地域でラジオ体操等ができるようになれば音や動きで興味をもたせる。

その他

- ・ 個人の尊厳を守ること
- ・ 相手の気持ちに寄り添うこと
- ・ 昨年、今年とコロナ禍のために活動を自粛しておりイライラしています。
- ・ 高齢者、ひとり暮らし
- ・ 透析患者なのでボランティアができたらいいなあと感じておりますが、なかなか日時が合いません。今回の音訳ボランティアも日時が合いません。
- ・ 説明？話し合いが少ないとお互いに理解不足では？どこまで入り込んで良いのかわからない。
- ・ 話しを良く聞いてあげる。
- ・ 私はお花が好きなので、ごみ置き場にお花を植えています。一年中何かしらのお花が咲くようにしています。特に力を入れているという訳ではありませんが……。それくらいです。
- ・ 生活の中にボランティアの時間を取り込んでいきたいが、なかなかうまくいきません。時間を作れるようにしたいと思います。
- ・ ちいさな困りごとでもできる限り応える。

■登録ボランティアグループ

挨拶・声かけ・見守り活動の実施

- ・ 地域のコミュニケーションづくり。(サロンや声かけ挨拶運動など)
- ・ 地域の子ども、高齢者見守り
- ・ 住民同士の声掛け運動
- ・ 住民を対象とした(ふれあいサロン)活動

情報発信の工夫や強化

- ・ 折に触れて、活動内容を周囲の人に話すこと。
- ・ 自分自身が楽しく活動し、その良さをPRする。
- ・ 市、社協等の行事には、サークルのPRを兼ねて参加
- ・ 公共の窓口に、ボランティア活動の内容のお知らせプリントがあるとよい。
- ・ チラシを作成し、公の場所に置かせていただいています。
- ・ 学校訪問時に先生や生徒に活動紹介し少しずつ理解してもらっている。
- ・ 自分たちが行っている活動を知ってもらいたい。
- ・ 行っている活動のアピールする場を作ってもらいたい。
- ・ 同様の活動をしている個人や団体との情報交換や協力、連携をしていくこと。

実践活動例

- ・ 音楽を通して皆様に元気を与えていけたらとてもうれしいです。効果が継続していることを実感。地道に進めていきたいと思っている。
- ・ 演奏会后、内部で反省会を実施するが、依頼主の意見や要望等を聞く機会を強化し、今後活動の充実に努める
- ・ 高齢者施設やいきいきサロンでもプログラム作りでどのシーンで喜んでいただけるか見ていただく、聞いていただくではなく、一緒に仲間になって楽しんでいただきたいと思います。出し物を考えています。
- ・ コロナにより活動に制限があり、活動を広げることにはできないているが、今可能なことを精一杯行っている。そうしないと会自体が消滅してしまう可能性もあるから。
- ・ 会員が元気にコロナ禍を乗り越える必要がある。
- ・ 団体として新しく参加してくれる人を募りつつ、今のメンバーで楽しく活動していきたい。
- ・ 配食サービスを再開したい。
- ・ 今年度は配膳サービスがコロナ禍のため提供できず、郵送でお便りを送っています。一人でも多くの方に笑顔で過ごしてほしいので、心をこめて出来ることを活動していきます。
- ・ ボランティア活動や地域活動がいつでも出来るように、週1回集まっている。半年に1回は感染防止対策を取りながら食事や茶会をやっています。
- ・ 地域活動が障害者支援に役立つよう活動を続けていきたい。
- ・ 趣味の会で役立つことを依頼に応じて出来るだけやっている。
- ・ 地域の道路里親の会に参加している。作業の他、人間同士のふれあいの機会になる。
- ・ コロナ前は小さなことでも皆で話し合いの場を作り意見交換して、イベントを盛り上げていた。多くのイベントや講習会を開く予定でしたが、コロナで先延ばし状態です。

その他

- ・ 情報交換
- ・ 学校や図書館等で昔話の語りや絵本を読むことを通して、こどもたちの心を豊かにし、読書の楽しみを伝えること
- ・ 地区の清掃活動ボランティアに参加している。たまに個人でゴミ拾いなど行い、地域の美化に取り組んでいる。
- ・ 地域の環境美化活動
- ・ 問合せやサロン来訪者には、誠心誠意対応すること。
- ・ 高齢者に対する支援
- ・ 福祉施設での協力
- ・ 貧困層に対する支援
- ・ 相談しやすい環境づくり
- ・ 後に続く人を育てる
- ・ 自主的に講師を呼んで研修会を開催している。
- ・ ひとり暮らしの方や知人にボランティア活動の話をしています。

- ・ 誰もが参加できる音楽の場づくり
- ・ 子どもたちへの情操教育
- ・ 年齢、障害の有無の関わらず、癒しとなるような音楽の提供
- ・ 自治会活動での学童での下校時、見守りパトロールを兼ねて道路のゴミ拾い。
月2回1日と15日実施。
- ・ 自分自身の健康維持に努力している。ボランティアに参加したい。
- ・ 朝のラジオ体操や公園の草取り:地味ですが大切な活動と思います。
- ・ 防災役員を決めて、年に数回話し合いをしている。消防署の協力を得て、地域住民と防災訓練を行っている。
- ・ 住民同士の交流のため、バス旅行やハイキングを企画し実施している。
- ・ これから活躍が期待できる元気な高齢者が中心となり、制度の狭間で支援が必要な方にサービス提供し、その対価を商店で利用できる商品券とすることで商店街の活性化につながるようなしくみづくりは大変評価します。
- ・ コロナで今は分からない。

■登録個人ボランティア

挨拶・声かけ・見守り活動の実施

- ・ あいさつをして会話の機会を増やすこと。災害時の声かけ、避難場所の明確化。
- ・ まずは参加、協力をしてくださる方を探すため、できるだけ口コミで人員を確保することから始め、参加し生きがいとして人との触れ合いを考えています。そして、参加者お一人お一人が楽しみとしてとらえていただける様、声かけを心掛けてます。
- ・ 隣近所の見守りや声かけをし、交流を進めていきたい。
- ・ 20年間、小中学校の読み聞かせをしていたことで、児童生徒への道路上で声かけをするように心掛けております。以前、高校生になった男性達が声を掛けてきてくれたのには「覚えていてくれて有難う」と嬉しくなったものです。今はコロナ禍で読み聞かせも2年程休止です。
- ・ 広く若い人たちに、日常の中で仕事をしていても学生であっても日頃の生活の中に見守りや声かけがボランティアとして活動ができるような活動をしていきたい。
- ・ 高齢者の方への声かけ、見守り。
- ・ 近所、地域を歩くときは、誰にでも(老若男女問わず)挨拶するようにしている。コミュニケーションのきっかけとなり、時には初めての人でも会話が続くことがある(特にお年寄)。下校中の小学生には“お帰り、気を付けて帰ってね”などの声かけをしている。誰でも気軽に挨拶できる地域社会でありたいと願う。
- ・ 次世代への継続として「声かけ」が大事だと思えます。なかなか難しいですが。

情報発信の工夫や強化

- ・ 広報誌などでの周知。
- ・ 活動を知ってもらい、参加してもらうこと。

- ・ 自分が行っているボランティア活動が、少しでも必要としている人たちに届き、また、活動によって地域社会のほんの少しでも役に立つことができるように考えている。
- ・ 強制や義務感を感じずに参加できるような雰囲気づくりや、活動内容をわかりやすく、広い範囲の方にお知らせできるように心掛けています。
- ・ 自分ができることがあれば出席したい。話し合いではいろいろとあります。年齢がいつていますので、今では何のボランティアがあるのかわかりません。
- ・ 自分が参加しているボランティア活動を、周りの方に(趣味の会合、地域)知ってもらえるよう、また興味を持ってもらえるように話している。

実践活動例

- ・ 地域でやるべき活動や清掃やごみ集めを積極的に実施。
- ・ 子ども食堂
- ・ ふれあい電話サービスボランティアを行っています。一人暮らしの方は不安を感じているので、少しでも気にかけていますよとの意思表示をしたい。
- ・ コロナ禍における小さい子を持つお母さんたちの悩みなど、公園で移動図書(移動文庫や絵本の読みかたり等)をしながらお話してもらえる機会をつくらうとしています。実際にコロナで児童館や支援センターなど使えず、公園に来ている方がたくさんいて悩みを抱えている方がたくさんいます。
- ・ 環境対策を重点に置いている。ゴミが街中にあふれている現状をいかに対策を講じられるかだと思ふ。微力ながら小生なりにコツコツと身近なところから実行しています。
- ・ 防災意識、災害対策
- ・ 自宅周辺をまわってみて、地域の変化に気付くこと。
- ・ マジック、食絵(卵の白身で描く絵)
- ・ 福祉施設、配食サービス
- ・ 自治会活動への参加、協力。
- ・ 他の会との情報交換。
- ・ 2007年より、地域の方の健康維持、交流の場作りを考え、懐かしい歌を歌う会を主催しております。昨年2月より新型コロナウイルス感染予防のため、会を休止せざるを得なくなりとても残念ですが、会員の動向は把握したいと考え、定期的に連絡をとっております。会員それぞれが集い共に歌えるようになることを切望しているので、私もその日が一日も早く来ることを心から願っております。大きな声で歌うことで、身体、心の活性化が図れ、皆で声を合わせて歌うと一体感が生まれ楽しい気分になります。懐かしい歌にはその時の様々な思いが込められていて、歌っていると自分でしか振り返ることのできない当時の自分に出会えます。その歌の時代背景、作者にまつわるエピソード等も紹介しながら皆で歌って、これからの人生をより豊かな楽しいものにしていきたいと考えております。

ボランティア活動の意義・考え

- ・ 参加したいと思える、参加者が来てよかったと思えるような企画。
- ・ 自分自身の健康管理、ボランティア仲間との協調
- ・ 今ひとつ活動の域がよくわかっていません。私自身、70代という年齢ですので多くのことはできませんが、ボランティアの方々の集まりがほしいと思います。
- ・ 私はまだボランティア活動を少ししかやっていないので、自分にもできそうなものを探るのが大変です。ボランティア活動、地域活動に参加してみたい人が自分に合ったものを見つけやすい方法を考えていただきたいと思います。
- ・ コロナ禍、ボランティア活動も休止、行政(社協さん)の方々の大変さを慮るのみです。
- ・ 実践している事はないのですが、いろいろな場面で思うことは、今の長となっている方々の力の強さです。若い年代がそれらに馴染めずにいます。変化も受け入れてほしいです。
- ・ 参加意欲の助長。
- ・ コロナでボランティア活動できる機会も減ったが、直接的な活動ができなくても、「気にかけていますよ」という「つながり」をボランティア先にも伝えている。
- ・ 自身の健康管理、相手の立場になって対応すること。
- ・ 可能なかぎり活発に活動に参加する。

■ふれあい・いきいきサロン (久喜)

サロン活動・交流の場の推進

- ・ 楽しく集える場を作る
- ・ ふれあいサロンを開いて交流の場を提供していく
- ・ コロナ禍の活動は他のボランティアとのつながりもなく、閉鎖的になりがちなため体を動かせる機会と場を探して活動に取り入れている。(ウォーキング、花壇整理)
- ・ 出来るだけ地域の方々に知っていただき、多くの皆さんに参加して少しの頭の体操や体を動かす運動等出来れば良いと思っています。
- ・ サロン活動を通じて、多くの住民の交流が生まれる様にする。
- ・ コロナでサロンの活動もままならず、参加人数も少なくなり知恵を出し合い模索中です。
- ・ 皆さんがなんでもできることを多く取り入れてほしい。(体操や歌、ゲーム)
- ・ いきいきサロンに集ってくる人が元気になって帰ってもらえるような内容。
- ・ 地域の方に声をかけてできるだけ家にこもらないようにサロンに遊びに来るように話しかけるが、今はコロナの問題があるので無理な方が多い。サロンとしては毎回できるだけ飽きがこないように和やかに、少しでも楽しく過ごせるようにをモットーにスタッフも楽しんでいきます。
- ・ 自分の住んでいる地域で集まって何かをする場を作ることで、皆が集まって話をしたり、何かを作ったり、見たり、聞いたり、鑑賞したり等することで、皆が楽しく有意義に過ごすことができ、コミュニケーションづくりにもすごく良いことだと思ってやっています。自分も楽しいです。
- ・ 高齢者、ひとり暮らしの人たちを集め、自分も含め楽しい時間が持てたら趣味があれば

教え合うようにすると個人の励みにもなり、外に出ることへの楽しみにもつながるようになる。ひとりでも多くの人に物を作る楽しみ、話す楽しみ、明るく楽しいおしゃべり会に。

- ・ 自由なおしゃべりを通して皆さんにそれぞれがいろいろな意見を出し合い、楽しい会となるようにしたい。
- ・ 笑い声の絶えない居場所づくり(孤立、孤独対策)
- ・ サロン活動を心待ちにしているという声も聞き、感染しない、させないに十分注意し、10月頃から活動を開始も検討中。
- ・ 一人でも多くの人が地域に溶け込めるきっかけを作りたい。
心の拠り所となる場所として人が集まりやすい場所にしたい。
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大の防止のためにほとんどの集いや祭り事も中止され制限される中感染防止を考慮しながら、いきいきサロンを誰もが気軽に集まれる憩いの場として心にとめていきます。
- ・ コロナで中止しているが、花火大会、餅つき大会等を開催している。

挨拶・声かけ・見守り活動の実施

- ・ あいさつや日ごろの声かけ
- ・ 独居高齢者の見守り
- ・ 高齢者の見守り
- ・ 地域の見守り
- ・ 挨拶運動、仲良く助け合い。
- ・ 高齢者や一人暮らしの人に「ひきこもり」にならないように、声かけをしていきたい。
- ・ コロナで人に会うのが少ない時なので、出会った時にはなるべく声かけをして話し合うようにしています。
- ・ サロンの案内を回覧してもいつも決まった方しか参加されないのでは、機会を見て直接声かけするようにしている。
- ・ 多くの方々に声かけをすること。参加して下さるよう「あなたが出て下さると嬉しい」と参加をしていただくことが第一と考えています。
- ・ 「いきいきサロン」により情報を共有し、ゴミ出しや送迎などできることをしてお互いに助け合っています。堅苦しいボランティアなどでなく、ご近所づきあいの発展が助け合いにつながっています。集会所を使って趣味の交流などいくつかのサークルができています。その結果助け合いが生まれています。コロナワクチン接種時には、85歳以上の希望者を接種会場まで送り届けました。
- ・ 高齢者の困りごと相談やお手伝い(例えばワクチン接種ネット予約や送迎)
- ・ 地域活動には多くの人と会話することにより「またね」の言葉でまた話が出来ても道歩いて人と話が出来るとはとても幸せですから、挨拶だけでも良いと思います

ボランティア活動の推進

- ・ サロンの手伝い
- ・ 自発的な姿勢こそ大切です。活性化とは誰もが思っていることを続けていくことが

できる気持ちの支援がなければ長続きはしないし、途中で挫折してしまいます。私は、公園の木々や草花の手入れ、町内会活動、役員として少しでも活発的に交流の場を年間で草取り、納涼祭、芋煮会、子ども会と合同で実施したり、役員、班長さんの協力で、コミュニケーションの場を作ったことは、コロナによって今は消されてしまっているが、ささいなことからは始まっている。

- ・ 地域の安心と安全を守るため、コロナ禍の中でも自主防災代表や自治会長、民生委員との連携をとりながら地域の見守りを行っています。ただし、サロンの開催や親睦の活動が不可能なため、近所からの情報を得ながら個別の対応をしています。
- ・ 防災についての不安あり、声かけして考えを聞いたりしている。
- ・ 自治会活動を強化し、地域の様々な方とのふれあいの機会を増やし、またコロナウイルスが拡大傾向の中、ひとり暮らしの高齢者等対象者の訪問活動。
- ・ 私個人は介護施設などでハーモニカの演奏をしたい。
- ・ 交流活動などへの参加で、自分の意識を少しでも高められるよう努力している。
- ・ 町内会活動の充実(公園の草取りや花植え、砂場等の清掃。)さつま芋等を植え芋堀り大会を行っている。
- ・ コロナ感染の影響でサロンが中止になっている状態だが、なるべくつながりを継続していくように折をみてプリントやカードを配布している。
- ・ 自治会を通じて花壇の手入れやサロン等を通じ少しでも多くの方々と交流ができたのが良かったです。
- ・ 高齢者の方たちが孤立せず、地域で明るく生活していけるようにお助けしたいと思っている。今はコロナ禍で難しいですが、自分も高齢になっているので少しずつ活動していきたいです。
- ・ 現在サロンに参加しているがもっと手軽に地域活動に参加することに抵抗感を取り除く努力をしていきたい。

情報交換や共有の工夫

- ・ サロン等を利用した口コミ
- ・ サロンを通じて情報の交換を実施し、一人暮らしの孤立を防ぐ。
- ・ 情報の共有
- ・ 同様の活動をしている個人や団体との情報交換や協力・連携をしていくこと
- ・ 区長、民生委員、福祉委員、自治会役員の情報交換会の定期開催(食事を楽しみながら)

その他

- ・ 活動を推進するためのスタッフの確保
- ・ 活動の場を多くする。
- ・ 特に高齢者へのサポート
- ・ 住み良い生活の場づくり
- ・ 遠くの親戚より近くの他人というようにするため、地域活動に積極的に参加ようにしている。(顔を覚えてもらうため)
- ・ お互いに来ることを出来る時に行動して無理はしない。

出来ない時は断る勇気も大事。

- ・ 活性化させるために人と人とのふれ合いを大切にすること。

■ふれあい・いきいきサロン（菖蒲）

サロン活動・交流の場の推進

- ・ 地域の親睦会で各種イベントする。但し今はコロナの為中止中。
- ・ 週に3回グランドゴルフをやっています。
- ・ みんなが楽しめる場づくり→歌声ひろばの開催
- ・ 月一のお茶会(サロン…談話、手足の運動)
- ・ いきいきサロンの定着

挨拶・声かけ・見守り活動の実施

- ・ ボランティア活動や、地域の活動に参加して、市、社協、民児協、自治会等の御支援を得て、地域の方々と交流を図り、挨拶や声かけをしている。
- ・ 相手の立場になり、寄り添いながら行動すること。
- ・ 地域の方々への声かけ、あいさつ

■ふれあい・いきいきサロン（栗橋）

サロン活動・交流の場の推進

- ・ 友達作りで気軽に来られるように、次も楽しみにして下さるように。
- ・ いきいきサロンえんがわを充実させていきたいと思えます。
- ・ 近所のお茶飲み場として、気軽に足を運んでいただけるような雰囲気作り。
- ・ 月に一度でも集まって楽しい時を過ごす。そして、孤独ではない、お互いが繋がっていると感じる事が大事である。
- ・ 地域の繋がりの場として「いきいきサロン」を行っているが、交流やふれあいの中から近隣の情報交換ができています。
- ・ いきいきサロン。
- ・ 地域によるサロンの参加。
- ・ サロンの開催。
- ・ サロンを通じ、交流を広めたいという思いで活動をしています。現在、コロナ禍の影響で活動ができず残念に思っています。参加者の方々にお聞きしますと、人と会うことで気持ちが明るくなり、刺激され、頑張る気力が湧くという声を聞きました。
- ・ サロン活動の継続とPR。会員資質向上(サロンの振り返り研修)
- ・ 共に活動する人を増やす努力。
- ・ 来訪者とのきめ細やかな交流。
- ・ サロン活動を区長さん、運営委員、地域住民達と協力し行っている。
- ・ サロン、自治会共に同様ですが、地域に子供会、老人会、婦人会などが無いので、子供～高齢者まで年齢にとらわれることなく住民の誰もが参加できるような雰囲気を

一番に考慮し、興味を持っていただけるような企画を心がけている。

- ・ いきいきサロンで防犯情報を警察のご協力でご実演していただいたり、高齢者の健康維持のため、軽い運動や頭の体操を行い、時には演奏会で歌を合唱したり。また腹話術で笑って一日を楽しく過ごしていただき、孤独感を感じさせないように地域の皆さんとの繋がりを行っています。しかし、コロナ禍で開催することができず残念です。
- ・ サロンを通して地域の方とコミュニケーションをとり、顔見知りになること。
- ・ 隣近所の人たちとの交流活動。誰でも楽しく参加できる場所作り。
- ・ サロン運営をすることで、地域住民の方々にスタッフとして参加。利用者として参加していただき、皆で支え合うことを自然の形で行っています。
- ・ リーダー人材の育成。
- ・ 町内会のボランティアで町内の小公園に四季の草花を咲かせて、子育ての夫婦や高齢者の憩いの場としているが、自然と挨拶や声掛けが出来る。
- ・ 自治会さんと協力し合い住民間でのコミュニティの場を作る。そこで得た情報により、助け合える関係を作る事を大切にしている。
- ・ 防犯パトロール時に通路のゴミ拾いや声掛け運動を兼ねて行っている。
- ・ 地域の福祉活動は、自治会のバックアップが必要ですが…。住人(民)が住みやすく、元気に過ごすためには、お互い支え合い、助け合う気持ちが大切で、交流の輪も広がり、活動も充実してきています。今後は自治会の理解、協力を得られるよう話し合いを持つ事が課題です。

■ふれあい・いきいきサロン（鷺宮）

挨拶・声かけ・見守り活動の実施

- ・ 声かけをしたり、あいさつをしたりを大切にしています。

サロン活動・交流の場の推進

- ・ 地域住民の交流の場を増やしていくこと。
- ・ 地域住民との交流を深め、災害時や緊急時の対応を的確に把握しておくこと。
- ・ サロンなどの活動になるべく参加するようにしています。
- ・ グラウンドゴルフ、サロンなど高齢者が参加できる行事の開催。
- ・ 集会所の定期的な開放など、高齢者や一人世帯の方々がふれあえる場の提供。
- ・ ラジオ体操や餅つきなど、親子で参加できる行事の開催。
- ・ いきいきサロンの活性化。目標としているのは高齢参加者の介護予防と認知症予防です。
 - ①介護予防について、運動で筋肉量を減らさないこと。この対策としてグラウンドゴルフを月8回開催している。また、歩け歩けも月2回実施している。
 - ②認知症予防については、手先を使うことが効果的と考え、手芸を月1回実施している。グラウンドゴルフや手芸で参加者が繋がるこのことは認知症予防に役立っていると考えている。コロナ禍は室内で群れることがダメであれば、野外で活動するしかない。
- ・ 知恵を使って、工夫して野外中心に活動していきたい。
- ・ サロンを通じて、互いが知り合いになり連絡をとれるようになった。

コロナワクチンの予約や会場までの送迎もサロン内で協力して行っています。

その他

- ・ お年寄りを真に支えるのは福祉はもちろんですが、その方がそれまでしてきた暮らしの継続、生きがい、周囲の人とのつながりだと思ひ、それを念頭にいれて毎回活動しています。
- ・ 「チョットした作業・手伝い」を通じて住民同士をつなげるシステムの構築。
- ・ 指導者の確保と育成。

■地区コミュニティ協議会

挨拶・声かけ・見守り活動の実施

- ・ 高齢者世帯への声かけ
- ・ 若い世代への声かけから交流を増す。
- ・ あいさつ、情報を知ること
- ・ 声掛けやあいさつを必ずするようにしている。
- ・ 見守りボランティア
- ・ 出会い、ふれあい、語り合いの大切さを機会あるごとに話している。
- ・ 声かけ運動

学校との連携

- ・ 学校教育活動を通して活動を推進
- ・ 地域学校を中心に応援体制の基盤づくりを行いボランティア活動の出発点とする。
- ・ 子どもを対象とした催事を行う。
- ・ 学童見守り強化
- ・ 放課後子ども教室

サロン活動・交流の場の推進

- ・ サロンの活動に力を入れている。
- ・ ふれあい・いきいきサロンの活用
- ・ とりあえず参加してもらい、みんなで参加する意識。
- ・ 周りの人達との交流を積極的に図るよう努めている。
- ・ サロンの活動の応援
- ・ 地域コミュニティへの参加
- ・ 地域での見守り活動、交流サロン
- ・ 高齢者の健康維持のため週2回朝のラジオ体操を実施中。今後もさらに参加者の拡大を図りたい。
- ・ 地域サロン活動支援
- ・ 子ども食堂支援

自治会活動の活性化

- ・ 自治会活動を行っているが、地域の居住者は高齢化しており次の人を決めることが難しくなっている。
- ・ 道路、公園清掃
- ・ 防災活動の充実(防災会の活性化、防災訓練)
- ・ 防災訓練を通しての活動を増やす。
- ・ 防災対策
- ・ 年間を通して環境整備活動を計画しているがコロナ禍で実現できていない。
- ・ ボランティア活動、地域活動を織り込んだ事業計画を策定されています。
- ・ 町内会役員スタッフに若い人たちに参加・参画してもらうようにしている。

その他

- ・ 地域の情報共有(区長、民生委員、福祉委員との情報交換会)
- ・ 社協、市からの発信力の向上。(誰もが分かりやすい説明と行動)
- ・ 回覧板でボランティア活動への呼びかけをするが、関心が低く反応がない。
- ・ できる限り地域活動に参加する。
- ・ 協力者の輪をいかに広げていけるか
- ・ 定期的な活動として、サロン、防災、防犯パトロール、清掃を実施。
- ・ まずは自分ができるところを進んでやっていこうと思っています。活性化はなかなか難しいので、できることをできる人がやるという小さな輪を広げていけたらと考えます。
- ・ 情報を共有しながら自治意識や価値観が同一になるように努める。
- ・ 自分ができるところからはじめている。ボランティアと上から目線でなく。
- ・ 音楽サークルの運営
- ・ 自宅周りの草を伸ばさないようにしている。
- ・ コロナのため昨年からはじめられなくなりました。
- ・ 人々と安心して暮らせるような取り組み

問7 地域福祉を進めていく上でご意見がございましたら、自由にお書きください。

■民生委員(久喜)

社協への提言

- ・ 社会福祉協議会及行政(市福祉課)との連携強化と情報意見交換の場を更に活発化してほしい。
- ・ 福祉委員の構築
- ・ 増々高齢化が進む中、民生委員だけでは手の届かないこと、気づかないことも多くなっていくと思う。福祉委員にもっと活躍していただけるよう、また民生委員と協力を深めながら進めていけるとより充実した地域福祉になるのではないかと。

- ・モデルとして数か所でもいいので、年度始めの地域総会などに社協から参加者を出して啓発のメッセージを市民に地域福祉の考え方を伝える。
- ・コロナ禍でサロン活動を中止している。地域のお年寄りの方々の楽しみも減ってしまっている。集まれなくてもできる活動があればご紹介ください。昨年クリスマスはカードとプレゼントを参加歴のある方々に戸別配布して大変喜んでいただきました。
- ・福祉のことで困ったことがあると社協に相談している。どんな些細なことにも丁寧に対応してくださり感謝している。
- ・生活福祉資金の貸し付けを受けている人がいますが、社協から年に何回も償還状況の連絡がまいります。いつも同じ状況なのに何回も出す必要性があるのでしょうか。私は年に1度でよいのではないかと思います。
- ・より良い福祉サービスの提供とは具体的にどのようなサービスがありますか。
(レンタルの福祉用具以外)
- ・地域にごみ屋敷状態の家がありますが、本人が望めば支援はできますか。
- ・公助をアピールして自助共助も必要な事を住民一人一人にいきわたるように積極的に広報してほしい。
- ・市民の意見を知るために市民交えての意見交換をする。この時には働勤として見合った代価を支払う。また結果の報告もする。
- ・市と社協とのすみわけ、共通の部分等わかりにくいところがあるかと思います。社協と民協で協力してできることをやっていきたいと思えます。
- ・地域住民の声を届ける(地域の実態を届ける)役割があるのではないか。
- ・バスや車で移動ではなく、歩いて参加できるような地域に密着した誰もが参加できるアットホームなサロン等ができると思います。

市への提言

- ・市役所の地域への関わりが発進されない。もっと身近な存在にならないと有事(大災害)の時に動けないのではないか。
- ・民生委員、児童委員の立場や権限を明瞭にしてほしい、現在の立ち位置はわかりにくいと思っています。
- ・全体に情報がいきわたるようにしてほしい。新しい人たちが入ってきたときにも困らない方法を考えてほしい。
- ・地域全体の意識でかわっていくため、本当に適正な人が関わっていければと思っている。ひとりが何役もやる現状で、多くの人に関わっていけるようになったら良いと思う。いろいろな手当てがどのように出ているのか、誰もがわかるようにしたら良いと思う。
- ・区長や民生委員などの地区役員とのコミュニケーション
- ・民生児童委員は多年にわたり活動している人が多いが、区長はほとんどの地域で2年制のため代わりが早く、地域活動の定着、新しい取り組みがない。それで任期が済めば終わり。
- ・区長さんは2年交代なので防災組織を立ち上げたとしてもリーダーシップを継続できない。防災は急務なので行政で「どのようなかたちか」を示して地域で実行できるよう

にされたい。防災だけでなく他にもあると思うが。

- ・ 災害時要援護者リストの件です。昨年と同内容のリストを受け取りましたが、1名の方は住民票を移さず、高齢者施設へ入居済みでした。昨年度にその旨を市の担当課へ申し出ましたが、そのときは「わかりました」と言われたので、リストから削除されるものと思っていました。要援護者本人が実際には居住されていないと判明したら、情報の上書きをすることができればよいのにと思いました。
- ・ 65歳以上の方は市の高齢者台帳で把握できますが、64歳以下の方はどう調査できるのか、と区長代理と話をしました。区長に話がくればどんな問題かわかりますが、全くなければ知らないのが実情です。隣近所の付き合いがあまりない家庭も多く難しいです。
- ・ 災害時、緊急時の避難のしかたについて、研修はあったが市でも推薦例など提示してくれると助かる。
- ・ 第2民協はとにかく高齢者が多く、いろいろな面で手が回りにくい。また役所などからの情報が伝わってこなかったりするので、情報共有ができない。
- ・ 役所から電話がありましたが、留守電に部署と名前を入れてもらえるとよい。
- ・ いきいきデイサービスを希望する人が参加できるようにしていただきたいと声がありました。
- ・ 道幅を広げて安全に行動できる、歩道の設置
- ・ 耕作放棄地の有効的活用。市が有償で借上げ畑づくりをしたい市民に貸す。
- ・ 高齢者はネットやスマホなどの機器は苦手だと思います。最近のワクチンの予約などを見てもわかると思います。もっとわかりやすいツールが必要だと思います。
- ・ アセットマネジメント推進課による公共施設個別施設計画によれば、身近な公共施設として利用していたところがこれまでのようには使えなくなりそうです。主旨は理解できますが、代替サポートの案なく数字のみのデータで打ち切りという方向に思え、地域福祉が後退することを危惧しています。
- ・ 住みやすい街として取り上げられている地域を参考にする。
- ・ 地域内の小中学校を拠点とした地域づくりが進められたらと思います。
- ・ 行政はやる気があるのか？全く疑問。もっと一人一人、やる気を出してほしい。

その他

- ・ 高齢者が生活に困ったり、支援が必要と感じた時、悩まずここなら即相談にのってもらえる場所が目に見えたら安心していける場所が欲しい。市役所の門は高齢者にとってハードルが高く感じるそうです。
- ・ 民生委員として町内会に関わり、高齢者を見守るうちに我が事として高齢者福祉を考えるようになりました。高齢者夫婦の私たちは在宅介護が一番の目標です。エンディングノートを開きながら、どういう風にこの町で最期まで生きたいかを模索しています。
- ・ 全てではありませんが、若い世帯の方の地域社会活動への関心の低さや個人情報の壁に歯がゆい思いをしています。一件一件、個々のつながりや信頼関係を築くことに注力し、少しでもわずかでも進めていけたらと思っています。
- ・ 現在、コロナ禍でなかなか対面での活動ができていない中、訴え、相談がないと動けていない。

- ・ 個人情報、コロナ禍などの問題もあり、地域での訪問や働きかけに積極的になれない。
- ・ 支援が必要な人と、それを支援する側とのバランスがうまくとれることが大切だと思います。
- ・ 齢と共に耳の状態が悪くなり、会話・講演等での理解力が落ち、つらいです。若くて健康な人に活動をお願いできたらと思います。
- ・ 高齢者が家から出られる(行動)できる社会状況の推進
- ・ 地域活動への参加
- ・ 年を増すことに相手まわりに対する思いやり、心配りができてくると良いと思います。
- ・ 公園や駅前ロータリーの植え込みの刈り込みボランティア
- ・ 長い目でみられる世論の確立(SNSやAIでない人間理解)
- ・ 手間をかけた息の長い取組み(障がい者訓練、失業対策など)
- ・ 未来を担う子どもを媒体とした多種多彩な対策など
- ・ 情報の共有が必要。特定の人だけが知っているだけと言うのは先に進まない。
- ・ 様々な立場の方々と協力し合って進めていくこと(意思疎通を図る)
- ・ 福祉に限らず、生活に関する相談や支援など、広報や市のホームページで、興味を持っている人はいろいろ調べて活用しているが、案外、どういう物があるのか知らない人が結構いるイメージです。私も今までよくわからなかったけど、意識的に見るようにしています。やっぱり生活していくのにある程度知っていた方がいいですよ。なので、市役所なり社協なり、年齢を決めて(例えば、65歳になったらとか。)、個人個人に日程表を書いた物を一部分の人達だけで取り組むのも？疑問に思うので…。市民の皆さんも周知するようになれば、もっと地域福祉とか防災意識も高まるのではないのでしょうか。

■ 民生委員 (菖蒲)

市や社協への提言

- ・ 現場で活動する人々が、現状認識を理解した上位計画や行動指針を策定してほしい。
- ・ 久喜市の中でも旧4地区各々地域性や人口分布等が異なるので、それぞれの地区で地域の特色・ニーズにあった個別の活動・サービスが受けられるように、柔軟性のある施策、体制作りを望みます。
- ・ 民生委員と行政区長が連携をとり、協力していく事が大事である。
- ・ 1人でも多くの困った人が、生活保護を受けられるようにしてほしい。
- ・ 障がい者に対する理解と支援策を強化していく必要があると考える。
- ・ 外国籍の方への接し方がわからず、声をかけずにいる。どのように接したらよいか教えてほしい。
- ・ 誰もが交流が出来る場所、その中で地域の人々と、生き生きと生活(対話・健康づくり)出来るように。
- ・ 高齢化が進むなか、一人暮らしの人が増えている。地域だけでなく、みんなで支え合える環境づくりをつくってほしい。淋しい気持ちの方や相談できない環境もある。気軽に相談できる場所(憩いの場)があったら良い。
- ・ 地域には色々な特技をお持ちの方が多勢いるので、行政がもう少し後押しして下さると

活性化するのではないか。

地域課題

- ・ 商店が少なくなってしまう、買物に高齢者が大変困っている。
- ・ 高齢者世帯が多くなっている今、特に農家の多い地域では、買物等移動手段に困っている(移動の充実)。又、子供達が遠くまで行かないと遊び場がない(公園の充実)。通院もできない(訪問診療、往診の充実)。
- ・ 一人暮らしの方が買物、病院に行くのにとっても不自由しているので考えてもらいたい。2人暮らしの高齢者世帯の方も同じように不自由している。

その他

- ・ 「信用」はとても大切にしている、失うと取り戻せないと思っているので、言葉であったり接し方には注意をしている。先輩委員に相談したり、行政にお願いするなどしながら進める。
- ・ 市、社協、各団体関係の皆様が相談や要望等に対して、お忙しい中、親切丁寧にすぐに対応してくださり、又、時間外でも安心して活動しやすく助かっている。
- ・ 知らない人には挨拶しないという若い人が増え、自分の子供にも躰の一環のような様子が見られる。挨拶は基本と思うが、昔のように向こう三軒両隣の関係が地域福祉には一番望ましい型と思う。

■ 民生委員 (栗橋)

社協への提言

- ・ 社協は役所的(偉く)になるのではなく、むしろ地域住民の目線、組織になって活動してほしい。(他の組織に下請け的な依頼を行うのではなく)自ら相談支援を行えるような組織になってほしい。例えば活動窓口の曜日・時間等役所が閉じても相談できる幸手市の地域福祉活動も参考になるのでは。
- ・ 健康講座や趣味講座等色々計画していただいておりますが、交通手段がなかなかありません。当日だけでも考えていただければ有難いです。
- ・ 「みんなでつくる福祉のまち」今後も社協の方々の心強い対応をよろしく願いいたします
- ・ 現在コロナ禍で、福祉のサロンの交流活動は高齢者の方が多数です。体力の為とはいえ、完全に治まるまで開始は控えていただきたい。
- ・ コロナ禍で活動が制限される中で、どのように実態把握に努めるか。

市への提言

- ・ 水害等で避難指示が出たときに、どこに避難すればよいか。収容力はあるのか。
- ・ ひきこもりを相談できる担当課をおいてほしい。
- ・ 自分が住んでいる地区の民生委員が、誰が担当だかわからない方が多いので、回覧とかで知らせた方が良い。
- ・ 高齢者が増加していく中で、PC等の対応を含めいかに早く情報を伝えるか。

交通(移動)手段について

- ・ 地域の高齢化が着々と進んで来ている状況から、「日々の生活の為の買い物」「定期的通院」の実現の為の交通手段を導入して欲しい。生活の基本が約束されて初めて他への思いが行き届く。そうでなければ愚痴ばかりの諦めの地域となってしまうでしょう。
- ・ 高齢者が増えていく中、交通機関の充実を図ってほしい。私も今は車で移動しているが、これから先、デマンドだけでは不安です。本数が少なくても、マイクロバスのようなものが市内を循環してくれて、必要に応じて乗車できるようにしてほしいです。だんだん外との交流がなくなっていくのではと思います。
- ・ 基本は高齢になっても自分のことは自分でできる、自立していることが大事だと思います。その為には、交通の便を良くする。例えば、デマンドの拡充(久喜市全体を自由に乗降りできる)、ふれあいタクシーの更なる料金の割引等で高齢者でも行動を活発化し、高齢者でも健康増進の為、施設に出向いたり、自分の食べたい食材は自分で買い物を確保できる等、生きる力を自ら継続していく。
- ・ 福祉等の相談を直接市役所等に連絡できる人は現在でも行っていると思いますが、足が不自由、目が悪い、耳が遠い、自転車に乗れない等、直接市役所等に連絡ができない人の場合の相談を吸い上げる方法、市としてのしくみ作りの検討。

その他

- ・ 隣近所で声掛け運動をし、何かあったら協力し合う。
- ・ コロナ収束後、改めて考え直していく。
- ・ 人と人との繋がりが大事だと思う。
- ・ 自治会との連携が難しい。
- ・ 見守り活動を進めるうえで、女性の単身世帯に男性が何う場合、警戒心を抱かせない手法。
①複数で何う②相手方との信頼関係の構築③外観からの見守り中心④ポスティングによる情報伝達等、何うことによって相手方にストレスを与えない方法を考えていきたい。
- ・ 災害が起きた時に地域住民の心の拠り所となる防災拠点の整備を実行する。
- ・ 福祉活動の担い手(民生委員)になる人がいない。ボランティア活動に頼らない方法を考えるべきである。
- ・ 福祉を受ける側、福祉を支える側のお互い理解をしていく機会が大切に思います。色々な年齢の方が交流できる機会を通しお互いが支え合っていることを通し、生きがいの心が湧いて、小さな思いやりから地域独自の福祉へと。
- ・ 人の出入りが多い地域で互いを理解する場、機会等を工夫していくことが必要。

■民生委員(鷺宮)

社協への提言

- ・ 見守り、声掛け訪問がコロナでできないので悩んでいる。良い方法を教えてほしい。
- ・ 参加が難しければ、金銭で相殺しても良いのでは？
- ・ ある会合で社協会員になるとどのようなサービスが受けられるのかと聞かれました。

一般人が関心を持たないのか、興味が無いのか、それとも PR 不足なのか…。

- ・ 地域によっていろいろな特色があります。それらに合う、活かせるような事業や福祉サービス等発信してください。
- ・ 福祉の情報をわかりやすく伝えることが大切と思います。
- ・ 若い人が参加できるような講座等を日程、時間を考慮して設けていくようにする。
- ・ 社協内に「福祉啓発チーム」を作り、地域を巡回していく。
- ・ コロナが終わったら、少人数でも集まる場がほしい。

地域課題

- ・ 個人情報やプライバシー保護の観点から見守りくらいしかできないのが現状。
- ・ この時期コロナ感染リスクが高いため、地域活動が制限されているので、サロンも休止状態で住民との交流ができていない。
- ・ コロナが終わらないと動けない。近所の老人たちもマスクで苦しいなどあり良い対処がない。
- ・ 意識や理解度の格差を感じる。少人数でも参加、協力していただければよい。
- ・ 担当地区は高齢化が進み、空き家も増えている、高齢者が高齢者を見守る状況になりつつある。先々地域福祉がどうなっていくのか不安です。
- ・ 元気な高齢者は各自好きなカルチャーができているが、福祉の担い手にはなっていない。
- ・ 若い人は家庭で手一杯です。

その他

- ・ 高齢化の中で、行政組織の活動が必要。住民へ配布する行政文書を分かりやすくする。
- ・ 近所の方が親切心で「デイサービスに行ったら？」と声をかけてくれたが、人とのかかわりが苦手で、できるだけ自分のことは自分でと頑張っている方が、「すぐ近くに気兼ねなく参加できる場があればいい」と話していました。
- ・ 民生委員の見守り活動も大切ですが、ご近所同士、明日は我が身のお互いさまの見守りも大事かと思います。(プライバシーを守ることもありますが…)
- ・ 普段からのご近所づきあい、コミュニティーの広がりが基本ではないでしょうか。
- ・ 高齢者だけでなく障がいを持った方が増えつつある現代、様々な状況のもと何らかの障がい者が問題を抱えています。そのような方が様々な福祉の担当者によって支えられ、生活できる環境が垣間見えることがあります。障がい者に寄り添える専門スタッフの充実もさながら、周りの人達も積極的に手を差し伸べるすべはないものかと考えます。誰でも多かれ少なかれ、大なり小なり障がいは持っているという自覚も必要ではないでしょうか。
- ・ 元気な高齢者が互いに支え合う高齢者社会を作らなければいけないと思いますが、自分勝手な高齢者が増えているような気がします。
- ・ 高齢者の方へ、持ち独居(連れ合いの方をなくされた方)への声かけを継続して、みんなで楽しめる場(サロン)の終活を願って実現を目指していく。

■福祉委員（久喜）

情報周知について

- ・自治会で毎月情報を知らせている。
- ・福祉活動の内容を住民が理解して参加できるよう情報を伝えてほしい。
- ・サロンが開かれていることを町内会の役員以外の大多数が知らないのではないか。町内サロンの場所、日時等の周知は誰が行うべきか。町内周知は町内会と察するが旧市町、久喜全体についてはどこが行うか。不要か。
- ・住民が高齢化していく中で、地域活動を活性化させる他地区の事例の紹介等あれば、参考としたい。

地域福祉について

- ・地域福祉などという大層な言い方をせず、地域の助け合いとして発展させていくべきです。要援護者名簿も地域にはできていますし、誰が誰を助けるか？緊急時の用意もできており、日頃の練習を頻繁にすることが必要かと思います。防災訓練も含めて。
- ・「地域福祉」ってそもそも何だろう？よく理解されていないこともあり、各自治会に出向き短期間で講話、講習する機会をいただきたい。広く啓発活動を。
- ・地域福祉という言葉自体がわかりにくい。助け合い活動。福祉委員は見守り委員、助け合い推進委員など。個人情報意識が強すぎ、隣近所や地域の交流を避ける傾向。社会福祉課と社協連携がうまくとれているのか疑問。
- ・高齢化しつつある地域において、地域の中で課題を解決できるサービスや仕組みができるといいと思う。遠くの誰かにお願いするのではなく、ご近所の人に気軽にお願いできる仕組みができればいい。遠慮せずをお願いできる仕組みができればと思う。
- ・地域福祉活動としてどのようなことが行われているか、参画するにはどうしたらよいか、新たに参加することのハードルを低くする。

社協への提言

- ・地域の高齢化と少子化が進む中、「健康維持や地域交流の充実」といっても個人や地域にできることは限られています。行政と、地域の間で日常的に改善してほしいことや、解決策、あるいは新しい取り組み要望等に、耳を傾けるお役目の人がいるといいのではないのでしょうか。そういうシステムがあると、例えば「市民がそれぞれの地域の適所で、毎早朝ラジオ体操に参加できる体制を作る」等の活性化が図れると思います。
- ・サロン等交流活動の場に足を運んで、困っていること等、意見を聞いてみたらいかがでしょうか。先人の方々の経験豊かな発言に見いだされる事がありそうです。空き家の有効活用を早急にぜひお願いしたいです。
- ・社協でもフレイル予防の対策を検討してはいかがでしょうか。
- ・福祉活動、政策の充実にはマンパワーと予算の拡大が不可欠
- ・活発に活動されている地域の発表などを聞き、自分たちの地域の活動に役立てたい。

連携について

- ・ 町内会役員会と当該地区民生・児童委員との連携(情報交換)
- ・ 民生児童委員協議会と社会福祉協議会、区長会との連携を強化するための方策を練り、一体的に事にあたる必要があると思う。
- ・ 高齢化が進んでいるため、社協への連携が大切。

その他

- ・ 高齢者世帯、単身老人世帯の増加等、地域は毎年弱体化しています。非常な危機意識を持っています。
- ・ なるべくひとり暮らしの人が多いため、散歩しながら声をかけています。元気であるかわかりますので、やっています。
- ・ 心の大きな方、優しい方がトップにいて地域がよくなるように思います。
- ・ 年々高齢化のスピードが速く、ますます老老介護が進行しています。この2年、コロナにて世の中が一変しています。今後の変化にいかに対応していくかも大きな問題となりそうです。
- ・ 現在、福祉委員による区内パトロールを月1回行っていますが、今後町内会の人も自由に参加できるようにと考えています。
- ・ 高齢化が進み、やはり見守り支援が必要だと思います。
- ・ 地域活動を進めていきたいと思いますが、自分も高齢になり、積極的にできる人もなく、そのままになっています。
- ・ あまり他人の家庭にふみこまないよう自然な感じで声かけをしたい。
- ・ なかなか参加できないですみません。
- ・ 何もわからず福祉委員を受けてしまって、何の仕事もせず3年目に入ってこれでよいのか考えています。1年目に近所のゴミ屋敷問題が区長さん、近所の方等とお話し合いを持ちましたが、結局強制はできず、いまだに解決できておりません。困っております。
- ・ 集会所の予約がとれない。
- ・ 身体機能障害者を町内会イベントに同行できるスタッフを養成
- ・ 近年は自治会の役員も高齢化しているため、多くの人の地域参加が切望される。このことが今後の地域福祉に最も必要なことだと思う。
- ・ 2022年に予定される各集会所の統廃合による当該集会所の閉鎖に伴う各種会議、交流活動への影響を心配する。

■福祉委員（菖蒲）

- ・ 福祉委員のミッションを明確に伝え、様々な事例紹介などにより、どんな場合、どのようにサポートすればいいのか、常々、教育・研修をしていただければと思う。第2次活動計画についても、今回の案内で初めて知った。少なくとも、任命時には福祉委員の導入教育的な場を設けていただきたい。一昨年10月の利根川決壊のおそれの際には何とか避難所まで誘導的なことができたが、あれで良かったのかも不明。
- ・ このアンケートの中にも書いてあるように、「自分地域の課題は、自分自身のことと考え、行動していく」。これはとても重要な事だと思う。常に人に頼ってばかりいると、不満が

増加するばかり(やってくれないからと)。そうではなく、自分が自らその問題に参加、取り組んでゆけば、不満は減るのではないか。

- ・ 日頃の交流の中で、アパートのお住まいの方や外国人の方などとの接点が少ないためアパートの持ち主または管理会社さん、外国語ができたり外国人の方が日常的に行かれたりする場などで、地域のことなどを知らせる場がつかれるといいなと思います。
- ・ たとえば、何かを市や社協にお願いをしたとしても「それは自治体でやってください」的な枠が多く、どうせ何もしてくれないという思いが市民にあるので、お役所仕事を越えて取り組めるような態勢にするしかないと思う。
- ・ コロナ禍の中、難しいとは思いますが…、ボランティア指名を受けてから横のつながりが無い(?)。1度は集まりがあったが、都合で出席できなかった。
- ・ これまでに経験のなかったコロナ禍のような不要不急の外出は控えなければならない状況は、福祉活動を難しくするものだと実感させられました。
- ・ 何もあった訳ではないが、(例)民生委員さんなどが声かけ(情報)などあってもいいのかも。
- ・ 気づき、見守りなど活動をしたいが、情報がなく活動出来ていない。
- ・ 地域福祉などという大層な言い方をせず、地域の助け合いとして発展させて
- ・ 協力する人があまりいない。
- ・ 菖蒲町、栢間赤堀川は、以前に比べて、ゴミが少なくなったように思う(ボランティアの方々の清掃のためか)。
- ・ 菖蒲町の下栢間地区にある弁天沼周辺(特に北川歩道)には、空缶、ペットボトル等のゴミの散乱が目につく。利用者のマナーに期待したく思う。
- ・ 機具とケガは自分持ち…。
- ・ 空屋対策遅れている。

■福祉委員 (栗橋)

- ・ 情報を伝えていく事。みんなが手に取って見られる情報を。
- ・ 老人の日常生活支援に資する施策が大切となっています。
- ・ 地域(自治会、マンション群、新興住宅、商業地域、農業地域、高齢者地域)で生活環境はそれぞれ違うので、地域に合った講習会等を開催し、住民の意識高揚を図っていくべきだと思う。
- ・ 福祉委員を任命され、活動していきたいが、個人情報等の制約もありなかなか活動ができていません。民生委員の方や町内会長との情報の共有化を図りながら、高齢化社会の中で皆さんが不安のない世の中になるようお手伝いしたいと思います。
- ・ 福祉体制はかなり進んでいると思いますが、それを受け入れる住民の意識改革も合わせて必要と思われます。

■福祉委員 (鷺宮)

- ・ 少し若い人が参加して、活動が円滑に引き継がれ、回っていくために育成の場を企画してほしい。

- ・ 自己努力で地域の福祉情報を入手するには限度があります。一人暮らしの高齢者の居住実態等を把握する手段がないでしょうか？団地居住の一つのネックですかね！！
- ・ なかなか難しいが、お互いに話し合い、互いを知り合うこと。
- ・ 活動している人が高齢になっている。
- ・ 地域福祉、またその活動について、より理解していただけるように、繰り返し、福祉について学ぶ機会を増やす。
- ・ 福祉計画は市民に行動を促す行政計画であり、第一線での行動するための計画はありません。例えば、ゴミ出しを手伝う。1回やってあげると、毎日やってくれるものだと思い込んでしまう。人を頼りにすると使える人は誰でも使うといった気持ちが芽生えてくるものです。感謝する心を忘れた。お互いさまが通用しない。これが現代です。将来を見据えた福祉政策のビジョンはどのようなものでしょうか。今だけを乗り切れば、今与えられた仕事をすればいい。地元任せれば何とか収めてくれる。あったか会議で課題を話し合ったからと言って、それ以上進展するでもなし・・・ただ金をばらまくだけの福祉でなく、必要なところには金を出してお願いをする時代です。厚労省や県の指導も大事でしょうが、実態に即した福祉、根本を見直す計画づくりが求められているのではないのでしょうか。

■くき元気サービス協力会員

社協への提言

- ・ 除堀、原、樋ノ口にはいきいきデイサービスはあるがサロンがない。みんなが集まれる場所を作ってほしい。
- ・ 社協のリーダーシップを発揮して、地域の情報をケースバイケースで落とししてほしい。
- ・ 支援を必要としている方が、気軽に支援の申込みができるようその声を吸い上げる仕組み作りと情報発信。
- ・ 困っていることや心配なことを相談できない状態をなくす。知識、情報がなくわからないことがある。地域から社協へそして市へと連携できるシステム作り。
- ・ 福祉依頼の掲示板で依頼内容がわかると対応しやすいので、福祉事務所や市役所などにわかりやすい掲示板があるといいと思います。

その他

- ・ 福祉サービスを受けることについてのハードルを下げると同時に、自分でできることはやってもらうこと。(自立支援の手助け)
- ・ 住民の立場にたって行うこと。
- ・ 小単位(町内会くらい)の交流をもっと活発にしていきたい。
- ・ 地域住民が顔や名前の理解が進まないと参加(活動へ)が進まない。
- ・ 福祉委員は「遠くから見守る」ということでうわさ話で私自身終わっていた気がします。現在自治会のお手伝いさせていただいております。役員の方々と話し合ってそれを住民の皆さんに話したり、顔を覚えてもらったり声かけなど始まったところです。

- ・ あまりの高年齢者のスピードが早すぎて地域福祉が追い付いていかないのが現状ではないかと思います。一丸となって地域福祉を進めるためには、各地区長からの意識を高める必要があるのではとも思いますが、なんせその方々も年齢が高すぎて活動の妨げになっているのではないかととも思いますが。風通しの良い方向に進むことを願います。
- ・ 車いすの要介護者を抱えた方が、災害時の支援をしてもらうため、民生委員あてに要支援の登録をしたけれど、台風19号の避難時に結局何の連絡もなく、自宅に二人でいたそうです。意味がないですね。何を支援するためのものなのでしょう。
- ・ まずはご近所さんから広げていくことが大切と思いますが、昔と違いお互いに我関せず的で、さみしくもあります。皆さん時間がないこともあり、仕方ないのでしょうか。年齢を超えての交流も必要と思います。
- ・ 私の地域では出ていきたくても交通手段がない。もう少し公共交通の便を良くして気楽に外出したい。
- ・ コロナ禍の中困っている人を取り残さない、とりこぼさない。
- ・ 独居で体調の悪い方のゴミ出しを手伝っていますが、燃えるゴミの回収は2週に1回。あとの月2〜3回のゴミ出しを引き受けていますが、本人は迷惑をかけるかと気にされます。週1回取り組んでもらうことはできないのでしょうか。困りごとは小さなことが多く、ストレスになっていると感じます。
- ・ 市のSDGs市民ワークショップに栗橋地区のメンバーとして参加しました。その中に
 - (1)福祉関連として以下の提起あり。
子どもの遊び場(居場所)がないことについての課題提起あり。
フードパントリー、子ども食堂への期待値あり。
 - (2)当地区の期待値の①は「住みよいまちづくり」でした。最大の不安に洪水があり、災害に対する安心安全確保が大切です。
- ・ 地域の組織や活動の運営上、隣近所や体調不良、高齢者の情報交換を前進的に実施していくこと。
- ・ 活動者の高齢化に伴い、随時全員で募集の声掛けを行っている。

■登録ボランティアグループ

社協への提言

- ・ 社協の職員さんをもっと増員してください。大変な仕事です。皆さんの心と体が心配です。
- ・ まずボランティア活動のPRをお願いしたい。
- ・ 菖蒲内のボランティアがもっともって一緒に活動、行動ができるように進めていきたい。
- ・ それぞれの人の立場や意志、気持ちを尊重してほしい。
- ・ ボランティアは長期の継続が資金的に苦しいので、多くの人材が長期間活動できる環境づくりをお願いしたい。
- ・ 柔軟な資金援助とコーディネーターなどが地域活動者と施設や学校などに活動をつなげるシステムの構築
- ・ 地域福祉を進めるためには、組織作りと目的を明確にして、人が集まり活動することである。

そのための研修などに力を入れること。

- ・ 社協の職員が各自治会に出向き、社協で行うこと(ボランティアの中身など)説明をしてほしい。社協って何するところ?と聞かれたことがあります。
- ・ 働きながらボランティア活動をする人たちが集まれるように工夫していくことが必要。
- ・ 相談ごとがある人が不安なく行ける窓口が必要。
- ・ 地域住民や団体が主催する集会等に社協の職員が出向き、社協事業の説明や専門知識を活かした講義・実技等をお願いしたい。
- ・ 社協や福祉関係のお世話になる、手続きする場合の書類の記入が大変。もう少し簡単にしてほしい。1人暮らしで高齢だったら大変。

その他

- ・ 地域の人々をひっぱっていきける指導力を持った人がなかなかいない。
- ・ 後継者づくり(ボランティア、自治会、サロンなど)
- ・ 活動拠点が遠い
- ・ 高齢者や障がい者の方、施設等に入居されている方々がどんなことを望んでいるのでしょうか。少しでも寄り添えたらと思います。
- ・ 隣近所同士がお互いに関わりを持たないように生活する風潮がある中で、これを考えることは大変に難しいテーマだと思います。しかし与えられた役割に対しては誰でもこれを果たすよう努力するので役割の与え方が大切かと思っています。
- ・ 社協の方にはいつも大変お世話になっております。社会福祉が市民の方々に自然に芽生える社会に成長していくことを望みます。
- ・ 地域の高齢化が進んでいる中、ボランティア活動を担う次世代不足の問題にどのように取り組んで良いか悩んでいます。
- ・ 持ち家と借家が半々の地域では高齢化が極端に進んでいます。高齢者の見守りが必要。
- ・ コロナが落ち着き次第、例年の行事を再開させたい。
- ・ コロナ禍の中で支援を求める方法も分からず一人で苦しんだり悩んだりする人がないよう地域ならではの細やかな配慮が必要だと考えています。
- ・ 隣近所の見守りや声掛けの気持ちは皆持っているので、遠慮しないで頼めるような関係を普段から作っていくとよい。民生委員さん頼みでなくとも。
- ・ 日本は超高齢化社会です。毎日のように救急車音が響いています。悲惨な最後を迎えることのないように、もっとしっかりとはっきりした官民一体の活動が必要であると常に考えています。
- ・ 協力者の参加が第一で、賛同する方が集まりましたらぜひ子ども食堂・高齢者食堂が出来たらと考えています。
- ・ ケアマネジャー個人の資質の問題であると思うが、きちんと話を聞いて色々調べてくれる人とそうでない人がいる。
- ・ 大変お世話になっております。職員の皆様の笑顔の対応、いつもありがとうございます。

■登録個人ボランティア

ボランティア活動への提言

- ・ 地域の活動という今までは退職して時間ができたからと自分の居場所として活動しているのに、自分の考えを押し通す人がいます。このままでは、何も変わりません。若い人が離れるばかりです。若い人達の意見を取り入れていく。仕事をしていても活動ができるように考えていただければよいと思います。
- ・ 世代で引き継がれる体制づくり、気楽にボランティアを希望できる改善。
- ・ 現状、回覧板等、ポストに入れていくのが普通となっています。隣近所の人々との顔もほとんどで会わず、頭を下げるのが現状です。コロナ禍だからでなく、地域で何かすることも今迄もやっていません。先頭に立ってやる人がいないのが現状です。70代が多くなりつつあり、やはり何か考えないといけないですね？アイデアがほしいです。
- ・ 地域福祉とは、まずそこに住んでいる人を知らないと思わないと思います。なかなか自分の弱い所は語らないので、やわらかく1人で悩まず困りごとなど語っていただき、地域で支える活動ができれば最高ではないでしょうか？私はそれを目指しております。
- ・ 今まで、地域福祉というものに全く関心がなかったのも、まずは私のような人たちにも興味を持ってもらえる活動(具体的には浮かびませんが)をすることだと思います。私も微力ながらその一員になりたいです。
- ・ 声かけ運動ややりがい行動、役目、役割をしっかりと決めておく。
- ・ 昔と比べて地域の方々の交流の場が圧倒的に減っている。このままでいくと、ただ住んでるだけという状態になってしまうと思う。なんとか横のつながりが持てないだろうか。交流の場があったとしても、参加する人が少ない。
- ・ 最近、新しい住宅が増えてきたので入居者たちを地域の活動に取り込みたい。
- ・ お年寄り向けのサロンにも参加しているが、高齢者という限定された集いの場でなく、誰でも気軽に立ち寄れる場(ハード面、ソフト面共に)が欲しい。世代を超えた交流ができることを望む。魅力的な町づくりにもつながる。
- ・ 福祉の基本は側に寄り添うことだと思っています。専門職の人、ボランティアの方々も“もっと寄り添って支援する”ことを心がけてください。
- ・ 若い人たちも参加しやすいよう、また興味をもてるような取り組みが必要に思います。

活動場所・集会所への提言

- ・ 集会所、支援センター、サロンなどちょっと寄って遊んだり息抜きできるような場所が必要と思う。今はコロナ禍もあり、うまく活用できていないようにも思う。特にふれあいセンターは良い施設であるのに予約がとれない。1時間単位で予約するシステムを検討してほしい。
- ・ 高齢化時代を迎えるので、集まりやすい場所や行事を増やしていく。
- ・ ふれあいセンターではなく、菖蒲地区で活動が多くあるといい。
- ・ 空き家の活用、その運用の法整備。公民館まで行かれない人々に、身近でより交流できる場所の提供。

社協への提言

- ・ サロンはどこでやっているのか知らない人も多いのでは。
- ・ ボランティア活動に関心がある人を、どのように取り込み、継続していってもらうか、また、今後長く活動を続けられる年代の人に、いかにアプローチするか課題があると思います。
- ・ ボランティア活動を紹介していただき、必要とする人が相談、利用できるのが望ましいと思う。せっかく登録してあるのに、活かされていないように思う。
- ・ コロナ禍、ニュースを見ていて、こども応援ネットワーク埼玉久喜に協力できたらと思います。社協さんとの関わり合いの中で協力できることがあればと思います。ボランティアの方々に情報公開を望みます。
- ・ 古くからの習慣があつたり若者の住人が減少していく中、これからの新しい地域の在り方のヒント、提案、方向性など発信してほしい。
- ・ 地域コミュニティをどう作り上げていくのが課題のように思います。コロナ禍で大変ですが、徐々に進んでいければと思います。
- ・ 平日はフルタイムで仕事をしているため、土日祝に手話講座やボランティア養成講座を開いていただきたい。
- ・ 地域の実情を常に把握。
- ・ 今回、社協加入者を募る回覧が来ましたが、加入者が少ないことに驚きました。もっと社協の存在をそして役割を理解してもらうことが大切だと思います。
- ・ する方も受ける方もボランティア活動のハードルを下げられたらと思います。周りを見てみると、友人、知人、隣人同士の配慮や助け合いは多くみられます。ただ助けを受ける方は「お礼」を気にする人が多い。いろいろな考えの人がいるので、難しい点もありますが、元気サービスは共助の良いシステムだと思うので地道に拡げていってください。

その他

- ・ 地域が高齢化してきていること。地域のイベントにあまり参加してこないのも、孤立が心配される。
- ・ これからも移動文庫の活動を行いながら、地域の皆さんに公園に行けば移動文庫さんがいると安心して、そしておうちで育児に悩む方が行き詰ってしまわないように悩みを聞きながら、子どもたちもたくさん絵本の楽しみ方に触れてもらえるようつとめていこうと思います。(絵本の移動文庫 415 文庫)
- ・ 高齢者への見守り支援は民生委員さんが行っている仕事でしょうか。
- ・ 毎年、年間で決定している内容で行事を行っているだけ…？ 区長、役員で決めたことだけやっているのかなど。民生委員もいるのかもわからずの状況である。区長、民生委員のやってほしい地域活動方針などの教育、協議会を開いて、徹底してすべきである。
- ・ 当局との情報共有が必要。
- ・ アンケート問 2 は間違った回答をしているかもしれません。久喜市が合併し、以前はボランティア連絡協議会やその他会合にも多く参加していたので(現在、個人そして車も運転しないので、ふれあいセンターまではなかなか行けません)情報が多く入って様子もよくわかりましたが、今は社協だよりのみですので、あまり身近に感じられなくなり残念です。
- ・ 青葉団地のスーパーがなくなると買い物が大変(最近、求人募集の声を聞く)。

■ふれあい・いきいきサロン（久喜）

地域福祉について

- ・ 地域福祉などという大層な言い方をせず、地域の助け合いとして発展させていくべきです。要援護者名簿も地域にはできていますし、誰が誰を助けるか？緊急時の用意もできており、日頃の練習を頻繁にすることが必要かと思えます。防災訓練も含めて。
- ・ 地域福祉は自分もかならず誰かのお世話になるという、人間の生活の営みの姿であり、決して自らの力で解決しなければならないものでもないはず。自助、共助、公助という言葉が簡単に使われていますが、誰だって自分一人で人は生きていくことなどできないのだから、共助もあっていいし、国の手助けや自治体の手助けもあって当たり前前の社会であってほしいと思えます。そうした世の中になっていないから、日本の福祉は自助努力を求められているような気がしている。
- ・ 障害を持った子供たちも大きくなり、その親も高齢になっていくので、地域の中だけでも、現状を知り支えあったり見守っていく思いが育っていければと思う。
- ・ 私たちの子供のころは「ゆりかごから墓場まで」このような考え方は今では死語になってしまいましたが、納税者の一人として「ゆりかごから墓場まで」税の使い道をもっと福祉に比重を多くしてほしい。
- ・ 多くの方に関心を持っていただくと良いと思えます。
- ・ 地域活動が色々な面で活発になることが地域福祉の向上につながるのではないかと思います。
- ・ 地域では区長を通して行政に相談をしたりと区長の役割が大きい。
- ・ 集まった人が孤独にならず、雰囲気づくりをし、友達が友達を誘い合って参加できるようにし、仲間づくり、それに地域づくりをし皆で暮らせるまちづくりをめざす。

コロナ禍での対応

- ・ コロナ禍でサロンの開催がままならない中で何ができるか、役員会で検討していきたい。くき社協ちゃんねるの動画で認知症等の講座をみて、会員との意見交換などしていきたい。講座を多様化してもらいたい。
- ・ コロナ禍で本人は参加したくとも、周りの意見に左右されて参加できない等のこともあり、人集めに苦労することもあります。今は地道に継続しているよと伝えています。
- ・ 地域のため、ひとり暮らしの方に参加していただくことを一番に考えてきましたが、農村部の方が区長などしているの、なかなか前に進まず大変です。コロナが終息したら、話し合いをより行い、前進できたらと思います。
- ・ 家から外に出かけられない人が多くなった。そういう人たちへの情報をもっと知らせしてほしい
- ・ コロナ禍終息後の活動は現在のスタッフで再開可能と考えますが、長期間の活動を考えると支援者としての担い手が見つからないことが最大の懸念材料です。「参加はするが担い手にはなりたくない」との返答で続けていく難しさを感じています。
- ・ 個人情報、コロナの問題などがあり地域の人々のコミュニケーションを積極的に働きかけにくい。
- ・ コロナ禍でサロンを一旦止めてしまうと、特に高齢者はもう行かなくていいやと思ってしまう。

どのような形であってもつながりを維持することが大切だと思う。

今後への提言

- ・ 道や店内が安全で誰でも使い易いようになれば良いと思う。
- ・ 必要としているのに、その方法がわからず困っている人を早急にキャッチできる方法を確立する。
- ・ どこに相談してよいかわからないという人があまりにも多い。
- ・ 高齢者でも先を見据えた生活ができるよう、様々な活動を取り入れてほしい。
(例、福祉施設見学)
- ・ 男性の方が集って何かできることでもあったらいいのにと思います。
- ・ 行政及び社会福祉協議会との連携強化と情報意見交換の場を更に活発化してほしい。
- ・ 夫婦で共に認知症の家、老年介護の家等支援をお願いしたい。
- ・ 地域住民は互いに支えあえる活動の組織(サロン等)への支援を社協から受けられれば実効性が向上すると思います。
- ・ 個人情報への柔軟な対応。
- ・ 幅の広い歩道、公園の整備
- ・ 地域祭への補助金増額
- ・ 活動サポーターの質の向上と充実
- ・ ボランティアの育成(中・高生)
- ・ 誰もが気軽に、ボランティアになり支援でき、気軽に支援される側になれるような「場」があればいいと思う。
- ・ 地域活動を活発に行うには各自の意識もありますが、何かヒントなり、サポートをお願いできたらと思います。
- ・ 赤ちゃんやママや小さい子どもが安心して過ごせる場所や遊べる場所がない。
子育て支援センターは場所ごとに特色があるが、情報をえることが難しい。知りたいときに気軽に聞ける窓口があるとよい。支援センターの紹介があるとよい。
- ・ 妊娠中から地域や相談窓口とつながれるような仕組みが必要
- ・ 社協は高齢者支援のイメージがあり、子育て支援の情報をもっと発信してほしい
高齢者が集まるサロンで地域の子育て世帯に声をかけたところ喜んで参加してくれた。
- ・ 公共施設の縮小が図られる計画があるが、もっと大きい児童館ができるとよい。子どもたちが児童館に入れず、仕方なく公園に集まってゲームをしたりという現状がある。

その他

- ・ サロンを始めたころより人員が少なくなったようですが、多くの人が参加するよう思っています。
- ・ 福祉事業は公的機関が中心となるのが当然と考える。
勉学も大切だが地域福祉の重要性に関する学校教育、ボランティア手帳の活用
- ・ 小・中・高生など、学校でボランティア教育をして若い人が福祉に関心を持ってくださると幸いです

- ・ 地域住民が困っている時は、助け合える社会でありたいです。
- ・ 気軽に話し合えるようにコミュニケーションをもつことが大切ですね。
- ・ 急がず無理せず、一人一人が出来る範囲で身近なことから近隣の方に見守りに意識を持って心掛け支援の役に立てたらと思います。意見ではありませんが
- ・ 本町1丁目は特に高齢者で一人暮らしの方が増えてきたように思う。

■ふれあい・いきいきサロン（菖蒲）

- ・ 市、社協、各団体関係の皆様が相談や要望等に対して、お忙しい中、親切に丁寧に直ぐに対応して下さい、又時間外でも、安心して活動し易く助かっています。
- ・ 行政に係わりのある区長と民生委員等が連携をとり、協力していくことが大事である。
- ・ 地域の様々な役職の方々との交流ができると良い。(連携・意見交換等)
- ・ 基本目標の1「生き生きと自分らしく暮らすことができる地域づくり」について、一人一人が自分らしく暮らすことができる為に具体的にどんなことをしていくことが必要か考えていたきたい。(声を聞く、話し合う場)

■ふれあい・いきいきサロン（栗橋）

市や社協への提言

- ・ ボランティアの場所や内容等がわかるように。
- ・ 私は民生委員・児童委員、サロン活動を通して地域の方々との親睦・交流を深めています。その中で色々な福祉の要望などが多いのですが、その都度社協の方々に繋ぎ、すぐ対応していただき、大変皆様にも喜んで頂き、感謝しております。いつも窓口では、丁寧な説明やアドバイス等笑顔で接して頂き心強く思っています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。
- ・ 多くのサロンを主催している方々の心配等の声を拾って、改善する方向へ持っていく事が大事だと感じる。自力では来たくても来れないという状況になって来ているので、車の手配？等どのように考えていけばよいのかわからない。
- ・ 久喜市は市民まつりをボランティアが中心に行う等ボランティアに理解のある人が多いので、ボランティア推進の仕組みを横断的に作ると良い。
- ・ 福祉委員は共助のキーマンになりますが、きめ細かな活動を推進するため地域別に福祉委員会を組織すると良い。(例：小学校学区単位)
- ・ 久喜市の良いところに、地域毎の活動に「地域福祉の取組み」を組み入れて、久喜市に相応しい仕組みを構築して欲しい。
- ・ ボランティア活動には限度がある。サロン等の活動においても活動費をもっと多くしてほしい。指導者等にももう少し謝金を出さないと長続きしない。他市のように活動に見合う資金援助を考えてほしい。
- ・ 年齢に関係なく、様々な年齢層が混じって参加できるような交流活動を開催していく事が大切だと思います。
- ・ サロンの場合は対象者への働きかけ、PRが必要だと思います。

- ・世界的にも自然災害が増加している中、栗橋地区は水害の危険度が非常に高く、災害や緊急時の体制を早く構築してほしい。
- ・福祉サービスを受けるのに抵抗を感じる方は一昔前に比べると少なくなっているとは思いますが、高齢者や障がいを持った方が利用すると思われる人が多く感じます。その思いがサービスを受けることに抵抗を感じることに繋がっているのではないかと。誰もが利用するにあたり(必要になった時に)抵抗のなくなるような世の中になっていくためには、支え合うという気持ちを育てていくことが大切に感じています。また、行政だけが福祉の窓口になるのではなく、企業も福祉に関わっていくことが必要になっていくと思います。(相談しやすい環境を整えるために)

その他

- ・一人暮らしの男性が多くなり、この方々の交流が難しいです。
- ・困った時の相談・対応の窓口は公的な市役所等となっている現状です。家族構成によって働き盛り世代が両親や兄弟(親族)の生活や身体面でフォローをせざるを得ない家庭環境に陥った場合に、対応がスムーズにいくように、各企業に相談員や対応していただけるような(手続きを含めて)体制構築を近い将来に望みます。(社会的な制度)
- ・参加者の高齢化に伴い、往復の際に転んでケガ等してはいけないという不安(心配)を感じる場合があります。

■ふれあい・いきいきサロン (鷲宮)

- ・餅つきや運動道具などイベント用貸出備品の充実と貸出窓口の一本化をお願いします。(社協のほか公民館や市民プールなどが分散管理しているため。)
- ・出前講座の充実。現在は、主に社協の職員が講師を務めているが、企業や有識者など外部講師も活用し、メニューを増やしていただきたいと思います。
- ・一人住まいの方の安否を定期的を確認するため、自治会と連携できる事業があればいい。
- ・地域相互の助け合いという観点から広い心で他地域の方々も使用できる集会所であってほしいと思います。
- ・自治会に拒否的な住民もいる。
- ・サロンなどは参加者が概ね固定化されてしまう。若い世代や親子連れにも集会所を活用してもらいたい。高齢者だけでなく若い世代を対象にした事業があると良い。将来的には集会所で自由にお茶飲みができるようにしたり、子ども食堂を開いたりしたい。

■地区コミュニティ協議会

市や社協への提言

- ・社協の方も、学校がお世話になる子ども未来課の方も、教育活動の協力、子どもや家庭に対する相談に親身に受けてくださっています。今後もよろしくお願いします。
- ・地域の住民が意味を理解し、活動できるように知らせる方法、共感を得る方法を考えてもらいたい。福祉するのではなく、住民の立場になってほしい。
- ・地域と社協をつなぐコーディネーター的な人が数人いるとよいのでは

- ・ 相談窓口の紹介だけでなく、模範となるような事例の紹介などを読み物として届くと自分の地域に置き換えて考えることができよと思う。
- ・ 情報の伝わりやすさの向上。
- ・ 広報活動が少ないと感じる。何をしているか、どこへ行けばよいか分からない。
- ・ 福祉内容を必要な方々に常に周知方法は？(パソコン・スマホ等を使わない方々)
- ・ もっと広く地域福祉に関する情報をわかりやすく広報してほしい。
- ・ 市、社協がもっと地域に入る仕組みを考えてはどうでしょうか。
- ・ ある部分までは「自分のことは自分です、地域のことは地域で課題解決をする」という意識を養う地域組織、コミュニティづくりが必要ではないでしょうか。
- ・ 地域活動を推進していく上で個人情報がいづもネックになる。市及び社協等が解決をしていく必要がある。
- ・ 支援が必要な方への一歩踏み込んだかわり、交流、支援
- ・ 支援が必要と思われる方々(当事者)への直接の聞き取り(代表者へではなく)
- ・ 助成金が少なすぎます。

その他

- ・ 個人個人が周囲の状況、環境等に注意を払う。
- ・ 少子高齢化の実態を数値として示し、住民の意識を変えたい。
- ・ 高齢者が増えているため、どのように活動していくかわからない。
- ・ いろいろな人がいるので公平感が必要。
- ・ ひとりでの生活者が多くなっており、見回り等、民生委員さんの不足が見られる。補助的な役割を期待したい。
- ・ 老いた人が多くなっているようで民生委員にもっと頑張してほしいと思う。
- ・ 居宅の近くに集まれる場所が必要である。様々な情報がきちんと届けられるように、また、届けられた情報が分かりやすく実施できるようにしていけたらよいのではないか
- ・ ボランティアでの限界を超えた時の次につながる福祉の充実
- ・ ゴミの分別方法の冊子は参考になりませんか
- ・ 住民の顔と名前が分かる世の中になるといいですね。
- ・ 個人情報の範囲について検討する必要があると思う(公開範囲について)
- ・ 地域でのあいさつ・声掛けによる、どんな人が近くにいるのか把握
- ・ 人間はひとりでは生きていけないことは理解しているものの、いざそれを組織的にどの様に構築していったら良いのか、難しい問題であるだけに、より多く福祉に関しての語り合える場をより多く機会をつくり機会をとらえていくことが必要大切かと思うが、難しいですね。
- ・ 行政の具体的な支援が必要

3 グループワークでの意見

久喜市全体で、ボランティア活動を活発にするためには誰が何をしていくことが望ましいか

■ くき元気サービス協力会員

情報発信の工夫や強化

- ★ 社協の活動内容をもっと宣伝する
- ★ 社協職員を中心に社協の宣伝のチラシを配ったり、出前講座等でアピールする
- ★ 回覧板で元気サービスのチラシをまわして周知する
- ★ 協力会員自身がPRする
- ★ 相談が集まりやすい地区のリーダー(自治会長や区長、民生委員等)にまず事業を理解してもらいリーダーから住民に周知する
- ★ 近所の方や知人にお手伝いを頼むことができている人もいる。自治会の集まりの中で社協事業を紹介していくと広まると思う。

くき元気サービスについて

- ★ 協力会員を地区別に配置する。同じ地区の協力会員同士で気軽に相談ができる。地区の民生委員さんとも柔軟に連携できる。
- ★ 地区の福祉委員が協力会員を兼務する。
- ★ 支援を行っていても、実際にどんな困りごとが多いのか、どんな依頼が多いのか不明。社協職員を中心に民生委員等を交えて、その地区での困りごとが分かれば支援を行う協力会員もやる気が上がるし、地域活性化にもつながる。
- ★ 活動者による内容説明、実技等を報告会等により広く知っていただく。

社協への提言

- ★ 久喜市でも地域性が異なるため、その地域ではどんな特徴があるのか社協職員から教えてほしい。
- ★ 普段から社協職員が抱えている会員からの相談なども話してもらえれば協力したい。

■ 登録ボランティアグループ

情報発信の工夫や強化

- ★ PRが重要。
- ★ 紙でも映像でも、社協がどんどんPRしていく必要がある。
- ★ 社協でYouTubeちゃんねるを活用してPRしてほしい。
- ★ 市民まつりや動画でのPRが施設や知育の集まり等ボランティア活動先につながる。PRの場や機会を作っていく必要がある。
- ★ 活動者たちも「楽しい」ことを周りにアピールする。
- ★ 活動紹介の動画をいろんな場所でみられるとよい。
- ★ みんなに活動内容を知ってほしい。一人ひとりが普及に努める。

- ★ 定年間際、直後の人への呼びかけのため、企業を対象としたボランティア講座を開催する。地域で説明の場を設ける等、社協でできることももっとあるはず。
- ★ 時間的余裕のある”若い人”というのは 60 代以降の退職者。市民大学や高齢者大学の授業の中で、活動紹介を行う。
- ★ 学校(昼休み等)で活動紹介の動画を流すことで若い世代へアプローチする。
- ★ 社協と団体が協力して社協ホームページにボランティア団体の動画を掲載

久喜市との連携

- ★ 市の広報はボランティア情報がない。久喜市の協力が必要
- ★ 教育委員会と連携し、小中学校の教育の中でボランティア活動に関する紹介や体験を取り入れていくべき。行政、学校、社協の連携問題
- ★ ボランティアと市民活動の境界線が難しく、相談窓口が分かりにくいいため、社協と市が連携し相談窓口を分かりやすく設置する。

その他

- ★ 「何とかしたい」という想いで仲間が集まりグループを立ち上げたが若い世代は SNS のつながり等はあるが仲間がいても先に進まない。今ボランティアを続けている人たちは貴重な存在。その人たちが辞めないための支援が必要。
- ★ 「ボランティア体験会」を開催してはどうか。自分の思う通りの活動か、自分もできるか分かるので入りやすい。
- ★ 「有償」とすることで、活動者や高齢者も励みになるのではないか。団体の中には決められた研修を受けないと活動できないものもあり、「有償」だとやる気もでる。
- ★ 学生に声をかけて一緒に活動
- ★ 他団体の活動内容や悩み等様子が分からないため、情報交換の場があれば横の繋がりができ、活性化につながるのではないか。

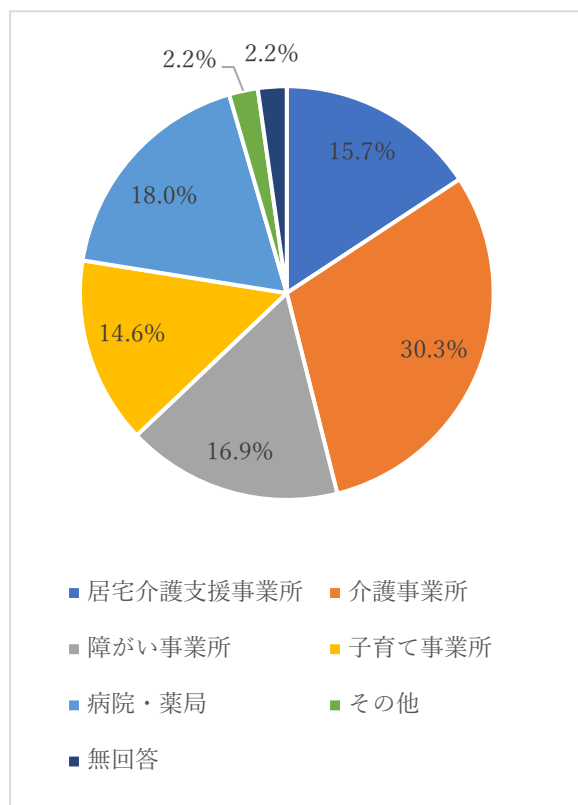
4 調査結果 < II 専門職 >

(1) 回答者の属性について

属性	回答数
居宅介護支援事業所	14
介護保険サービス事業所・施設	27
障がい児者福祉サービス事業所・施設	15
子育て支援機関・施設	13
病院・薬局	16
その他	2
無回答	2
合計	89

その他

- ・シルバー人材センター
- ・商工会

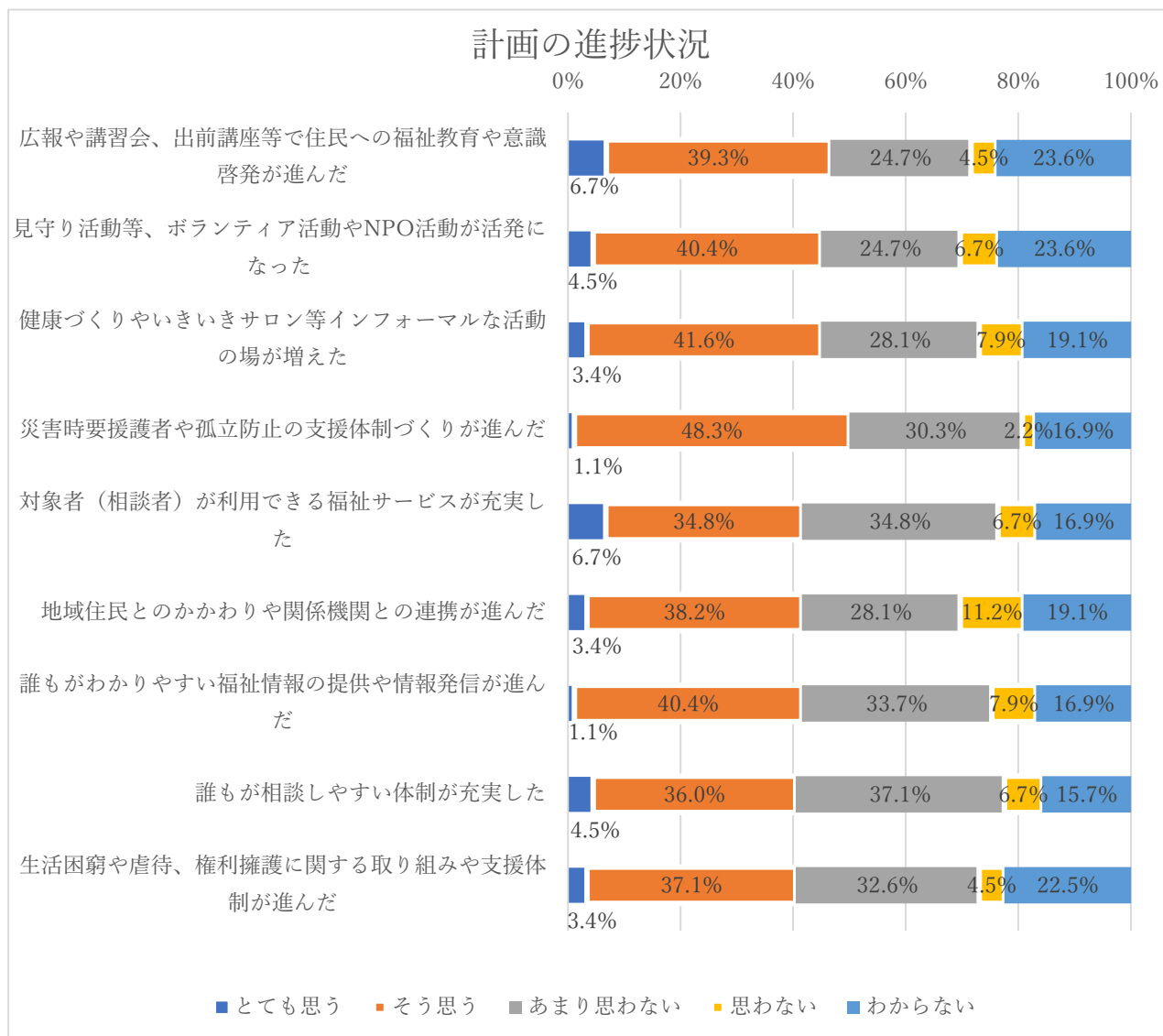


(2) 地域福祉の進捗状況に関すること

問1 以下の項目は計画の中で、市や社協が推進していくこととしてあげられた内容です。計画策定前（平成27年頃）と比較してどの程度進んだと感じますか。（1～5の該当する番号を1つ選んで○）

「とても思う」と「思う」を合計した割合の高い回答は、「災害時要援護者や孤立防止の支援体制づくりが進んだ」49.4%、「広報や講習会、出前講座等で住民への福祉教育や意識啓発が進んだ」46.0%、「健康づくりやいきいきサロン等インフォーマルな活動の場が増えた」45.0%の順になっています。

一方で、「あまり思わない」「思わない」を合計した割合の高い回答は、「誰もが相談しやすい体制が充実した」43.8%、「誰もがわかりやすい福祉情報の提供や情報発信が進んだ」41.6%、「対象者が利用できる福祉サービスが充実した」41.5%となっています。



■計画の進捗状況

(単位：人)

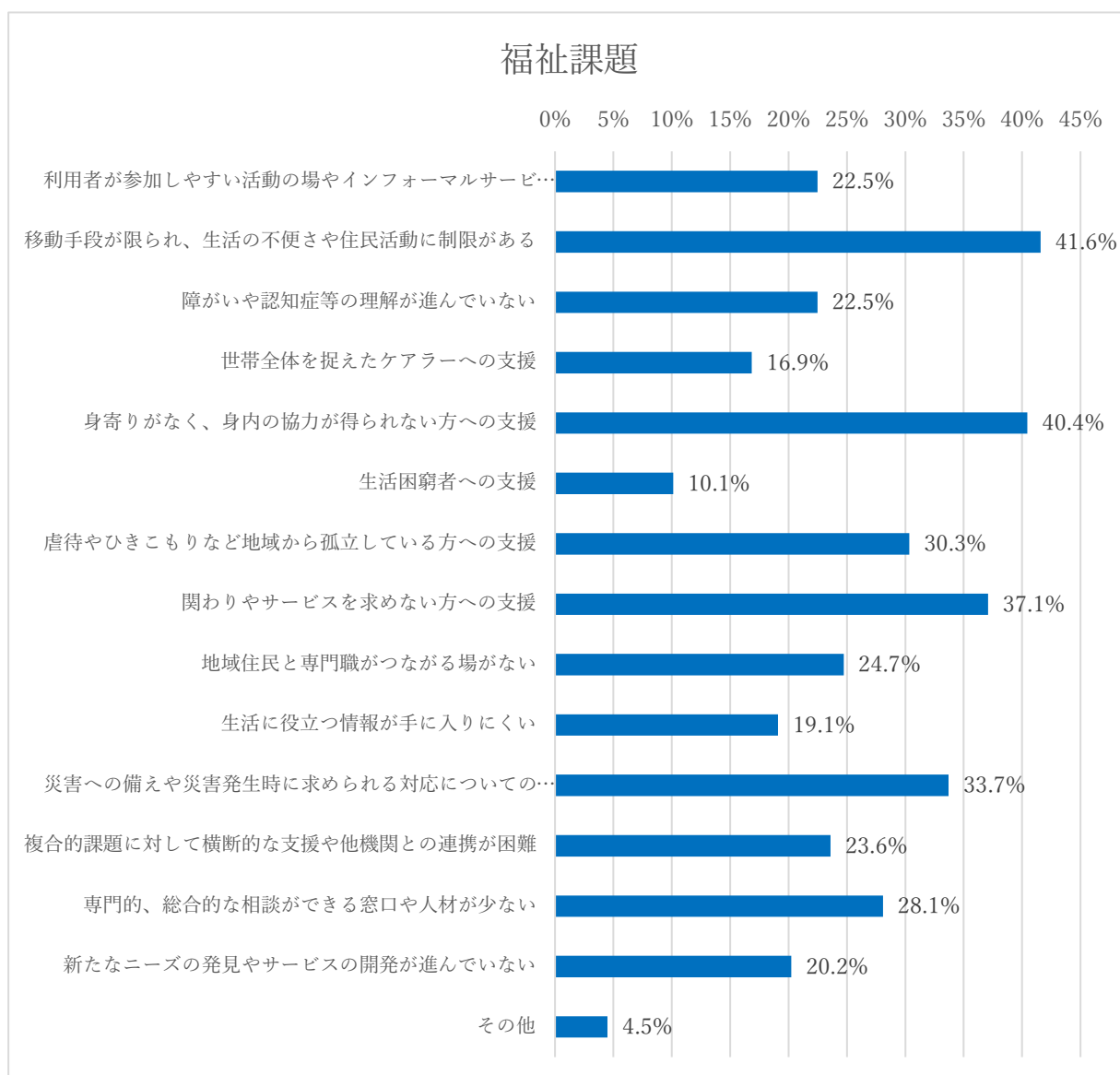
(単位：%)

	とても 思う	そう思う	あまり 思わない	思わ ない	わか ら ない	無回答	合計
広報や講習会、出前講座等で住民への福祉教育や意識啓発が進んだ	6	35	22	4	21	1	89
	6.7	39.3	24.7	4.5	23.6	1.1	
見守り活動等、ボランティア活動やNPO活動が活発になった	4	36	22	6	21	0	89
	4.5	40.4	24.7	6.7	23.6	0	
健康づくりやいきいきサロン等インフォーマルな活動の場が増えた	3	37	25	7	17	0	89
	3.4	41.6	28.1	7.9	19.1	0	
災害時要援護者や孤立防止の支援体制づくりが進んだ	1	43	27	2	15	1	89
	1.1	48.3	30.3	2.2	16.9	1.1	
対象者(相談者)が利用できる福祉サービスが充実した	6	31	31	6	15	0	89
	6.7	34.8	34.8	6.7	16.9	0	
地域住民との関わりや関係機関との連携が進んだ	3	34	25	10	17	0	89
	3.4	38.2	28.1	11.2	19.1	0	
誰もがわかりやすい福祉情報の提供や情報発信が進んだ	1	36	30	7	15	0	89
	1.1	40.4	33.7	7.9	16.9	0	
誰もが相談しやすい体制が充実した	4	32	33	6	14	0	89
	4.5	36.0	37.1	6.7	15.7	0	
生活困窮や虐待、権利擁護に関する取り組みや支援体制が進んだ	3	33	29	4	20	0	89
	3.4	37.1	32.6	4.5	22.5	0	

(3) 地域の課題に関すること

問2 日頃の業務の中で、久喜市の福祉課題として強く感じていることは何ですか。
(〇は5つまで)

課題と感じていることでは、「移動手段が限られ、生活の不便さや住民活動に制限がある」41.6%、「身寄りがなく、身内の協力が得られない方への支援」40.4%、「関わりやサービスを求めない方への支援」37.1%が上位にあげられています。



その他

- ・ 特にない
- ・ よくわからない
- ・ 児童福祉と障害福祉の連携
- ・ 窓口や専門員が対応しても変わらない又は専門員の経験の中での事例もない
- ・ 介護タクシーが少なくなった

■福祉課題と感じていること

(n : 89人)

取組み内容	回答数	比率
利用者が参加しやすい活動の場やインフォーマルサービスが少ない	20	22.5
移動手段が限られ、生活の不便さや住民活動に制限がある	37	41.6
障がいや認知症等の理解が進んでいない	20	22.5
世帯全体を捉えたケアラーへの支援	15	16.9
身寄りがなく、身内の協力が得られない方への支援	36	40.4
生活困窮者への支援	9	10.1
虐待やひきこもりなど地域から孤立している方への支援	27	30.3
関わりやサービスを求めない方への支援	33	37.1
地域住民と専門職がつながる場がない	22	24.7
生活に役立つ情報が手に入りにくい	17	19.1
災害への備えや災害発生時に求められる対応についての情報が広まっていない	30	33.7
複合的課題に対して横断的な支援や他機関との連携が困難	21	23.6
専門的、複合的な相談ができる窓口や人材が少ない	25	28.1
新たなニーズの発見やサービスの開発が進んでいない	18	20.2
その他	4	4.5

問3 問2で回答いただいた課題や、日頃から既存のサービスだけでは対応が難しいと感じる課題や気になる相談に対して、解決に向けた新たな取り組みや活動等、ご提案がありましたら、ご記入ください。

居宅介護支援事業所

- ・ ひとり暮らしや高齢者世帯などの支援の際、介護保険サービスや別居のご家族のフォローではカバーしきれず、民生委員さんや自治会長さんなどとの連携が必要と感じる場面が多々あるが、お名前も連絡先もわからない状態。民生委員さんなどと顔見知りの関係ができて、お互いに相談しやすい関係づくりができる場があると良いと思います。
- ・ コロナにより、熱発や家族が濃厚接触者となると訪問や通所などのサービスが利用できない。また、発熱外来に行きたくても介護タクシーが利用できない。
- ・ 見守り支援ロボットなどツールを活用した見守り体制づくり
- ・ 自治会や民生委員、社協、包括とケアマネジャーの連携強化
- ・ 独居で身寄りのいない方が増加しているものの、元気なうちは本人にその気が無く制度利用しない。必要な時には本人判断能力無く、成年後見制度等利用になるが時間を要す。または手続き難航し、宙ぶらりん状態となる。身元保証がないことで入院や施設利用に制限ができる。日常生活上も多々問題あり。身元保証の代行手続きやつなぎ事業等、今後必要性が高まっていくと考えます。
- ・ インフォーマルサービスなどコロナの状況であり、ひとり暮らしの方など、訪問、状況確認など難しいと思うが、地域を支えることができるサービスなど有ればよいと思います。
- ・ 今後一人暮らしの高齢者が増加して行きます。その人達の足が不足して行くのではないかと考えられます。
- ・ 災害発生時に本人や家族だけでは避難等の対応ができない世帯への支援
- ・ 買い物、受診といった交通手段で、困っている方が多い。介護タクシーが自費という事業所がほとんどで、高額なため諦めてしまう方が多い。付き添いにも悩むことあり。
- ・ 高齢世帯で近くに買い物の店がなくなっていく。デマンドバスも取りにくい。ボランティア等があれば、介護保険以外のサービスで整えることも重要と思う。

介護保険サービス事業所・施設

- ・ 当事業所は小規模デイサービスなので、久喜市を主体として行政が積極的に事業所を提案、案内していただければケアラーや利用対象者ご本人の選択肢が増えると思う。
- ・ 無料の電話や窓口対応のできる場を、回覧板やポスティングチラシなどで地域住民への情報提供を行い、表に出られない状況の方への材料を増やしたらどうか。
- ・ 一人で生活されている方へのサービス、支援
- ・ 各専門職のつながりと連携

- ・ インターネットの活用は良いと思うが、良い情報があっても探せないという意味がない。事業所にチラシやパンフレットを置けば知る機会が増える。
- ・ 認知症を改善する取り組みを行ってほしい。
- ・ 通所介護の仕事の中で老々介護の方が常に不安に思う気持ち、ちょっとした相談ができる窓口があまりないと痛感しています。
- ・ 地域の住民として、お手伝いできる仕事(不安の解消、提案、体調不良の確認等)をできるだけ行い、包括に連絡する等心がけています。
- ・ 便利屋さんのような介護サービスとちがう、すきまをうめるようなサービスが今後さらに必要になるのではないのでしょうか
- ・ 障がいや認知症の言葉は深く浸透したと思うが、内容の理解は進んでいないのでこれからも啓発が必要と思います。
- ・ 介護保険サービスを知りたいのに市役所の対応が悪かったなどのお声を多数伺います。またサービス自体を知らない方も多くいる。地域内で差がある。フリーペーパーや広告等全体で福祉、介護に関心興味を沸くような試みをしていくのがよろしいと思います。
- ・ コロナ禍で人と人との交流がしづらいたと思うが、情報であったり各種サービス内容や使い方等を知るには、文書やチラシで見るだけでなく、やはり専門職の方から分かりやすい説明とサービス利用への後押しが必要となるため、多くの各種機関の連携の強化が必要と思われる。

障がい児者福祉サービス事業所・施設

- ・ グループホームという障害のある方の地域生活を支える施設のひとつとして、支援を行っているが、ひとり暮らしを希望される障害のある方に対して、新規のアパートがなかなか見つからない状況がある。事業所としてできることを探しているが、漠然と地域住民への障害理解ではなく、不動産屋などを巻き込んだ取り組みができないだろうか。
- ・ 障害が軽度とされる方に対しての移動手段が少なく、金銭面での負担が大きい。移動支援の時間数を増やす、介護タクシー等、金銭面の減額等、課題が多いように思う。
- ・ 久喜市の福祉課題、現状をよく勉強していませんので、この課題がよくなってほしいという願望で書かせていただきました。
- ・ 困難事例等に関する対応のフロー化や職員の専門性の向上、事例対応手段(方法)の情報共有するしくみづくり等を希望します。
- ・ 障害を持つ子どもの保護者支援は、現在相談支援と放課後等デイサービス事業所が担っているが、専門性に乏しく適切な受け皿になっていないのではないかと思う。行政と学校と事業所の連携をとりまとめるリーダー役として、担当課が行っていただけたら良いと思う。
- ・ ひきこもり(自閉症、重度知的障がい)でサービスや関わりを本人が求めない。家族の負担、その強いこだわり等の理解が進まない。災害時等、家族でも対応は難しい。外での連れ出しは不可能。
- ・ 家族、世帯主が腰痛等のため働けず、病弱に近い母が仕事に出ている。その子はこだわり、パニック等あり学校も不登校がち。複合的課題。
- ・ 障害のある人の支援の柱は社会参加と自立にあります。社会参加を通して自立を

育むのは重要な機会となります。しかし、公共の交通機関を利用することが困難な人の場合は、福祉サービスによる移動を活用することになりますが、現状は制限の範囲が狭いという課題がありますので、移動手段の拡充が必要かと考えます。

子育て支援機関・施設

- ・ 困っていることがあっても相談される方と相談する方の目線の高さが違うと感じる。どこでもなんでも相談できる窓口が一つあれば、そこから必要部署を教えてつなげてくれるシステムがあれば、どこに相談してよいかあきらめなくてすむと思います。
- ・ コロナ禍が収束しない現状です。民生委員さんなども訪問や面接ができず、一方住民は交流や通院検診を控えたりしている。一人暮らし、病人、老人、母子貧困家庭の抱える悩みが、膨らんでいるのではないのでしょうか。わし宮団地でも孤独死される方がひとりふたりと出ています。

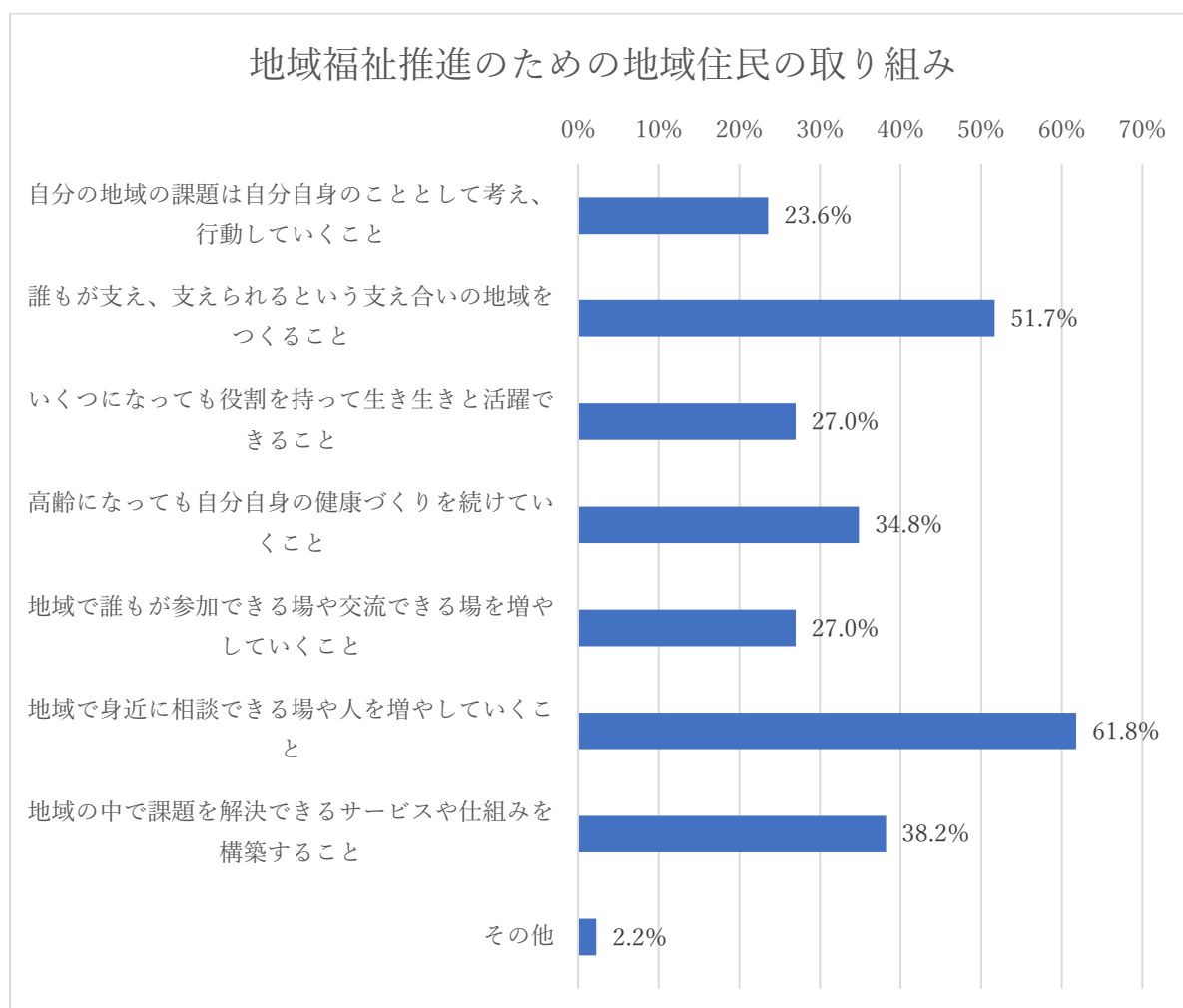
病院・薬局

- ・ デマンドタクシーの予約がとれず使用できないと相談されたことがあります。
(通院に使用できない)
- ・ 一人暮らしの高齢者を把握し、サポート体制を構築する。コロナ禍で不安になっている人が多いと思います。
- ・ 対象者がこもりがちなので情報入手の手段がわからない方が多いのではないか。

(4) 今後の地域福祉の推進について

問4 これからの計画の中で、対象者に関わる地域の住民自身に取り組んでいくこととして、望ましいと思う内容は何か。(〇は3つまで)

地域の住民自身に取り組んでいくこととして、「地域で身近に相談できる場や人を増やしていくこと」61.8%、「誰もが支え、支えられるという支え合いの地域をつくること」51.7%が上位にあげられています。



その他

- ・ ①②ができれば⑤⑥⑦は繋がっていくと思う
- ・ お茶のみ友達の和などの近隣の交流の場を増やしていく

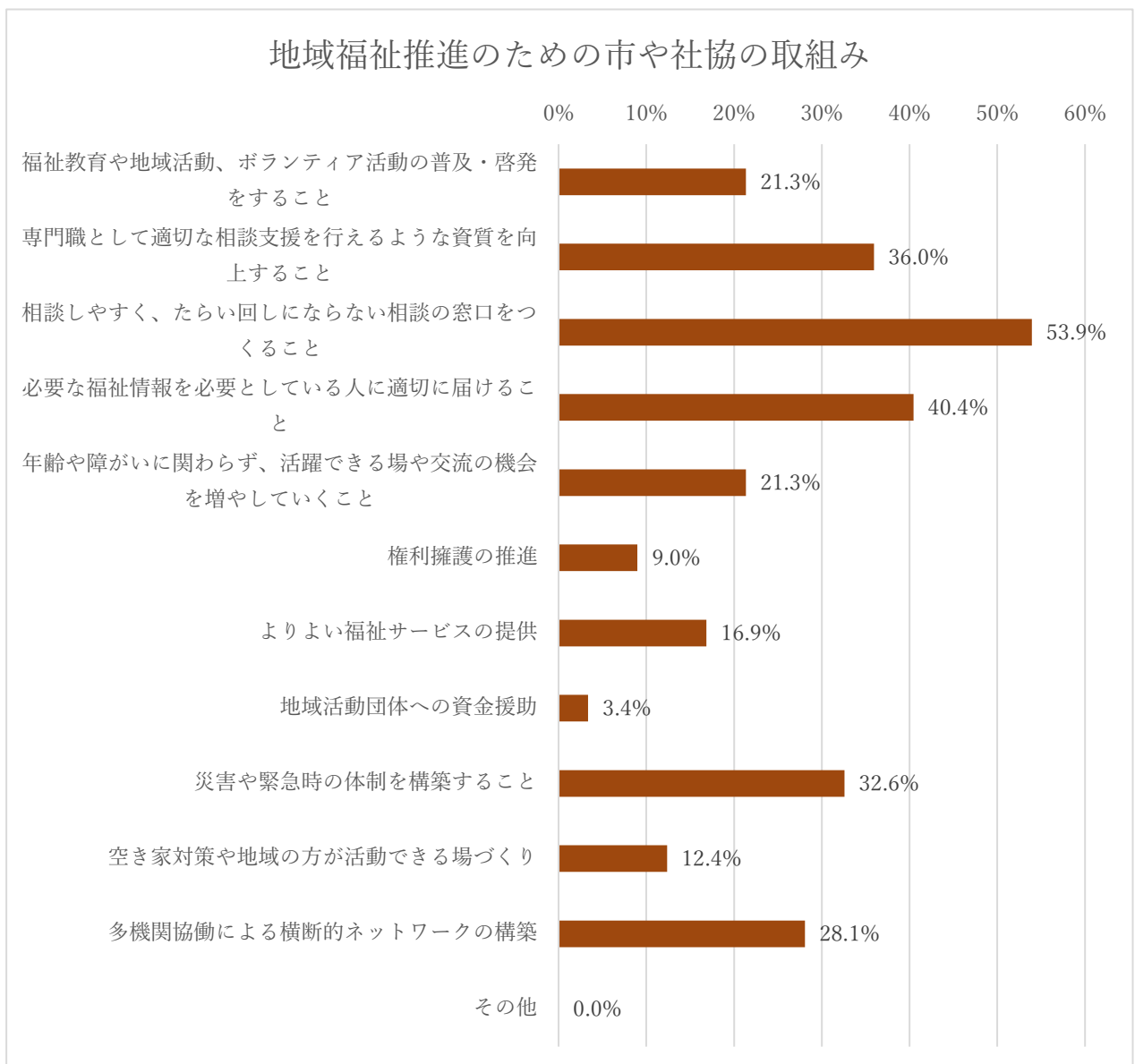
■地域住民の取組み

(n : 89人)

取組み内容	回答数	比率
自分の地域の課題は自分自身のこととして考え、行動していくこと	21	23.6
誰もが支え、支えられるという支え合いの地域をつくること	46	51.7
いくつになっても役割を持って生き生きと活躍できること	24	27.0
高齢になっても自分自身の健康づくりを続けていくこと	31	34.8
地域で誰もが参加できる場や交流できる場を増やしていくこと	24	27.0
地域で身近に相談できる場や人を増やしていくこと	55	61.8
地域の中で課題を解決できるサービスや仕組みを構築すること	34	38.2
その他	2	2.2

問5 これからの計画の中で、市や社協が取り組んでいくこととして、望ましいと思う内容は何か。(〇は3つまで)

市や社協が取り組むこととしては、「相談しやすく、たらい回しにならない相談の窓口をつくること」53.9%、「必要な福祉情報を必要としている人に適切に届けること」40.4%、「専門職として適切な相談支援を行えるよう資質を向上すること」36.0%が上位にあげられています。



■市や社協の取り組み

(n : 89人)

取組み内容	合計	比率
福祉教育や地域活動、ボランティア活動の普及・啓発をすること	19	21.3
専門職として適切な相談支援を行えるよう資質を向上すること	32	36.0
相談しやすく、たらい回しにならない相談の窓口をつくること	48	53.9
必要な福祉情報を必要としている人に適切に届けること	36	40.4
年齢や障がいに関わらず、活躍できる場や交流の機会を増やしていくこと	19	21.3
権利擁護の推進	8	9.0
よりよい福祉サービスの提供	15	16.9
地域活動団体への資金援助	3	3.4
災害や緊急時の体制を構築すること	29	32.6
空き家対策や地域の方が活動できる場づくり	11	12.4
多機関協働による横断的ネットワークの構築	25	28.1
その他	0	0

問6 第3次久喜市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定にあたり、ご意見がありましたら、自由にお書きください。

居宅介護支援事業所

- ・ 地域で安心して生活できるような仕組みを望みます。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、地域のつながりや支え合い機能は後退したように思います。地域住民の一人一人が地域共生社会に関心を持ち、意識を高められるよう、また、地域で課題解決できる仕組みの構築をお願いします。

介護保険サービス事業所・施設

- ・ いつも施設サポートをありがとうございます。地域における介護施設としてこれからも社協と交流の場を持ち、住みよい街づくりのお手伝いが継続できるよう努めてまいります。
- ・ 小規模事業所の紹介をしてくだされば、更に利用者、そしてそのご家族様に寄り添ったユマニチュード確立に役立てると感じています。
- ・ 自立支援介護に力を入れてほしいです。

障がい児者福祉サービス事業所・施設

- ・ 久喜市内にも新しい事業所が立ち上がると話題にのぼることが増えるが、同時に支援の質についても話が入ってくる。新しい事業所が孤立せず、同種の事業所同士のつながりを作り、地域全体で支援の質をあげていけないか。
- ・ 障害者デイサービスの民間委託計画は大変心配しているところです。市民一人ひとりの安心安全な生活を一番に考えていただけたらと思います。
- ・ ひきこもり(自閉症、重度知的障がい)でサービスや関わりを本人が求めない。家族の負担、その強いこだわり等の理解が進まない。災害時等家族でも対応は難しい。外への連れ出しは不可能、に対して取り組んでいただきたいです。
- ・ 障害の重い人にとっての関わりの方法、大変難しい問題ですが、多くで考えていただきたいです。
- ・ 障害、高齢、児童、関係者の共通の場
- ・ 有償運送が余暇、買い物等で気軽に使えるとありがたいです。
- ・ 精神科の訪問診療
- ・ 不動産屋、大家の疾病や障害に対する理解が乏しく、地域での居住先探しに難航することがあるため、不動産屋や大家の理解を深める場が欲しい。
- ・ ひきこもりを主とする専門職が少ないため、ひきこもり相談を主で受けられる窓口があれば活用したい。
- ・ 市民と事業所と一緒に災害発生を想定した避難訓練の実施。
- ・ 地域の支援機関で地域福祉計画を共有できる場があるとよいと思います。
- ・ コロナ禍を踏まえた内容を加えていただくとよいかと思えます。
- ・ 放課後等デイサービスでのいじめについてもっと調べてほしい。

- ・ 職員の教育について
- ・ 市役所の人が見回りにもきて欲しい。

子育て支援機関・施設

- ・ 悩みや相談は多岐にわたり難しいとは思いますが、どうしていいかわからないとあきらめることを選択してしまう方が多く、つらさのリンクが続いてしまうことになっていくと思います。本当に楽な気持ちで訪れることができる窓口や訪問があればと思います。
- ・ 少子高齢化が、急速に進む久喜市も、一人暮らしのお年寄り、貧困家庭、単親家庭（父子・母子）が増えています。皆で助け合う地域づくりの為には、「自分さえよければよい」という考えではなく、「助け合って皆で楽しく生きる」という考えを幼少期から育てる”教育”が大切です。幼稚園、保育園、小学校、中学校の頃から、地域の皆さんと親しくふれあう機会をもつことが大切ではないでしょうか。民生委員さんの活躍にも期待しています。

病院・薬局

- ・ 高齢によって空いている家・田・畑が効果的に利用できるようなシステムをつくって他市・他県からの若い世代の移住者を増やす。

第3次久喜市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定のための アンケート調査へのご協力のお願い

「地域福祉計画」は、障がいの有無や年齢にかかわらず、住民の誰もが住み慣れた地域で、安心してその人らしい生活が送れるよう地域全体で支え合うことができる地域づくりを目指し、社会福祉法第107条に定められた、市町村が住民の参画によって策定する福祉計画（行政計画）です。

「地域福祉活動計画」は社会福祉協議会が策定し、市民やボランティア、NPO等の民間団体とともに自主的に取り組む実践計画です。

久喜市では、これまで地域福祉推進のための基盤や体制をつくる地域福祉計画と、それを実行するための市民の活動・行動のあり方を定める地域福祉活動計画の両計画を一体的に策定することで、より実効性のある計画づくりを行ってきました。

「みんなでつくる福祉のまち 第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画」

計画の期間 平成29年度から令和4年度まで

計画の基本理念 とともに生き、ともに安心して暮らすことのできる地域社会づくり

- 計画の基本目標
- 1 いきいきと自分らしく暮らすことのできる地域づくり
 - 2 お互い様の気持ちで支え合う地域づくり
 - 3 みんなで暮らせるまちづくり
 - 4 サービスを利用しやすい環境づくり

※第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画は久喜市社協のHPからご覧いただけます。

<http://www.kukishakyo.or.jp/outline/plan>

ご記入にあたって

- ・この調査は地域福祉活動実践者の方を対象としています。
- ・調査結果を他の目的に使用することはありません。



久喜市社会福祉協議会では、久喜市と「第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画」を平成29年に一体的に策定し、地域福祉の推進に取り組んできました。

問1 以下の項目は計画の中で、地域で推進していきたいこととしてあげられた内容です。お住まいの地区で、取り組めた活動について教えてください。

(あてはまるものすべてに○)

- 1 あいさつや日ごろの声かけ
- 2 福祉情報などの広報や紹介
- 3 福祉教育や研修会の開催
- 4 ボランティアや助け合い活動
- 5 サロンなどの交流活動
- 6 自主防災組織や災害対策
- 7 高齢者等への見守り支援
- 8 その他 ()

問2 以下の項目は計画の中で、市や社協が推進していくこととしてあげられた内容です。計画策定前（平成27年頃）と比較してどの程度進んだと感じますか。

(1～5の該当する番号を1つ選んで○)

取り組み	とても そう思 う	そう思 う	あまり そう思 わない	そう思 わない	わか ら ない
1 健康づくりやいきいきサロンなどの生きがいづくりの場や機会が増えた	1	2	3	4	5
2 生活に関する困りごとを相談できる場所や機会が増えた	1	2	3	4	5
3 福祉に関する情報を得やすくなった	1	2	3	4	5
4 福祉サービスが充実した	1	2	3	4	5
5 災害時要援護者の支援体制づくりが進んだ	1	2	3	4	5
6 隣近所の見守りや声かけが進んだ	1	2	3	4	5
7 ボランティア活動やNPO活動が活発になった	1	2	3	4	5
8 誰もが住みやすい福祉のまちづくりが進んだ	1	2	3	4	5

問3 今後、お住まいの地区では、どのようなことが心配だと感じていますか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 新型コロナウイルスの影響で今後の予定が立たず、交流活動ができない
- 2 集会所等拠点となる場がない
- 3 地域活動に参加しない人が多い
- 4 高齢者や障がい者等支援を必要とする方が増えている
- 5 支援の担い手がない
- 6 福祉や防災への意識が高まらない
- 7 移動手段が限られている
- 8 空き家が増えている
- 9 身寄りがない、不明な方への支援
- 10 その他 ()

令和5年からの「第3次地域福祉計画・地域福祉活動計画」に向けて、今後の地域福祉の推進について、ご意見をお聞かせください。

問4 これからの計画の中で、地域住民が取り組んでいくこととして、望ましいと思う内容を3つまで選んで○をつけてください。

- 1 自分の地域の課題は自分自身のこととして考え、行動していくこと
- 2 誰もが支え、支えられるという支え合いの地域をつくること
- 3 いくつになっても役割を持って生き生きと活躍できること
- 4 高齢になっても自分自身の健康づくりを続けていくこと
- 5 地域で誰もが参加できる場や交流できる場を増やしていくこと
- 6 地域で身近に相談できる場や人を増やしていくこと
- 7 地域の中で課題を解決できるサービスや仕組みを構築すること
- 8 その他 ()

問5 これからの計画の中で、市や社協が取り組んでいくこととして、望ましいと思う内容を3つまで選んで○をつけてください。

- 1 福祉教育や地域活動、ボランティア活動の普及・啓発をすること
- 2 専門職として適切な相談支援を行えるよう資質を向上すること
- 3 相談しやすく、たらい回しにならない相談の窓口をつくること
- 4 必要な福祉情報を必要としている人に適切に届けること
- 5 年齢や障がいに関わらず、活躍できる場や交流の機会を増やしていくこと
- 6 権利擁護の推進
- 7 よりよい福祉サービスの提供
- 8 地域活動団体への資金援助
- 9 災害や緊急時の体制を構築すること
- 10 空き家対策や地域の方が活動できる場づくり
- 11 多機関協働による横断的ネットワークの構築
- 12 その他 ()

問6 ボランティア活動や地域活動を活性化させていくために、皆さんが力を入れている内容を教えてください。

問7 地域福祉を進めていく上でご意見がございましたら、自由にお書きください。

あなた自身のことについておたずねします。

問8 あなたの年齢は？ (○は1つ)

- | | | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|-------|
| 1 | 20代 | 2 | 30代 | 3 | 40代 | 4 | 50代 |
| 5 | 60代 | 6 | 70代 | 7 | 80代 | 8 | 90代以上 |

問9 あなたの現在のお住まいの地区は？ (○は1つ)

- | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|---|------|
| 1 | 久喜地区 | 2 | 菖蒲地区 | 3 | 栗橋地区 | 4 | 鷲宮地区 |
|---|------|---|------|---|------|---|------|

ご協力ありがとうございました。

〇〇〇〇

第3次久喜市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定のための アンケート調査へのご協力のお願い

「地域福祉計画」は、障がいの有無や年齢にかかわらず、住民の誰もが住み慣れた地域で、安心してその人らしい生活が送れるよう地域全体で支え合うことができる地域づくりを目指し、社会福祉法第107条に定められた、市町村が住民の参画によって策定する福祉計画（行政計画）です。

「地域福祉活動計画」は社会福祉協議会が策定し、市民やボランティア、NPO等の民間団体とともに自主的に取り組む実践計画です。

久喜市では、これまで地域福祉推進のための基盤や体制をつくる地域福祉計画と、それを実行するための市民の活動・行動のあり方を定める地域福祉活動計画の両計画を一体的に策定することで、より実効性のある計画づくりを行ってきました。

「みんなでつくる福祉のまち 第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画」

計画の期間 平成29年度から令和4年度まで

計画の基本理念 とともに生き、ともに安心して暮らすことのできる地域社会づくり

計画の基本目標 1 いきいきと自分らしく暮らすことのできる地域づくり

2 お互い様の気持ちで支え合う地域づくり

3 みんなで暮らせるまちづくり

4 サービスを利用しやすい環境づくり

※第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画は久喜市社協のHPからご覧いただけます。

<http://www.kukishakyo.or.jp/outline/plan>

ご記入にあたって

- ・この調査は専門職の方を対象としています。
- ・調査結果を他の目的に使用することはありません。



事業所名		回答者名	
所属機関 (該当する 番号に○)	1 居宅介護支援事業所 3 障がいサービス事業所・施設 5 病院・薬局 6 その他 (2 介護保険サービス事業所・施設 4 子育て支援事業所・施設)

平成27年度に開催した専門職対象の「地域福祉推進のためのワークショップ」では、現状として①親族との関係が疎遠化②重度化及び複合的課題の世帯への対応の増加③介護者の介護負担感の増加④孤立化している世帯の増加、の4点があげられました。

その課題解決として、地域の支え合いの推進、多機関連携、情報提供等があげられ、久喜市社会福祉協議会では、久喜市と「第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画」を平成29年に一体的に策定し、地域福祉の推進に取り組んできました。

問1 以下の項目は計画の中で、市や社協が推進していくこととしてあげられた内容です。計画策定前（平成27年頃）と比較してどの程度進んだと感じますか。

(1～5の該当する番号を1つ選んで○)

取り組み	とても そう思 う	そう思 う	あまり そう思 わない	そう思 わない	わから ない
1 広報や講習会、出前講座等で住民への福祉教育や意識啓発が進んだ	1	2	3	4	5
2 見守り活動等、ボランティア活動やNPO活動が活発になった	1	2	3	4	5
3 健康づくりやいきいきサロン等インフォーマルな活動の場が増えた	1	2	3	4	5
4 災害時要援護者や孤立防止の支援体制づくりが進んだ	1	2	3	4	5
5 対象者(相談者)が利用できる福祉サービスが充実した	1	2	3	4	5
6 地域住民との関わりや関係機関との連携が進んだ	1	2	3	4	5
7 誰もがわかりやすい福祉情報の提供や情報発信が進んだ	1	2	3	4	5
8 誰もが相談しやすい体制が充実した	1	2	3	4	5
9 生活困窮や虐待、権利擁護に関する取り組みや支援体制が進んだ	1	2	3	4	5

問2 日頃の業務の中で、久喜市の福祉課題として強く感じていることは何ですか。
5つまで選んで○をつけてください。

- 1 利用者が参加しやすい活動の場やインフォーマルサービスが少ない
- 2 移動手段が限られ、生活の不便さや住民活動に制限がある
- 3 障がいや認知症等の理解が進んでいない
- 4 世帯全体を捉えたケアラーへの支援
- 5 身寄りがなく、身内の協力が得られない方への支援
- 6 生活困窮者への支援
- 7 虐待やひきこもりなど地域から孤立している方への支援
- 8 関わりやサービスを求めない方への支援
- 9 地域住民と専門職がつながる場がない
- 10 生活に役立つ情報が手に入りにくい
- 11 災害への備えや災害発生時に求められる対応についての情報が広まっていない
- 12 複合的課題に対して横断的な支援や他機関との連携が困難
- 13 専門的、総合的な相談ができる窓口や人材が少ない
- 14 新たなニーズの発見やサービスの開発が進んでいない
- 15 その他 ()

問3 問2で回答いただいた課題や、日頃から既存のサービスだけでは対応が難しいと感じる課題や気になる相談に対して、解決に向けた新たな取り組みや活動等、ご提案がありましたら、ご記入ください。

令和5年からの「第3次地域福祉計画・地域福祉活動計画」に向けて、今後の地域福祉の推進について、ご意見をお聞かせください。

問4 これからの計画の中で、対象者に関わる地域の住民自身に取り組んでいくこととして、望ましいと思う内容を3つまで選んで○をつけてください。

- 1 自分の地域の課題は自分自身のこととして考え、行動していくこと
- 2 誰もが支え、支えられるという支え合いの地域をつくること
- 3 いくつになっても役割を持って生き生きと活躍できること
- 4 高齢になっても自分自身の健康づくりを続けていくこと
- 5 地域で誰もが参加できる場や交流できる場を増やしていくこと
- 6 地域で身近に相談できる場や人を増やしていくこと
- 7 地域の中で課題を解決できるサービスや仕組みを構築すること
- 8 その他 ()

問5 これからの計画の中で、市や社協が取り組んでいくこととして、望ましいと思う内容を3つまで選んで○をつけてください。

- 1 福祉教育や地域活動、ボランティア活動の普及・啓発をすること
- 2 専門職として適切な相談支援を行えるよう資質を向上すること
- 3 相談しやすく、たらい回しにならない相談の窓口をつくること
- 4 必要な福祉情報を必要としている人に適切に届けること
- 5 年齢や障がいに関わらず、活躍できる場や交流の機会を増やしていくこと
- 6 権利擁護の推進
- 7 よりよい福祉サービスの提供
- 8 地域活動団体への資金援助
- 9 災害や緊急時の体制を構築すること
- 10 空き家対策や地域の方が活動できる場づくり
- 11 多機関協働による横断的ネットワークの構築
- 12 その他 ()

問6 第3次久喜市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定にあたり、ご意見がありましたら、自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

専門職

社会福祉法人 久喜市社会福祉協議会

本所

〒346-0011 久喜市青毛753-1 ふれあいセンター久喜内
TEL: 0480-23-2526 FAX: 0480-24-1761

菖蒲支所

〒346-0105 久喜市菖蒲町新堀38 菖蒲総合支所内
TEL: 0480-85-8131 FAX: 0480-85-8808

栗橋支所

〒349-1123 久喜市間鎌251-1 栗橋総合支所内
TEL: 0480-52-7835 FAX: 0480-52-7804

鷺宮支所

〒340-0217 久喜市鷺宮6-1-1 鷺宮総合支所内
TEL: 0480-58-9131 FAX: 0480-58-7200